

熱帯地  
に於ける

# 煙草の栽培法

(南洋叢書第五一卷)

14.5-80

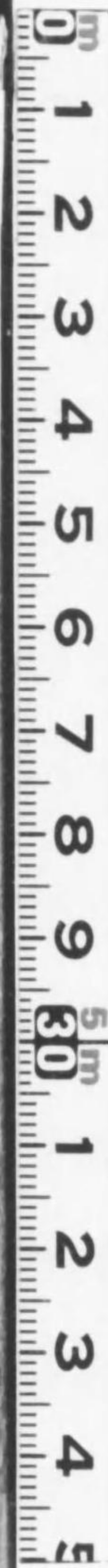


\*1200601088083\*



(ラトマス) 原産地

南洋協會支那部



# 始



### 凡 例

- 一、本書は、新嘉坡商品陳列所長増淵佐平氏が、スマトラ興業株式會社に在勤中研究し調査したるものである。
- 一、煙草栽培の事業は、熱帯企業中最も有利なる事業の一なるに拘はらず、大なる資金と、精密なる知識及び優秀なる技術とを必要とするを以て邦人の之を企てたるものがない。
- 一、本書は、技術的方面より煙草の栽培を説明せるもので、煙草栽培に志す企業家に採つては好箇の參考資料なりと信ずる。
- 一、本書は、臺灣總督官房調査課に於て印刷せるものを、鑄刻の許可を得て發行したものである。

昭和四年七月

南洋協會臺灣支部

## 自序

南洋に於て煙草を産するはボルネオの一部及爪哇スマトラにして、就中スマトラのデリ煙草は其の代表的のものなり。デリ煙草は目下和蘭及佛蘭西、白耳義、瑞西等の資本に依り栽培せらるゝと雖も、九割七分は和蘭資本にして殆んどその獨専事業なり。

而して煙草栽培の事業は過去數十年間の事業報告書に依り、何人も有利なる事業たるを認めつつあるも、適當なる土地の獲得意の如くならず、同時に特殊なる技能を要するが爲め、他資本團の良く著手し得ざる所なるべし。

往年我が資本家により栽培せられたることあるも、種々の事情に依り中止せられ今は其の跡を見ず。

筆者はスマトラ興業株式會社に在勤中、同社重役農學士菊地桿氏の指揮の下に林學士楠菊夫氏と俱にデリ煙草栽培に従事せり。時は一九二〇年にして、蘭人某氏を助手に雇ひ且つ顧問として熟練家たる獨人グルスキー氏及び蘭人デクストラ氏を招聘し、是等の忠言の下にデリ煙草栽培システムの最少限七五バウを栽培せり。斯の如き組織的栽培法は他の邦人に之を見ざる所にして、南洋栽培事業中特筆に値すべきものたるべし。更に一九二二年菊地農學士及楠林學士指導の下に、ハバナ種の試作研究をも擔任せることあり。

其の後邦人にして之に手を染むるものなきは種々の事情ありと雖も、栽培法の良く知られ居らざることを、その主因なりと云ふを得べし。

筆者は當時煙草栽培が將來邦人間に發展を見るならんと豫想し、栽培方法の細大事項を事毎にノートに納め置きたり。然るに豫想は裏切られてノートは筐底奥深く埋藏せられ在りたるに、最近に至り我が專賣局方面にて、デリ煙草の研究をなすものあるを耳にし、又臺灣に於て煙草栽培愈々旺んと成りつゝあるに鑑み、更に井上準之助氏が渡南の際實地を檢分せられ、デリ煙草のスマトラ東海岸に於ける見逃すべからざる一大事業なる事を認められしを耳にし、茲に引出して一綴とせるものにして、學説を避け、實地栽培家の手引きともならんかと、専ら作業本意に記述せるものなり。幸にして幾分にて参考とならば、筆者の光榮之に過ぎざるなり。

因に本事業は實地に當りて常に馬來語名を用ゆる品名作業名多きを以て、和蘭人同志間にて常用さるゝが如きものは勉めて馬來語を附記し、實地家の便に供せり。馬來語の綴は和蘭式にして、英領の羅馬綴りにあらざること勿論なり。

終りに菊池農學士及楠林學士の當時の指導を茲に感謝するものなり。

昭和三年九月二十五日

新嘉坡にて

增淵 佐平

熱帶地 煙草の栽培法 目次

第一章 日本の葉煙草輸出入状況……………一

第二章 蘭領印度の煙草栽培……………五

  第一節 總説……………五

  第二節 スマトラ島デリ煙草栽培の今昔概説……………七

    沿革概要―主要栽培會社及資本金―栽培・收穫面積及生産高―輸出高、輸出先及市價―主要煙草園大要

  第三節 爪哇の煙草栽培概況……………二〇

  第四節 蘭領印度各地の煙草栽培様式……………二三

    スマトラ―中部爪哇―東部爪哇―小規模栽培

第三章 デリ煙草栽培の基礎的參考資料……………二六

第一節	氣候……………	二六
第二節	デリ煙草栽培中心地の氣温—デリ地方の雨量及降雨日數 地勢及土壤……………	三一
第三節	デリ煙草栽培計畫の骨子……………	三二
第四節	栽培樣式の決定—畑地の形狀決定—開墾及整地……………	三七
第五節	栽培經營の組織と大苦力頭の人選……………	四〇
第六節	建築に關する豫備智識……………	四〇
第七節	總說—爪哇苦力舍—牛厩舍—助手宿舍—倉庫—支那苦力宿舍—大苦力頭宿舍 商店—土人書記宿舍—乾燥室—醱酵室及選別室……………	五〇
第八節	農具及什器……………	五〇
第九節	契約苦力契約證……………	五五
<b>第四章</b> デリ煙草栽培法……………		
第一節	苗圃……………	六二
第二節	位置の選定……………	六二

第一節	苗圃……………	六二
第二節	苗床の形狀……………	六二
第三節	苗床の數……………	六三
第四節	苗床の配列……………	六五
第五節	種子の選定……………	六五
第六節	播種……………	六六
第七節	播種の時期及日數……………	六七
第八節	苗床の手入……………	六九
第九節	發芽—間拔—撒水—日覆—病蟲害驅除—移植期……………	六七
第十節	本圃……………	七七
第十一節	移植地取—整地—植付順序—穴掘—施肥—移植—撒水—補植—捕蟲— 驅蟲藥—病蟲害豫防—培土—摘芽……………	七七
第十二節	收穫……………	九二
第十三節	摘葉の時期—葉の種類—摘葉方法……………	九二

**第五章**

**乾燥**

第一節	乾燥迄の基本組織	九八
	乾燥葉の區別—紹葉—吊り竿—生葉受取—乾燥室の収容量	
第二節	乾燥	一〇一
	乾燥—乾燥表	
第三節	乾燥葉の搬出	一〇四
第四節	乾燥室の構造	一〇七
<b>第六章 醱 酵</b>		
第一節	堆積醱酵に關する概念	一一二
第二節	醱酵大意	一一三
第三節	醱酵温度	一一八
第四節	堆積の型	一一九
第五節	醱酵日數	一二三
第六節	監督者の心得べき事項	一二四

<b>第七章 選 別</b>		
第一節	第一作業	一二六
第二節	第二作業	一二二
第三節	第三作業	一三三
<b>第八章 製品の包装</b>		
第一節	壓 搾	一三五
第二節	包 裝	一三五
<b>第九章 製品に對する害虫の驅除手段</b>		
<b>第十章 煙草栽培豫算書</b>		
<b>第十一章 土人煙草</b>		
<b>第十二章 臺灣煙草</b>		

## 統計表目次

第一表	葉煙草日本輸入額連年比較表……………	二
第二表	仕出國別葉煙草日本輸入額連年比較表……………	三
第三表	葉煙草日本輸出高連年比較表……………	四
第四表	スマトラ煙草栽培會社別封度當煙草實值連年比較表……………	八
第五表	スマトラ煙草栽培會社投資國別植付面積及收穫量比較表……………	九
第六表	一九一四—二六年スマトラ煙草栽培・收穫面積及生産高一覽表……………	一〇
第七表	一九一四—二六年スマトラ煙草輸出高表……………	一一
第八表	一九〇一年—二五年スマトラ煙草輸出高及平均市價表……………	一二
第九表	爪哇産各種煙草輸出高連年比較表……………	二〇
第一〇表	爪哇各地別農園葉煙草生産高連年比較表……………	二一
第一一表	爪哇クロソツク生産高並輸出高連年比較表……………	二一
第一二表	爪哇及マヅラ煙草栽培趨勢一覽表……………	二二
第一三表	スマトラ、メダン月別平均氣温表……………	二六
第一四表	スマトラ、メダン月別平均氣温表……………	二七
第一五表	スマトラ、メダン月別雨量表……………	二八
第一六表	スマトラ、テリ地方月別雨量表……………	二八
第一七表	一九一五—二二年スマトラ東海岸州月別雨量表……………	二八

第一八表 一九二二—二四年スマトラ東海岸州プロマンテ月別雨量表……………二九

第一九表 一九一五—二四年スマトラ東海岸州プロマンテ月別降雨日數表……………三〇

第二〇表 スタブルの種類、大きさ、數量、乾燥、束數表……………一一七

第二一表 堆積醱酵標準表……………一一八

第二二表 二百英反煙草栽培收支豫算書……………一四一

挿入寫眞目次

一 世界無比の稱あるシガーの上捲葉たるテリ葉……………四

二 メダン市に在るテリ煙草試験所の全景……………一九

三 八年式輪作に依る開墾作業……………三五

四 焼拂ひ跡片附の實況……………三六

    (一) 跡片附に残りたる雜株類を更に集め焼拂ひを爲す所……………三六

    (二) 助手宿舍全景……………四三

五 醱酵室作業に従事する苦力の宿舍……………四三

六 苗圃敷地を打起しつゝある所……………六三

七 種子を吹き分ける小型セントリフュガル、ボムプ……………六四

八 白牛麻即ち蚊帳地にて提燈型のものを作り優良苗の花を包み害虫の豫防を爲せる所……………六五

    (一) 右掲寫眞の蚊帳提燈は支柱一本より成るも、本寫眞のものは下を木とし、上端を竹にて作りたるものを示せるなり……………六五

九 爪哇女苦力間拔作業中の所……………六九

一〇 苗圃と幼苗……………七二

一一 ボルドー合剤をボムプにて撒布しつゝある所……………七三

一二 苗床の日覆を作りたる所……………七四

    (一) 苗床の除草作業……………七四

    (二) 苗床の覆を取り除き蚊帳(カラムプ)を帳りたる所……………七四

    (三) 蚊帳の張り方を示せる所……………七四

    (四) 四十日生の植付可能の苗を有する苗圃……………七五

一三 爪哇苦力の打起作業の所……………七八

一四 張り繩を爲し植穴を掘りつゝある所……………七九

一五 二列植式株間交互に植付けたる所……………八〇

一六 苗を抜き取り籠に入れ本圃に運搬せんとする所……………八二

一七 本圃中の排水路を掃除すると共に兩側土境を清掃しつゝある所……………八三

一八 苦力の受持區域の境界線……………八三

一九 補植を要すべきものを調べつゝある受持契約支那苦力……………八五

    (一) *Achenontia* の幼蟲が煙草の葉を喰ひつゝある所……………八五

    (二) *Chorizanthe obscurata* の幼蟲に煙草の天葉を喰害せられたる所……………八五

    (三) 殺蟲劑を撒きつゝある所……………八七

二〇 *Schenontium Kollisii* の被害に依り萎縮せる狀況……………八九

二一 煙草の畦上げ即ち培土を爲したる所……………九〇



二三	摘蒔したる後の状況	九一
二四	摘葉作業中の全景	九二
二五	煙草の收穫	九四
二六	(一) 摘葉して左手に持ち方を示せる所	九五
	(二) ヒクランに煙草の葉を入念に積みつゝある所	九五
	(三) 摘葉を終りアムメラにて包みたるヒクランを捲きパンサルに向ふ所	九五
二七	(一) 中葉の摘葉中にあるもの	九七
	(二) 天葉を摘葉せる殘骸木	九七
二八	(一) 各苦力が受持區(クホン)より運搬せる摘葉をパンサル内にて女苦力が葉の基部に鐵針にて穴をあけ	九八
	(二) 麻絲(タリ・メラー)に纏りつゝある所	九八
二九	(一) 麻絲に纏りたる葉を吊り早に結びて葉を順序よく並べつゝある所	九九
	(二) 検査済みの葉を高く葉掛木に掛けんとしつゝある所	九九
	(三) アナ・カユに順序よく並べたるものを槽に掛け、助手の検査を受くる準備を爲せるものにして計算し易き様並べらる	九九
三〇	乾燥室の内部	一〇〇
三一	(一) 乾燥終りたる葉を籠に入れて牛車に積み船酔室に運搬する所	一〇六
	(二) 籠を用ひず運搬箱に收めて牛車に積み船酔室に送るもの	一〇六
三二	(一) 乾燥室の全景にして各窓を開けつゝある所	一〇八
	(二) パンサル内の構造と番人	一〇八

三三	(一) 乾燥葉をバレルにて運搬秤量する所	一一四
	(二) 船酔室内にて乾燥室より煙草を受入れたる所	一一四
三四	(一) スタプルを堆積しつゝある所	一一六
	(二) 堆積	一一六
三五	新式船酔室	一一七
三六	船酔終りたる葉を選別室に運び入れたる所	一二七
三七	ニホンの棒を區切りとし種々に選別作業中の所	一二九
三八	(一) 選別場	一三〇
	(二) 選別作業の實況	一三〇
三九	最新式に設備せる選別場	一三一
四〇	葉の長さを選別しつゝある所	一三二
四一	選別検査済みの葉を包装すべくメレスに掛け壓縮しつゝある所	一三六
四二	(一) 包装せる製品を一定の場所に種類別に積み重ねつゝある所	一三八
	(二) 製品がスマトラ東海岸州ベラワン港にて船積せられアムステルダムに向け出帆せんとする所	一三八
四三	Lasikenna の爲め包装裏面に穴をあけられたるものなり	一三九
四四	土人煙草刻み道具	一五一
四五	(一) チヤチャンを用ひて土人が煙草を刻みつゝある所	一五二
	(二) 土人が煙草を刻みて竹筵の上に薄く並べつゝある所	一五二

挿入圖目次

第一圖 爪哇苦力舎、牛厩舎設計圖……………四一

第二圖 助手宿舎、倉庫設計圖……………四二

第三圖 支那苦力宿舎設計圖……………四四

第四圖 大苦力頭宿舎、商店、土人書記宿舎設計圖……………四五

第五圖 乾燥室平面圖……………四七

        (一) 乾燥室正面圖……………四七

        (二) 乾燥室側面圖……………四九

第六圖 或園の醱酵室平面圖……………四九

        (一) 苗床……………六三

        (二) 苗圃の圖……………六四

第七圖 發芽試驗法……………六七

        (一) 如露及種量器……………六七

        (二) 苗床の日覆圖……………七一

第八圖 苗床蚊帳下地構造圖……………七三

第九圖 一苦力受持區域の區切り……………七七

第十圖 捕蟲用竹罅……………八六

第十一圖 パリス・グリーン撒布器……………八八

目次 終

第十五圖 葉煙草の種類表示圖……………九三

第十六圖 Pikoelan……………九六

第十七圖 鋼鐵製綴葉の針……………九八

第十八圖 乾燥葉を容れる籠……………一〇五

第十九圖 バレバレ(煙草運搬器)……………一〇四

第二十圖 寒暖計を入れる竹筒……………一一五

第二一圖 堆積板及堆積用梯子……………一二〇

第二二圖 堆積方法……………一二二

第二三圖 煙草葉の各名稱……………一二七

第二四圖 選別作業場及選別方法……………一二九

第二五圖 選別の際煙草の長さを定める板……………一三二

第二六圖 煙草壓搾機(プレス)……………一三六

第二七圖 包装の型及包装縫締器……………一三七

# 熱帯地に於ける煙草の栽培法

増淵佐平述

## 第一章 日本の葉煙草輸出入状況

日本の煙草栽培は官憲監督の下に行はるゝものにして、農民の自由栽培を許さざるものなり。而して專賣法規の複雑なる手續に、一般農民は倦怠の氣味ありと聞くもその眞偽は詳かならず。筆者は明治三十八年より大正二年まで農業技手として福島、栃木の兩縣に在りし頃、職務違ひながら親しくその栽培法を目撃し、尙眞岡、茂木の兩專賣局に於ける葉煙草納入状態等をも知悉せる事ありき。又栃木縣那須郡の或る耕作者が、葉煙草一枚の爲め其の監督官と大審院まで争ひたる事は當時法曹界の問題として、耕作者の問題として將た一般社會の衆聽を傾注せしめたり。是を要するに專賣法の嚴重なる事を裏書せるものなり。其後筆者は永く海外に在りて日本の煙草栽培法を見ず、従つて如何なる程度に進歩し居るやを知らざるも、數年前より臺灣にも相當煙草の栽培行はれつゝあ

る事を承知せり。往年筆者はスマトラ島デリに於て煙草栽培に従事せることあるを以て、又同じ熱帯の臺灣煙草栽培に興味を持ち、其の將來を期待しつつあるものなり。臺灣に於て栽培成功せば、熱帯煙草の輸入を可成的に減じ得べく、延いては外國へ輸出をも爲し得るにあらすやと思ふ。今大藏省編纂の大正十四年度及昭和元年度外國貿易年表より葉煙草輸入數量を左に抜萃す。

第一表 葉煙草日本輸入額連年比較表

年	度	數量	價額	摘要
大正	八年	八三、九二六	五、二八八、〇〇〇	統計無く記載するを得ず 昭和元年以後は商工省商務局貿易課の調査に依るもの
同	九年	一一二、五二四	一〇、五三六、〇〇〇	
同	十年	二〇、二三〇	一、九一六、〇〇〇	
同	十一年	三二、二一七	四、〇〇四、〇〇〇	
同	十二年	一四〇、四三一	一三、三五五、〇〇〇	
同	十三年	七四、四〇一	六、六〇九、〇〇〇	
同	十四年	七七、一三一	八、〇三一、〇〇〇	
昭和	元年	一〇五、八九七	九、四六五、〇〇〇	
同	二年			

右表に依れば、最近五箇年間は平均八、〇〇〇、〇〇〇圓を上下し其の量約八六、〇〇〇擔にして、一擔平均約四八二圓となり、輸入高は減する傾向なく寧ろ増加するならんと想像せらる。而して是

等の葉煙草が何處より輸入せらるゝかは次表にて之を知るべし。

第二表 仕出別葉煙草日本輸入額連年比較表

國名	大正八年		大正九年		大正十年		大正十二年		大正十三年		大正十四年	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額	數量	價額
支那	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七	一、四四七
關東	七六八	一、一〇〇	七六八	一、一〇〇	七六八	一、一〇〇	七六八	一、一〇〇	七六八	一、一〇〇	七六八	一、一〇〇
英領印度	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇
比律賓	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇
英領印度	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇	一一、二九〇	五、〇八〇
佛國												
獨逸												
白耳其												
土耳其												
北米合衆國	一、四八七	一、一〇〇	一、四八七	一、一〇〇	一、四八七	一、一〇〇	一、四八七	一、一〇〇	一、四八七	一、一〇〇	一、四八七	一、一〇〇
埃及												
其他の北米												
其他の歐洲												

右表に依れば、北米合衆國よりの輸入大半を占め、支那之に次ぎ以下比律賓、英領印度の順位にして其他は極めて少量に過ぎざるなり、筆者は日本に於ける需用關係を知悉せざるも、臺灣煙草を

以てこれを補ふの方法なきやを疑ふものなり。

然るに昭和三年六月商工省商務局貿易課發行の最近三箇年本邦外國貿易要覽に依り、偶然左の記録を知るを得たり。

第三表 葉煙草日本輸出高連年比較表

價 數	大 正 十 四 年	昭 和 元 年	昭 和 二 年
量 (斤)	二、七六二、七六五	一、〇八三、九三二	六、四五二、八七〇
額 (圓)	二、四二二、〇〇〇	七三七、〇〇〇	二、〇六二、〇〇〇

一 眞 寫 入 挿

葉リテるた葉捲上の一ガシるお稱の比無界世  
(Oost indische Culturesより轉載)



本表は臺灣煙草を推奨するに意を強うするものにして、輸入は輸入として愛好家の満足を與へ、一面臺灣煙草を奨励栽培して多量に輸出を企畫することを賢明なる策なるべし。

## 第二章 蘭領印度の煙草栽培

### 第一節 總 說

蘭領印度の煙草は或る限られたる地方にのみ栽培せられつゝあり。葉卷煙草の上捲葉として世界無比の稱あるデリ煙草は、スマトラ島東海岸州デリ(Deli)を中心とし、セルダン(Serdang)ランカット(Langkut)を主産地とすべく、栽培會社は一八六九年「ニイエンプイス氏」(J. Nienhuys)の創立せるデリ煙草會社を最古のものとする。尚爪哇の土侯領たるヂョクヂヤカルタ(Djokjakarta)及ソロ(Solo)並にベスキ(Besiki)の三地方に於ても一部デリ煙草に類するものを生産すると雖も、一般的にはデリ種に及ばざること遠く、内捲葉、詰葉、刻葉の生産多しと言ふ。更に土人喫煙用粗製葉卷煙草、刻煙草、嚼煙草に類するものは比較的丘陵地に土人に依つて栽培せられ、俗に土人煙草と稱す。是等土人煙草は各地に分布栽培せらるゝものにして、バダン(Palan)の高地バヤクムブ(Pajakom Booth)地方に産する煙草は最も有名なるものなり。

中部爪哇はバラカン(Parakkan)を中心としてウォノンボ(Wonosobo)、テマンゴン(Temanggoeng)、

トウル (Toul) 地方に産額多く、生産品は支那人に依つて取引せらる。茲に特筆すべきは臺灣人の栽培家にして非常に成功せるものゝあることなり。

東部爪哇に於てはバスマアン (Basman) 州のルマヂャン (Lumajang) 地方最も栽培盛んにして、殊に最近のニュースに依れば、同郡内は煙草園を以て充たされつゝありと云ふ。斯く此の地方が本年度急激に旺盛を極むるに至りたるは獨逸人の買約多きに依る。因に刻煙草として好適すとの評を博せるものなりと聞く。尙ほケヂリ (Kediri)、バンニューマス (Banjumas) 地方も相當の産地なり。爪哇の各停車場に於てチャテ・ルンゴと稱し販賣せられつゝある紙巻煙草は内外人に知られ、爪哇獨特の紙巻煙草として其の賣れ行き旺盛を極め、爪哇以外の地方にも販賣せられつゝあり。是は爪哇で有名なるカ、オの Djati Roenggo Hybrid を創造せるチャテ・ルンゴ (Djati Roenggo) 園主の長子 E. E. T. M. Gilhary が創造せるものにして、バラカン地方の土人の栽培せる煙草を原料としたるものなり、筆者は往年園主を訪れ、其の工場を親しく見聞せることあり。

蘭領印度に於て邦人にして栽培を試みたるものに、スマトラ興業株式會社、ボルネオ殖産株式會社ありたるも、種々の事情に依り永續を見ざりしを遺憾とす。又古河合名會社も小規模に栽培せることありしも一年にして中止せりと聞く。蘭領煙草が日本へ輸入せらるゝに至らば、當地在留の邦人にして栽培に従事するもの多きに至るは當然なるべし。

## 第二節 スマトラ島デリ煙草栽培の今昔概説

**沿革概要** デリ煙草は上等葉巻上捲用として推賞せられ、同時に各栽培會社が七割乃至五割の配當を爲せるを以て、これを栽培せんとする新設會社多かりしも、非常なる經驗を要するのみならず、護謨と異なり、眞に百姓的の技術と努力とを要する爲め、實行する者甚だ少く、現今にありては、和蘭人の專賣に屬せるの感あり。英國人及米國人等は、遂に手を染めたる者なしと言ふを得べし。

抑も煙草の蘭領東印度に渡りたるは爪哇にして、一六五〇年頃、比律賓より移植せられしものゝ如し。而して一八四五年、爪哇より和蘭へ一七、〇〇〇梱の輸出を見、又スマトラよりは一八六四年に五〇梱の輸出を見たり。故にデリ地方に始めて移植せられたるは、一八六〇年前後のことゝ想像し得べし。

當時現在の首府メダンは茫々たる湿地にして膝を没し、殆んど不毛の地なりしも、煙草栽培の爲め樹木を刈拂ひ、排水路を鑿ち、漸くにして畝を高くし、栽培に著手せり。これと和蘭人が當方面に於ける最初の事業たりし爲め、土人はこれに反對し、屢々衝突を餘儀なくせられ、武装番兵を配し、

事業の遂行に努力せるなど、聞くだに戦慄すべき昔物語あり。斯の如くして、漸次地域擴大するや、今のメダンの處がカムボン (Kampoen 部落) となり、煙草栽培の事務所となり、苦力舎の敷地となり、世は移り替りてスマトラ一の首府、而も蘭領にて最も歐風化せる新都メダンとはなれり。聞く。故にスマトラでも、メダン附近は最も早く煙草栽培の行はれたる處なりと信するを得べく、今尙は同市は Deli Maatschappij (デリ・マーツカッパイ) の所有の地多く、郊外には堂々たる事務所、社宅、病院等の建物、廣きローンを前にして並び居れり。

斯くの如き犠牲と努力と奮闘の歴史に依り、世界に名だたるデリ葉が生れ、遂に煙草の主産地と謳はれるに至れり。然し今はデリの何處に到るも濕地を見ることなく、昔を忍ぶ面影さへなく、平坦たる耕地は、旅人をして熱帯の沃野千里、デリ沃野と言はしむるに至れり。

**主要栽培會社及資本金** 偕て現在デリ、ピンゼイ、セルダン、テピンテンギ等の各地方に耕地を有し栽培を繼續しつつある煙草園は左の如し。

第四表 スマトラ煙草栽培會社別封度當煙草賣値連年比較

會社名	各社の封度當り賣値		
	一九二三年	一九二四年	一九二五年
Deli-Maatschappij	三・一四仙	二・九八仙	二・〇八仙

會社名	平均價格 (封度に付)		
	一九二三年	一九二四年	一九二五年
Oultuur Mij. "De Oostkust"	二・〇六	二・四九	一・六五
Deli-Batavia Maatschappij	二・三二	二・一五	二・六二
Handelsvereniging Amsterdams	二・〇三	一・六九	一・四九
Holland Deli Compagnie	二・八九	二・一三	二・三八
Holland-Sumatra Tabak Mij.	一・五〇	二・七〇	一・四一
Rinboen-Tabak Mij.	〇・八三	一・九三	一・九九
Senembah Mij.	一・八二	三・一四	二・七九
Serdang Cultuur Mij.	一・七五	一・八〇	二・〇七
Slangghat-Sumatra Tobacco Co. Ltd.	二・二五	一・九六	二・一一
Senggel-Lipoet Cultuur Mij.	二・七五	四・一二	二・一八
Tabak Mij. "Arensburg"	二・七五	二・二六	二・二五
Tabak Mij. "Krapoh"	一・六五	一・〇八	三・六一
Tabakbau Aktiengesellschaft "Jinta Kadja"	四・四三	四・九一	三・六一
平均	二・五一	二・七二	二・三〇

是等の會社を各國資本別にして一九二六年度の植付面積及收穫量を記載すれば次の如し。

第五表 スマトラ煙草栽培會社投資國別植付面積及收穫量比較表

資本金別	植付面積	收穫量	ヘクタール當平均收穫量
和蘭	一八、二六一	一九、〇一三、四五六	一、〇四一
佛國及白耳義	三三七	五四三、〇九五	一、六一一





年	輸出高	平均市價	金額
一九〇一年	二二七、五二二	九四	三二、五五〇、〇〇〇
一九〇二年	二四二、一三二	八五	三一、二〇〇、〇〇〇
一九〇三年	二五四、六〇二	九二	三五、九〇〇、〇〇〇
一九〇四年	二二五、三六九	九五	三二、五五〇、〇〇〇
一九〇五年	二四八、四四一	九五	三二、五五〇、〇〇〇
一九〇六年	二七二、四六三	九一	三二、五五〇、〇〇〇
一九〇七年	二七一、三五八	一一〇	三二、五五〇、〇〇〇
一九〇八年	二七三、七二五	八一	三二、五五〇、〇〇〇
一九〇九年	二三四、一三三	一三一	三二、五五〇、〇〇〇
一九一〇年	二八〇、七〇四	一四二	三二、五五〇、〇〇〇
一九一一年	二八二、九二〇	一三六	三二、五五〇、〇〇〇
一九一二年	二五一、六八九	二二七	三二、五五〇、〇〇〇
一九一三年	二四六、五四三	九三	三二、五五〇、〇〇〇
一九一四年	二三二、九一一	一七八	三二、五五〇、〇〇〇
一九一五年	二三七、八九八	一八〇	三二、五五〇、〇〇〇
一九一六年	二三八、二九九	一四三	三二、五五〇、〇〇〇
一九一七年	二七五、三九二	一四二	三二、五五〇、〇〇〇
一九一八年	一四四、四六九	三〇三	三二、五五〇、〇〇〇
一九一九年	一四五、五〇七	二八四	三二、五五〇、〇〇〇
一九二〇年	一六三、六八一	一九四	三二、五五〇、〇〇〇
一九二一年	一九四、七〇八	二二四	三二、五五〇、〇〇〇
一九二二年	二〇七、八五八	二五一	三二、五五〇、〇〇〇
一九二三年	二〇七、六一八	二七二	三二、五五〇、〇〇〇
一九二四年	二一八、三七〇	二三〇	三二、五五〇、〇〇〇

し。尙ほ一九二六年度に於ける輸出先は左の如し。

輸出先	輸出量	輸出先	輸出量
和蘭	一四、九一九、四四三	比律那	九、二〇八
新嘉坡	四〇、七六二	支那	八〇〇
香港	四四、二五六	印度	二六二、八九三
彼拉加	九七、二七二	計	一五、三七五、九五六
馬拉	一、三二二		

是等はペラワン港より一五、二〇七、七二一疋、タンヂョンブラより一三四、七二五疋、タンヂョンブリンギンより三三三、二三四疋、タンヂョンテラムより二七六疋を輸出せるものなり。

第八表 一九〇一年—二五年スマトラ煙草輸出高及平均市價表

年	輸出高	平均市價	金額
一九〇一年	二二七、五二二	九四	三二、五五〇、〇〇〇
一九〇二年	二四二、一三二	八五	三一、二〇〇、〇〇〇
一九〇三年	二五四、六〇二	九二	三五、九〇〇、〇〇〇

第二章 蘭領印度の煙草栽培

備考 平均市價は一般に1.25 疋當りを言ふものにして俗に一封度とも云ふ。尙一梱は普通八〇擔に包装せらるゝものなり。  
 本表と異に示せる輸出高とは一致せず、前者は其の年に生産したるものゝ輸出高にして、本表のものは生産年度に拘らず實際の輸出数量を掲載したるものなれば前年度分も本年度分も混り居るものなり。

更に平均市價が何んな内容にあるか、又何れの會社、何れの農園のものが安く或は高く、尙ほ包装に印字せらるゝ各園のマークは、次表に依つて知るを得べし。即ち次表は一九二六年度の各園煙草販賣高及市價の事實である。

會社名	栽培園名	マ	ク	一九二六年度の事實	
				販賣高 一梱	1.25 疋市價 仙
Cultuur Maatschappij "De Oostkust"	Pabatoe	OK / Deli / P. B.	—	四、五〇一	一八六
	Goenoeng Kataran	" / G. K.	—	四、〇九二	一五一
	Padaja Linggai	" / B. L.	—	三、九六五	一五一
	Indrapoera	" / T.K.L. / OK	—	一、九〇三	一七一
總販賣高及平均市價				一四、四六一	一六五
Deli-Batavia Maatschappij	Amplas	Deli Ba. Mij. / JH	—	二、七〇六	一九四
	Caklong Djohore	" / —	—	一、二四四	三〇八
	Padang Boelan	" / SB	—	二、三三三	一七一
	Gloegoeer	" / A	—	二、九七五	三三六
	Tumbang Langkat	" / TL	—	三、〇二三	三二五
	總販賣高及平均市價				一四、四六一

總販賣高及平均市價	Deli-Maatschappij				
	園名	マ			
Deli-Maatschappij	Tandem	" / Tandem	三、一〇四	二八〇	
	Tandem Hillir	" / TH	二、九五六	三三四	
	Binolej	" / B	二、八八九	二五四	
	Padang Brabrang	" / Padang Brabrang	三、六四三	三三二	
	Paja Djandoe	" / Paja Djandoe	二、二四七	一七〇	
	Padang Tjermin	" / Padang Tjermin	二、一八〇	二五〇	
	Deerian Moelian	" / Deerian Moelian	二、八一七	二二九	
	Lan Boetoe	" / LB	三、四九〇	一九六	
	總販賣高及平均市價			三五、五九六	二六二
	Deli-Maatschappij	Moelan	" / A	三、二四四	一九四
		Belawan	" / C	二、四九〇	一九〇
		Besala	" / D / Langkat	一、八一三	二〇五
		Tandjong Djati	" / E	二、六一五	一八八
		Loeboe Dalam	" / H	三、五〇二	二七五
		Boelo Tjina	" / K	二、五八一	三八九
Bandar Klippa		" / L	二、八三二	一七〇	
Tyantoengan		" / M	二、九八五	二二一	
Marindal		" / P	二、八二〇	三〇七	
Sumpati		" / AB	三、六〇四	二八七	
Helvetia		" / HD	二、〇七二	二〇六	
Sekaranda-Sekaralja		" / KB / Langkat	二、五六八	二六七	
Quala Begemiti		" / KB / Langkat	二、一五三	二五七	

第二章 蘭領印度の煙草栽培

總販賣高及平均市價	總販賣高及平均市價	總販賣高及平均市價	總販賣高及平均市價
Handelsvereniging "Amsterdam"	Ladwigoburg	Langkat / HVA / HL	七九,四五四
Holland Deli Compagnie	Delok Masihbel	Holland Deli Compagnie / DM / Deli	一,六七八
Holland Langkat Tabak Mij	Gloeger	Holland Langkat	二,三八〇
Holland-Sumatra Tabak Mij	Soenget Bannan	Hol. Sunn. Tab. Mij / R MG / Sunn.	八〇六
Sembah Maatschappij	Tandjong Morawa	Sembah Maatschappij	一,六三四
	Tandjong Morawa Kiri	" / K	四,八九三
			三,七五二
			二〇八
			一四九
			二三八
			一七六
			一四一
			二四九
			三二九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三
			二六二
			三四六
			一七一
			二四九
			一四八
			四三二
			一八四
			一四四
			五四
			一一七
			五〇八九
			三,四五九
			三,三二七
			一,五四六
			二,七二四
			二,一四五
			三,一二六
			一,五八三
			二,〇二七
			二,七五〇
			二,三八八
			二,二三九
			一六二
			一七九
			一五〇
			二〇三

總販賣高及平均市價			
Kloempang	Manali Angin/Deli 又 F/Deli	四、三〇七	二二五
Klanbir Limau	Tanjong Peoses/Deli 又 L/Deli	三、三七一	
Smentis	P. C. M./Deli 又 S/Deli	三、二九三	三、七七五
Malabar	" /M 又 M/Deli	三、七五五	
總販賣高及平均市價		二〇、三二六	二二五
Tabakbau Aktiengesellschaft "Yinta Radja"	TTR/Langkut	一、七四一	三六一
Cultuur Maatschappij "Priok"	Cultuur Mij. /Priok/CI/Deli	五、一五	九六
Joh. Lohmann Erben	J. L./Sci./Boetoe/Deli	二、五	一四一

本表に依り各會社の内容を知るに充分なるべし。而して欄の最右端平均市價は本章の煙草園と其葉の賣値との數字に一致するものなり。

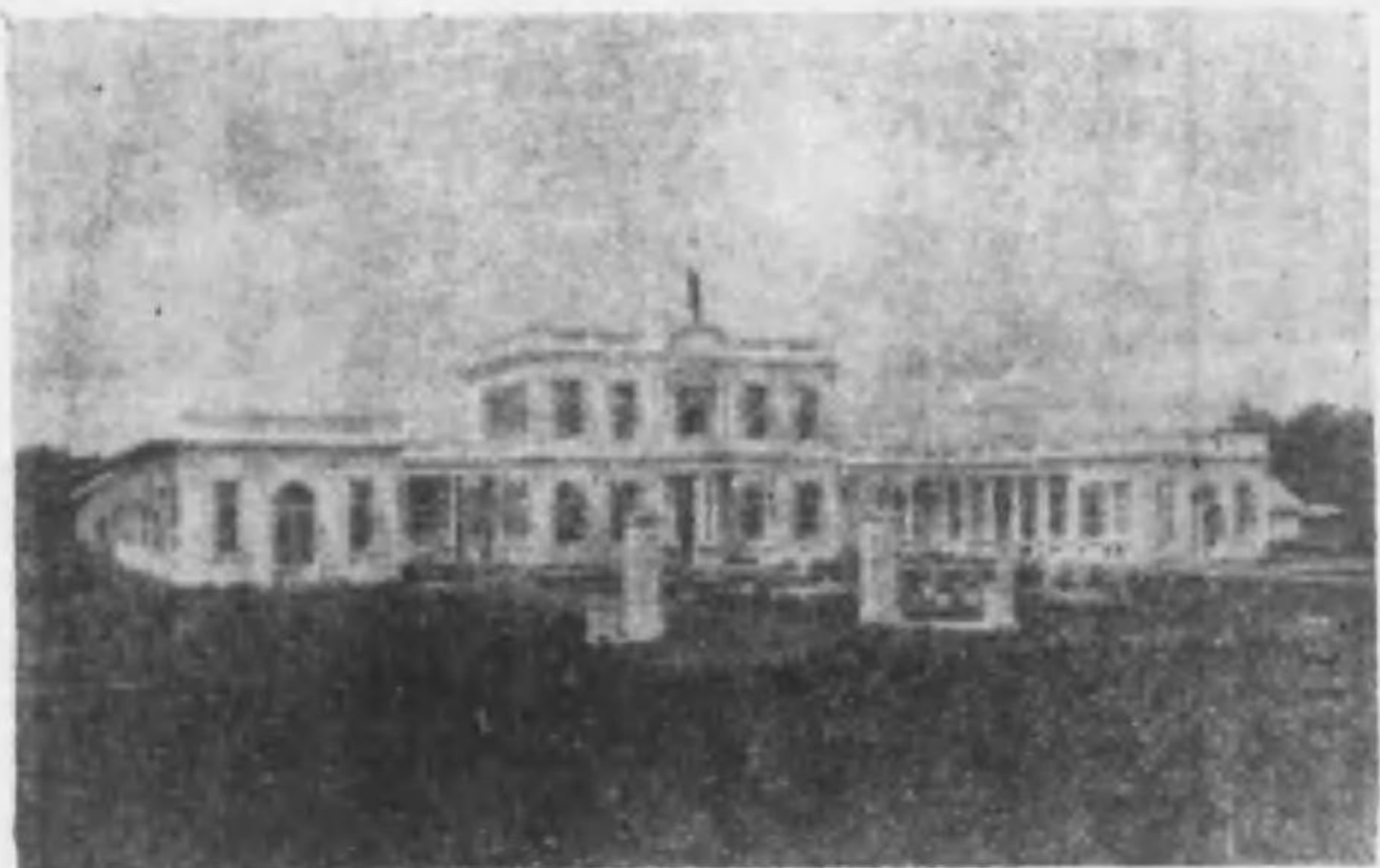
主要煙草園大要 尙は是等各會社の中、最も有名にして而かも堅實なるものゝみにつき聊か説明せん。

(1) Deli-Maatschappij (デリ・マーツカッバイ) は最も著名なる會社にしてメダン市に事務所を有し且つ莊大なる病院あり。一般人の診察治療入院の自由を許し、又困窮者には無料入院治療を施すなど、規模大にして而も權威あるドクトル數名在り、嘗ては日本の某高官軍醫も在りしことあり、デリ・マーツカッバイの名は、デリに於て赤兒もこれを知らざるものなし。

同會社の一九二五年度に於ける株價は四〇九盾なりしも、一九二六年度には四二五盾に昇れり、因に同會社は二四の農園を有す。

(2) Deli-Batavia Maatschappij (デリ・バタビア・マーツカッバイ) も規模大きく一三の農園を有す。同社の株價は一九二五年四三四盾の處、一九二六年四四四盾に昇れり。

(3) Zemenhah Maatschappij (ゼヌムバ・マーツカッバイ) も一三園を有し、事務所はタンジョンモラワにあり。社宅、事務所、病院等はさながら大は資本金三六、〇〇〇、〇〇〇盾にして、和蘭皇室も出資し居るやに聞く。煙草園は僅かにト園に過



二 眞寫入挿 景全の所驗試草煙リテる在に市ンゲメ (Oost indische Cultures より轉載)

公園に似たるものあり、株價は一九二五年五〇三盾のものは一九二六年には四二二盾に暴落せり。收穫減もあるが、經營面白からざりしに因るべし。

(4) Tabak Maatschappij "Arensburg" (タバコ・マーツカッバイ) は六園を有し、株價一九二五年五二二盾の處、一九二六年五九〇盾に昇れり。

(5) Handelsvereniging "Amsterdams" ハンデルスフレーニンゲン・アムステルダム

ぎざるも、茶、護謨、マニラヘンプ等の栽培園を有し、スマトラ栽培會社中最も大なるものなり。一般に此の會社名をハヴァ(H. V. A.)と稱す。株價一九二五年六三七盾なりしも一九二六年には六九九盾に騰貴し、成績良好なり。

又メダン市には寫眞に示せるが如き、最新式の構造に成る試験所(Deli Proefstation)あり、多くの科學者を網羅し、地質分析、採種、選種、施肥、病蟲害豫防、其他耕作、調製上に關する研究を續けつゝあり。

### 第三節 爪哇の煙草栽培概況

爪哇煙草に關する統計を列記すれば左の如し。

Annual Report of the President of the Java Bank 1925に據れば輸出高は左の通りである。

第九表 爪哇産各種煙草輸出高連年比較表

種目	一九二二年	一九二三年	一九二四年
粗葉煙草	一五、六九七、〇〇〇 <small>担</small>	一三、三七一、〇〇〇 <small>担</small>	一六、九九二、〇〇〇 <small>担</small>
草	二〇、四〇六、〇〇〇	二四、二二九、〇〇〇	三三、〇五八、〇〇〇

刻煙草	一九二二年	一九二三年	一九二四年
計	一四三、〇〇〇	一五三、〇〇〇	九七、〇〇〇
	三六、二四六、〇〇〇	三七、七五三、〇〇〇	五〇、一四七、〇〇〇

更に同報告書の一九二七年のものに據れば

爪哇及マツラ	一九二四年	一九二五年	一九二六年
	五〇、七四二、〇〇〇 <small>担</small>	七四、九五六、〇〇〇 <small>担</small>	五八、四七七、〇〇〇 <small>担</small>

今又 De Landbouwexportgevens van Nederlandsch Indie in 1927より諸表を左に掲載すべし。

第一〇表 爪哇各地別農園葉煙草生産高連年比較表

地方	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
スラカルタ	七七六、二七 <small>担</small>	八四四、七五 <small>担</small>	八六七、五八 <small>担</small>	一〇〇〇、〇八 <small>担</small>	九二六、二七 <small>担</small>
ベス・ス・キ	五、〇〇四、八九	四、八〇一、七四	五、四八八、二五	五、八七四、四〇	五、八八八、九六
ゲヨクヤヤカルタ	一、〇八〇、三五	八一九、四〇	九八九、一六	一、〇九〇、二二	一、〇三六、四七
其他	三〇、四九七	一九九、二七	一八七、五〇八	二六二、二六	一五三、三〇
計	一三、八四三、八九	一四、二五四、九五	一五、五〇一、四八	一七、一六〇、六八	一六、二七二、九九

第一一表 爪哇クロソツク生産高並輸出高連年比較表



シラン草の繁茂を防ぐ手段を講ずる所もあり。要するにスマトラの煙草栽培にありては、斯の如き輪作法に依るを以て、栽培面積の六倍乃至八倍の地積を常に必要とすべし。

**中部爪哇** 中部爪哇即ちソロ、デョクヂャ方面に於ける栽培は、多く水稻と交々行はれ、普通二年輪作を爲す。同州には特別の土地貸借法ありて、租借面積の五分の一は地方土人の用に供せしめられ、残り五分の四を栽培區域とす。故に毎年四〇〇バウを耕作せんとせば一、〇〇〇バウの地積を要するものなり（一バウは我七・一五六反に當る）。

**東部爪哇** 日本部爪哇ベスキ州の煙草園は二、三官有地の永租借権を有するものある外、總て土人又は村落占有の耕地を、五箇年以内の短期借入れを爲すを普通とす。又土人に煙草耕作の請負を爲さしむるの方法等あり。一樣ならざるなり。

**小規模栽培** 更にスマトラ爪哇の各地に栽培せらるゝ小規模の煙草栽培は、何等の様式無く谷に或は丘に規則的栽培を爲さず。畝を設けるもの、設けざるもの等あり。恣に耕作するもの多しとするも、スマトラ地方のものよりは爪哇地方に稍々見るべきものあり。

以上の如き状態にあると共に 土質氣候を異にするが爲め、栽培方法亦異れり、然して品質の優良なる、價額の高價なる、又以て歐洲人の多くが栽培するデリ煙草は蓋し蘭領印度煙草の代表なり。筆者は爪哇煙草に就ては經驗を有せざれども、幸ひデリ煙草栽培に就ては、開墾より醱酵、選別、荷造

に至るまで、直接其の業に従ひ、尙ほ其後に於ても興味を有し、煙草栽培研究に従事せるを以て、次章よりデリ煙草の栽培法を述べんとす。

デリ煙草の栽培方法は、爪哇煙草及土人煙草にも之を取捨應用することに依り、益々有利に導き得ることは勿論なりと信ず。

### 第三章 デリ煙草栽培の基礎的參考資料

#### 第一節 氣候

デリ煙草栽培中心地の氣温 デリ煙草栽培の中心地たるスマトラ東海岸州メダン測候所（海拔七七呎の地點にあり）の五箇年間毎月平均氣温を示せば次の如し。

（五箇年平均は何年頃のものか判明せず）。

第一三表 スマトラ、メダン月別平均氣温表 一（華氏）

一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
七五九	七五五	七六六	七八八	七九五	七八六	七八四	七八三	七七九	七七三	七六八	七六六	七五九

最高氣温 九六・一 最低氣温 六四・二

備考 一九二六年四月商務大臣に報告せる、米國商務省内外貿易局護謄課長エツチ、エンヌ、ホワイトフォード氏指揮の下に、編纂されたる南洋の護謄栽培事業南洋協會發行のものより採萃す。

尙ほ「蘭領東印度に於ける煙草栽培法」（臺灣總督官房調査課發行）より採萃すれば左の如し。

第一四表 スマトラ、メダン月別平均氣温表 二（攝氏）

月	別	正	午	午後	五時	最	高	最	低
一	月		二八・四		二七・〇		三一・一		二一・一
二	月		二九・二		二七・八		三一・六		二一・〇
三	月		三〇・五		二八・二		三二・六		二一・〇
四	月		三〇・五		二八・三		三二・七		二一・五
五	月		三〇・一		二八・一		三二・四		二一・八
六	月		三〇・三		二八・五		三二・七		二一・六
七	月		三〇・六		二八・六		三三・〇		二〇・九
八	月		三〇・一		二八・二		三二・五		二一・一
九	月		二九・五		二七・五		三一・七		二一・二
十	月		二八・五		二六・八		三〇・六		二一・三
十一	月		二八・七		二六・七		三〇・六		二一・三
十二	月		二八・五		二六・七		三〇・四		二一・四

備考 但し本表は何年度頃のものか又何箇年平均なるや不明

右表は攝氏なるを以てこれを華氏に換算するには  $F = \frac{9}{5}C + 32$  に依るべし。Fは華氏、Cは攝氏

而して兩表を察するに、前者は一九二三年以前のもの、後者は一九一六年以前のものなるべし。デリ地方の雨量及降雨日數 左に掲ぐる雨量表は、前同様「蘭領東印度に於ける煙草栽培法」よ



り拔萃せるものにして、何年度のものなるや不明なり。

第一五表 スマトラ、メダン月別雨量表

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
一九二二年	二五	一三	七	一七	一四	一七	一六	一九	三三	三五	二四	三五	二二七

単位：耗

左表は大正十三年十一月、外務省通商局発行の「蘭領東印度事情」より拔萃せるものにして、タバタ氣象臺長の一九二二年頃の報告にみらずやと思はる。

第一六表 スマトラ、デリ地方月別雨量表

地方	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
メダン	一三〇	九五	九四	一三四	一八〇	二三三	一三四	一八三	三三三	三三〇	二四三	二七七	二〇五二
デビテンギ	四六	三五	三五	三〇五	三三	一五五	三三	一八	一八	三二	二八〇	三四六	二一三四

単位：耗

備考 単位は耗にして、デビテンギはメダンの東南、汽車にて三時間の距離にある煙草園の介在する所なり次にスマトラ東海岸州の雨量を掲載すべし。

第一七表 一九一五—二一年スマトラ東海岸州月別雨量表

単位：耗

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
一九一五年	二四三	三	一三	一〇	二七	三三	三六	三三	三三	三三	三三	三三	二〇九
一九一六年	一〇	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二〇九
一九一七年	一六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二〇九
一九一八年	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二〇九
一九一九年	三三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二〇九
一九二〇年	四〇	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	二〇九
一九二一年	三三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二〇九
計	一五五	七	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一八三〇
右平均	二九	一〇	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	二二二

備考 本表はスマトラ・ホスト紙より拔萃せるものにしてスマトラ東海岸州のものなり

次表は筆者がスマトラ興業株式會社に在りし當時、ノートに記載し置きたるプロマンデ園の雨量なり。

第一八表 一九二二—二四年スマトラ東海岸州プロマンデ月別雨量表 単位：耗

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
一九二二年	一〇	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六五

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
一九二三年	三〇	二五	一九	一五	二五	三〇	二四	二六	三二	二六	五二	一八	三〇六
一九二四年	二六	一九	二六	二七	二二	一九	二二	二〇	二〇	二四	二六	二八	二七五
計	四七	四八	六八	六六	六六	六八	三九	六四	六八	七五	一三五	四三	八四七
右平均	一五	一七	二九	三三	三三	二九	二六	二五	三三	三五	四一	二九	二八二

次にスマトラ・ポスト紙及筆者の測れる降雨日數表は左の如し。

第一九表 一九一五—二四年スマトラ東海岸州月別降雨日數表

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
一九一五年	二	四	八	一〇	一三	一八	二二	二四	二九	二八	二五	二二	一五〇
一九一六年	三	六	六	九	一〇	一〇	一三	一四	一〇	一三	一一	一〇	一三七
一九一七年	三	三	六	七	九	一〇	一五	一三	一〇	一四	一一	一〇	一五〇
一九一八年	二	四	五	六	九	一〇	一五	一三	一〇	一四	一一	一〇	一四六
一九一九年	二	三	四	五	七	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一四一
一九二〇年	二	三	三	四	六	七	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一三七
一九二一年	三	五	七	九	一〇	一三	一五	一六	一五	一四	一三	一〇	一四七
計	九	五	七	九	九	八	八	一〇	九	九	九	九	一〇七
右平均	一四	八	二	二	二	三	三	六	一四	一四	一四	一一	一六一
一九二二年	二〇	七	一五	一四	一七	三	六	一四	一六	二四	一四	一一	一六一

年次	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
一九二三年	一八	一〇	一八	一〇	一〇	二	八	一四	二	一八	一七	一七	一六四
一九二四年	二	三	九	一四	二	三	三	七	三	二	二	二	一五三
計	三九	一三	二七	二四	一二	五	一一	二一	五	二〇	一九	一九	四七八
右平均	三	九	一四	三	三	三	七	二	三	二	二	二	一五九

## 第二節 地勢及土壤

テリ煙草の栽培せられつゝある土地は、一般に平坦地にして、海岸に近く、メダ市を中心に、北西はバン河 (Soengai Iapun) を、南東はアサハン河 (Soengai Asuhan) を限度として、テリ鐵道 (Deli Spoorweg Maatschappij) 設置に依るもの ( ) を狭みて栽培せられ、海岸迄は少くも一〇基位の距離あり。スマトラの中央山脈より遠く離れ、山麓に接して栽培する處稀なり。而して平坦地なれども、低湿地にあらず。往々泥地を見るも、排水路完全に掘鑿せられ、地下水の高く地表に見ゆるが如き地は殆んど無し。海拔高はメダ市が二三メートル位にして、一五〇メートルを超ゆる地點に栽培せるを耳にせず。然れども今を去る三十年前にありては、中央山脈の山麓の谷地にも栽培せられたることあるも、今は其の跡を見ず。

土壤に就ては遺憾ながら分析表を示す能はざるも、空素、加里に富むランカト地方の黒褐色の腐植土最も好適すと云ふ。チヨコレート色及帶黄灰色の砂質地も亦適す。橙黄色の重粘土及サラサラしたる地は不向きなり。

尙ほ表土は深きを良しとし、五、六吋にして滲透性に乏しき重粘土及寄洲の跡地の如き砂質甚だしき地層は好ましからざるなり。

初めて煙草栽培に着手する場合は、可成り細かく其の豫定栽培区域内の表土、心土を採收し、其地方の試験所に送りて土壤分析を依頼し、適否の鑑定を乞ふこと最も必要なり。但しその附近に耕作しつゝある煙草園と比較し、土壤異なる事なき場合は敢てその必要を認めざるなり。

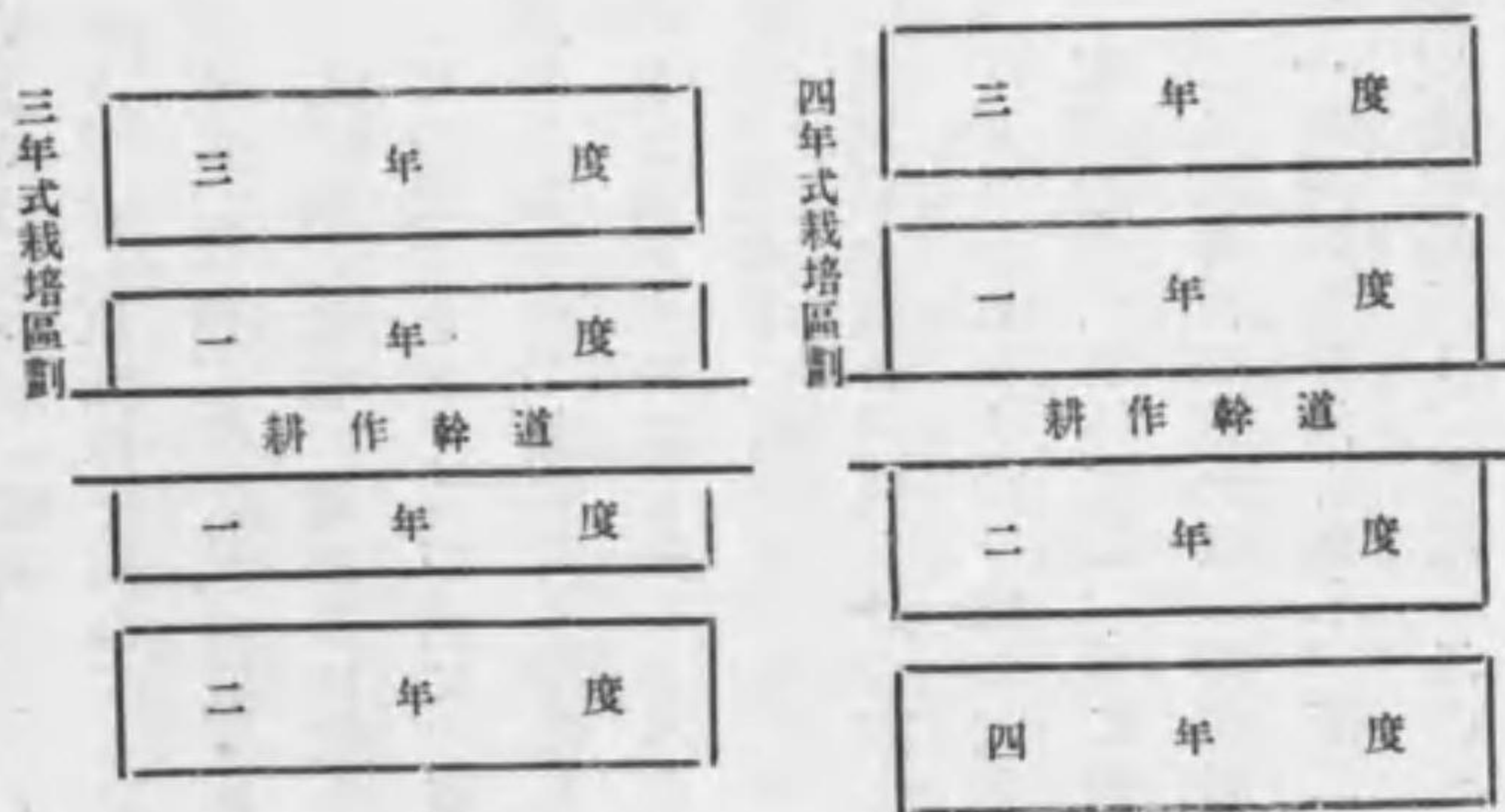
### 第三節 デリ煙草栽培計畫の骨子

**栽培様式の決定** 煙草栽培に先だち栽培區域の方針を決定せざるべからず。新たに栽培に着手する場合は、諸種の事情に鑑み、經濟的區域を一五〇バウ (1 acre) とすを有利なりとの説あり。即ち一バウは一・七五英反なるが故に、二・二六二五英反に相當す。又デー、ハルスマ氏著デリ煙草栽培法には、原始林を開園栽培するには、初年度七五バウ、次年度一五〇バウ、三年度二二五バウ、四

年度二五〇バウ、五年度三〇〇バウ、五年度以後は引續き三〇〇バウづつ栽培するを有利なりと記せり。若し原始林を開園する場合は、栽培前相當の準備作業日数を要するものにして、即ち測量に伐木に、燒拂、跡片付、道路・排水路の築立、掘鑿、打起、其他建物に、材料蒐集に、數百日を要すべし。但し林相、地形等に依りては數月にして足ることあり。既設會社の栽培園は何れも三〇―六〇年の歳月を要するが故に、原始林を開墾することなく、毎年の栽培區域は舊栽培地なるが故に、準備作業極めて簡單なり。而して新規開墾にせよ、既設園にせよ、建物の經濟的保存關係より栽培地を三區乃至四區に分ち、六―八年目に再び其區域を輪作する方法を普通とす、最も土地の大小、肥瘠、資本等に依り長短等しからざるなり。

栽培區を豫め三區に分つ方法を三年式、四區に分つを四年式と云ひ、同一苦力舎及乾燥室を利用する方法なりとす。四年式を採用する場合は、家屋建造の際材料を吟味せざるべからず。スマトラ東海岸州にありては、主に四年式が採用せらる。

即ち三年式に依れば、耕作幹道(幅二六呎)を挟み、左右に幅六〇デッパ(註 1 meter)づつを採りて第一年度の耕作地と爲し、第二年度、第三年度にありては、第一年度耕地の左右に幅六―八呎の耕作支道を隔て、各幅一二〇デッパを採り耕作地と爲す。而して苦力舎及乾燥室は耕作幹道の左右に設け、三年間使用するものなり。但し耕地の幅員は必ずしも一二〇デッパならざるも、斯くする



方便宜にして、且つ建物を利用するに勞力上有利なり。  
 四年式の場合も三年式に準ずるものにして、區劃の決定は多量の生葉運搬關係を考慮し、建物を有利の位置に置かざるべからず。尙ほ區域の大小は延いて酸酵作業に至大の關係を有するを以て充分研究の要あり。

註 テッパ(Tappa)は馬來語の一尋にして普通六呎とす。

**畑地の形狀決定** 一バウを此の地方の土人は一チャロラン(Dja Toran)又は一ケボン(Kebon)と稱し、一苦力の受持耕作畑地を意味するものなり。故に耕作支那苦力一五〇名とせば、其の栽培面積は一五〇バウなることを想像し得べし。

一チャロランの形狀方向は地形に依り同一ならざるも、東西の長方形に、畦の方向を南北に地取りするを有利とすべし。幅員は區域の幅に應じて決定せらるゝも、今假りに一區域の幅を一二〇デッパとせば、其の一チャロランの幅は一五デッパの一、八〇〇平方デッパにして一・七二英反に相當す。故に三呎置き二列植



三 眞寫入挿 八年年輪式作依る開墾作業(向つて左の林は五、六) 年相林、右は伐木爲し焼拂(たひ所)

として列の間を一呎半とし、株間亦一呎半植とせば、優に一九、〇〇〇本の植付けに足る。要する

に是等は擔當者の計算に依るものにして、一苦力受持の煙草栽培本數と植付方法を基準として定むべきものなり。

筆者の從事したる園にては幅一二デッパ、長さ二〇〇デッパを主とし、地形に依りては幅二〇デッパ、長さ二〇〇デッパに區切りたる處もありき。

**開墾及整地** 栽培區域及畑地の形狀豫定たゞば、開墾に先だちて區劃測量をなし、雨量の關係もあるが、三月半ば頃より伐木に著手し(雨量關係を調査し開始すること)、八月頃までに焼拂・跡片付を了し、夫れより排水路・道路の新設及第一回打起に著手すべし。排水路は地形に準じて適當の勾配を探り、幅員は其流域面積に従つて決定し、區劃に準じて設けるが如き舊式の方法を廢すべし。道路は耕作幹道及同支道に別つ。幹道の幅員は二二―二四呎とし、自

動車牛車の往來に便せしむ。左右兩側には排水溝を設く。其排水路は處地に依つて異なるも、平坦に

して他より流入する水量無き場合は、幅二呎位のものにて足るべし。耕作支道は幅五―八呎位にて

足る。チャロランの

境界には幅二―三呎

位の排水路を掘り、

區外よりの雜草侵入

を防ぐべし。之も若

し區外より流水ある

か地下水高き場合は、

其水量を計算し、排

水路の断面を決定す

べし。打起は深さ一

呎半即ち一呎乃至一

呎半の程度にて充分

なり表土淺き土地に



祝賀の附片跡ひ拂焼 (一) 眞寫入挿



更な類株雜るたり殘にけ附片跡 (二)  
所す爲なひ拂焼てめ集に

ありては深耕却つて不利なることあり。監督者は常に其作業を注意せざるべからず。若し打起不完

全なるときは、後日第二回培土の際、非常に手数を勞するを以て、入念の作業を要す。或園にては一デツバ毎に繩を張り、各苦力の作業進行を同一ならしむると同時に、打起の作業方針の深耕程度を同一ならしむるの方法を講ずる所あり。而して打起中、小なる木根はこれを取除き焼却するものとす。第二回打起は九月乃至十月頃著手し、土塊を轉倒粉碎してララン草の根絶に力む。然る後Holeを以て雜草、木根、塵芥を掻き集め、焼却して、十二月中には全く整地を終る様爲すべし。若しララン草甚だしき場合は、第三回打起を爲し、根絶を期せざるべからず。斯くの如くにして本圃の準備を爲すものなり。

#### 第四節 栽培經營の組織と大苦力頭の人選

煙草栽培は短期にして極めて細心の注意を要す。作業複雑にして又晝夜に互ること稀ならず。故に栽培中は支配人より苦力に至るまで大いに緊張し、恰かも戦場の思ひあり。然れども一旦完了せば各人落魄の體にて、利益の配當を懐にし、東西に走り慰安に耽ると云ふ。

煙草栽培には支那苦力及爪哇苦力並にバンヂャル人等を混役するを以て、人事上の問題尠からず。殊に一苦力を一日數種の作業に使役するが如きことあり。監督亦容易ならず。故に各員間の規律を



### 第五節 建築に關する豫備智識

總説 建物の建築は直營及請負に據る。直營とする場合は彼等を收容すべき苦力舎を先づ建築し、後ち各建築に移ることとなり、且つ作業も鈍ぶり勝ちなるを以て、一般に請負に附す。請負に附すれば彼等は極めて簡単な小舎を作るか、然らざれば附近の部落に同居するを以て、農園の手敷を省くのみならず、作業常に進捗す。

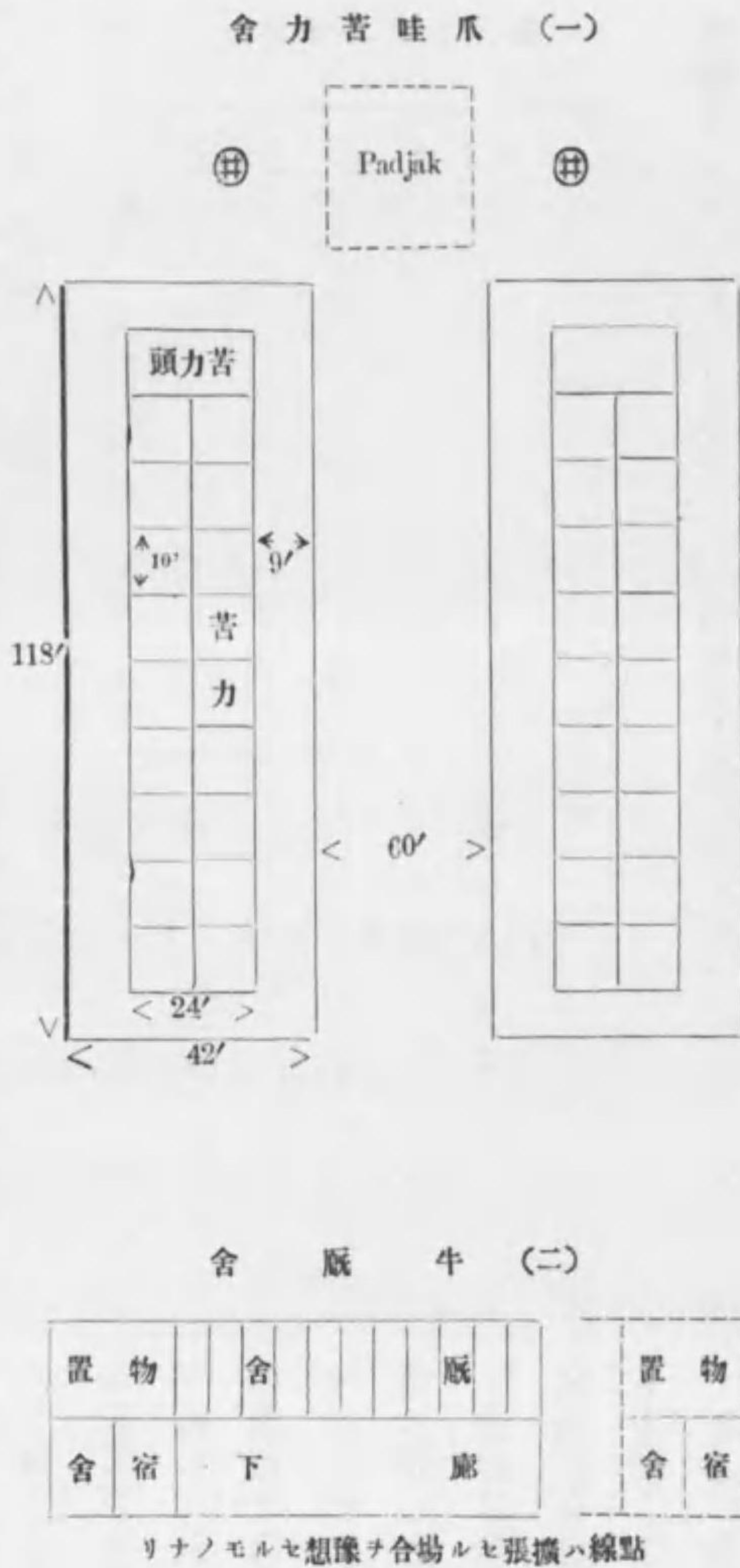
建物は先づ第一に爪哇苦力舎より始め、牛車小舎に次ぐに助手宿舎、倉庫、支那苦力舎、大苦力頭宿舎、商店、乾燥室、醗酵室、選別室等の順に建設す。醗酵室、選別室を除けば、何れもパンヂヤル人の手にて作る一時的のものなり。是等各種建物に就きては相當考慮を要すること多きを以て、其の大體を次に述べん。

爪哇苦力舎 (Pondok Djawa) 構造は丸木建にして、屋根はアタツプ (Atap) 葺とし、床及壁は荒板を用ひ、一部屋の大きさは  $10' \times 13'$  の長方形にとり、苦力頭 (Mantolod Kejil) の部屋は、其の建物の一隅に苦力の二部屋分に相當するものを與ふれば可なり。今假りに圖示(第一圖の一)の如きものを作れば、一部屋には夫婦者一組を獨身者ならば二人を、夫婦者を苦力數の三分の一とすれば、收

容すべき一棟の苦力數はマンドルの外三〇名となる。

若し六〇名位の苦力を使用するならば、斯の如きものを並列し若し九〇名位ならばコの字形に建

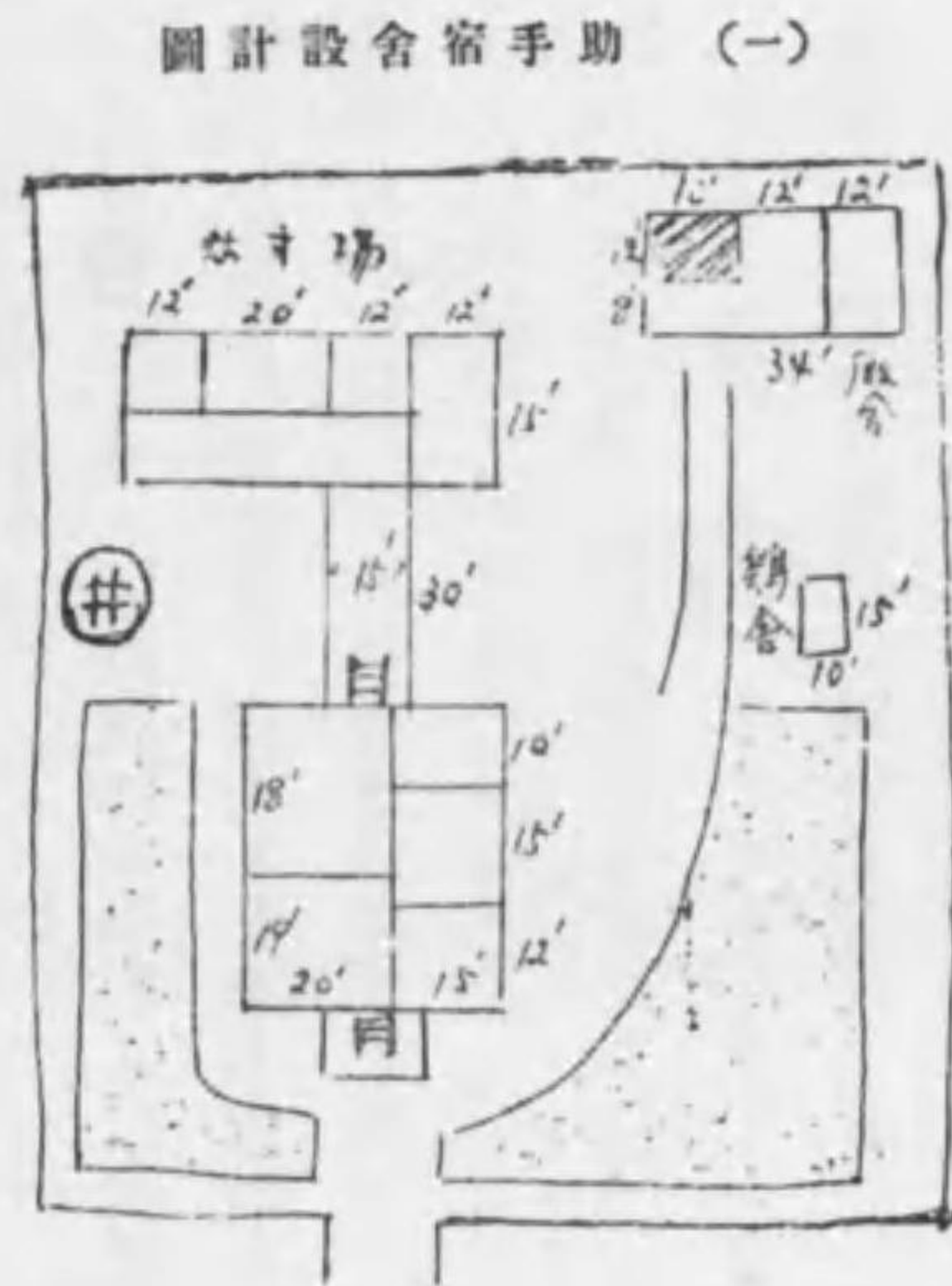
第一圖 爪哇苦力舎、牛厩舎設計圖



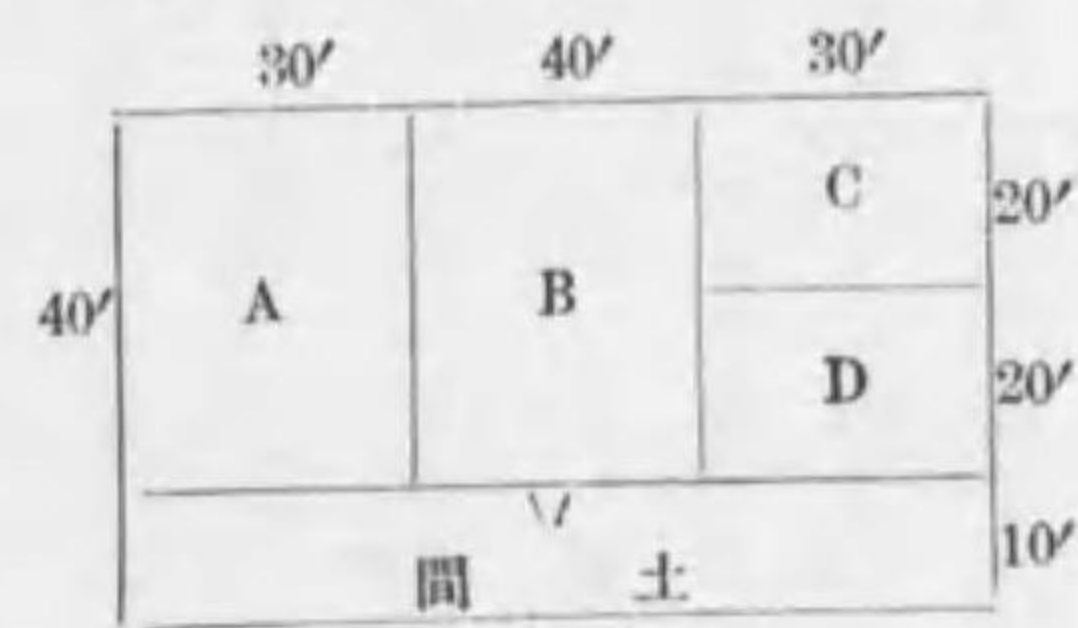
つるを便とす。更に二〇名位を收容する場合は、二マンドルを兩端に置き、一棟六〇名收容とするも可なり。而して構造は兩側に幅八呎の廊下を取り、部屋の入口には二呎半の戸口を設け、其の

内側に幅三呎の土間を作る。床下は板を張りて他より出入を禁じ、天井は細丸太を六吋おき位に打付け、盗難除けとす。尚ほ附屬建物として遊戯場(Park)を作るを普通とす。同建物はアタツプ葺の寄棟とし、屋内に柱

第二圖 助手宿舎、倉庫設計圖



(二) 倉庫 (農具肥料等收容)



を建てざる様設計し、周囲には高さ二呎半位の腰板を張るに過ぎるものにして、雨天體操場に等しき建物なり。井戸は煉瓦巻きとし、便所は運搬し得る様作るを便とす。

牛厩舎 (Kandang Remboe) 一頭收容し得べき牛房は幅八呎奥行一〇呎にて足る。假りに牛車六臺を使用するにせば、一二頭分にして九六呎の間口を外に牛番 (Djaga Remboe)、草刈夫 (Toe Kange Loempoe) の二部屋分二四呎、計二二〇呎の間口を、奥行は牛房九呎の前面に九呎の土間を取り一八呎とす。牛番、草刈夫、物置は圖示の如く仕切るものとす。

牛房の裏手は全部板を張らず、三呎位は開け置く方衛生的に宜しく、床板は二吋板を用ひ、糞尿

の掃除に便するた  
め勾配を附すべし。

助手宿舎 (Loe-

nah Toean Kefjil)

支配人の宿舎は常に現場に必要なく且つ永久建てなれば茲に省略す。茲に言ふ助手宿舎 (寫眞五) は主に外業助手の宿舎を云ふ。醱酵室に従事する助手の宿舎は、



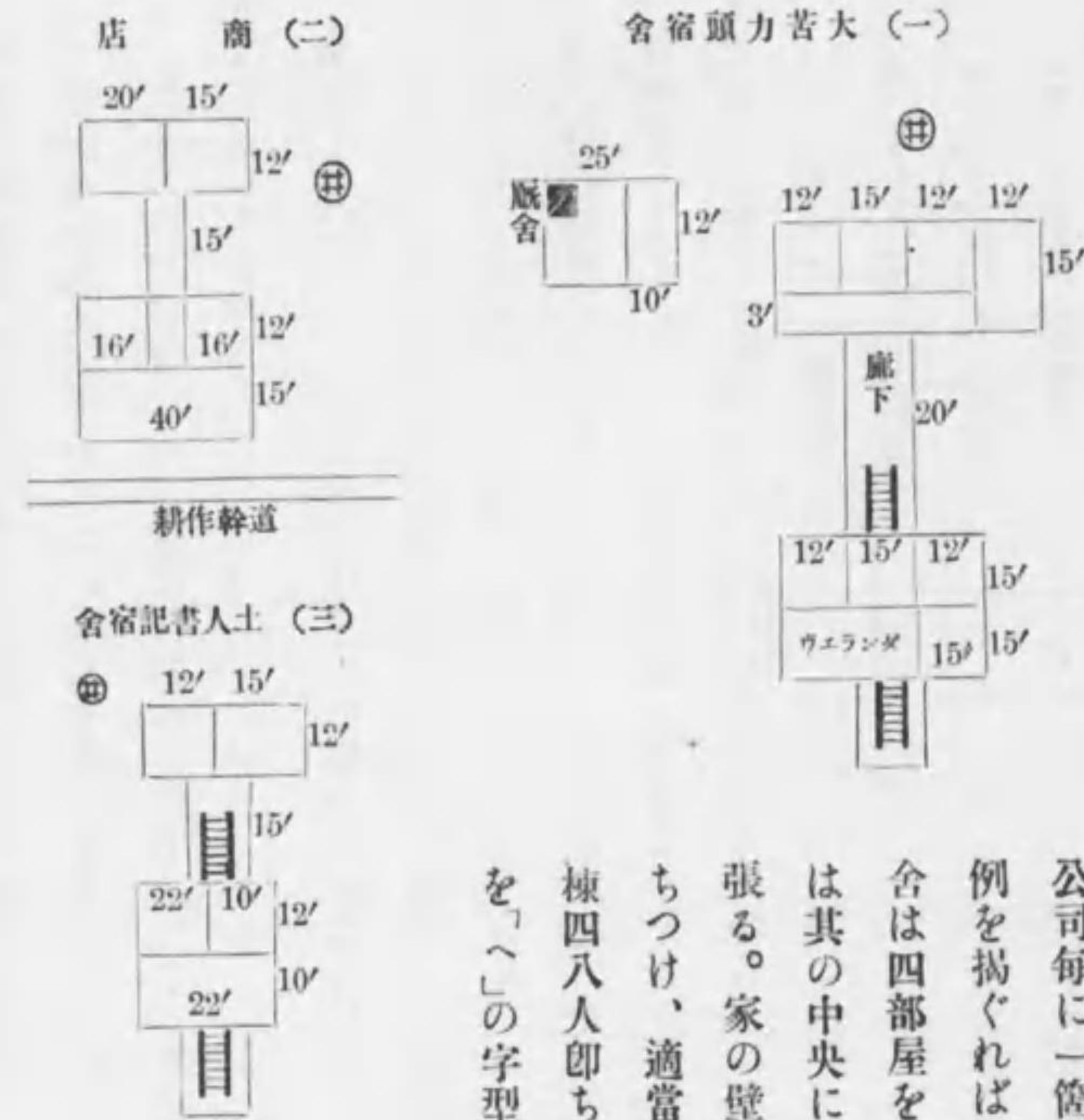
挿入寫眞五 (一) 助手宿舎全景



(二) 醱酵室作業に従事する者の宿舎

支配人同様永久建てを普通とし、醱酵室の附近に建設す。但し園が新しき場合は外業助手同様の建

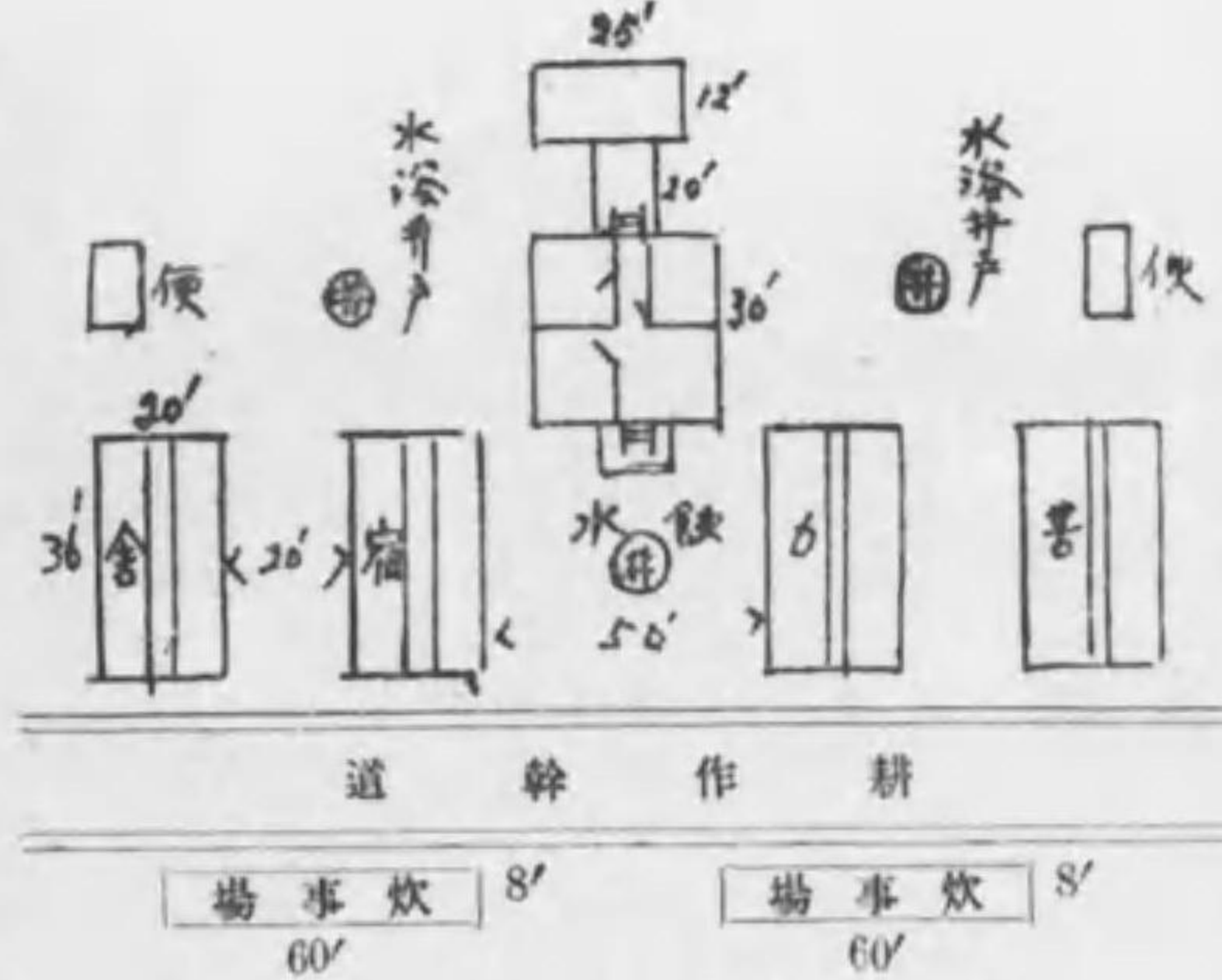




第四圖 大苦力頭宿舍、商店、土人書記宿舍設計圖

支那苦力宿舍 (Congzi Tjina) 支那人苦力宿舍は一  
 公司毎に一箇所に纏めて建設するを便利とす。其の一  
 例を掲ぐれば圖示 (第三圖) の如くにして、苦力頭宿  
 舎は四部屋を取り、炊事場を附屬せしむ。苦力舎の方  
 は其の中央に六呎の土間を通じ、左右に七呎の床板を  
 張る。家の壁はアタップにても可なるも可成荒板を打  
 ちつけ、適當に窓を設くべし。一棟二人收容にて四  
 棟八人即ち一公司にて足る。苦力舎の炊事場は屋根  
 を「へ」の字型に葺くを便利とし、水浴場及便所は二箇  
 所づつに、飲料水井戸は苦力頭の前面  
 に設くるも可ならんも、マカン、ベッ  
 サル (Makang Besar) 即ち公休日毎に祝  
 宴或は賭博開張に不便を生ずることあ  
 るが爲め、實際は苦力頭宿舍の何れか  
 の隅に設くるを可とするならん。

を嚴重に爲すの設備とす。Dは高さ板張りにして濕氣を嫌ふものを貯ふる所に充つ。前面には一二呎幅の土間を設け、牛車を入れしめ得る様に爲す。結構は丸太にして荒板を張り、アタップ葺とす。

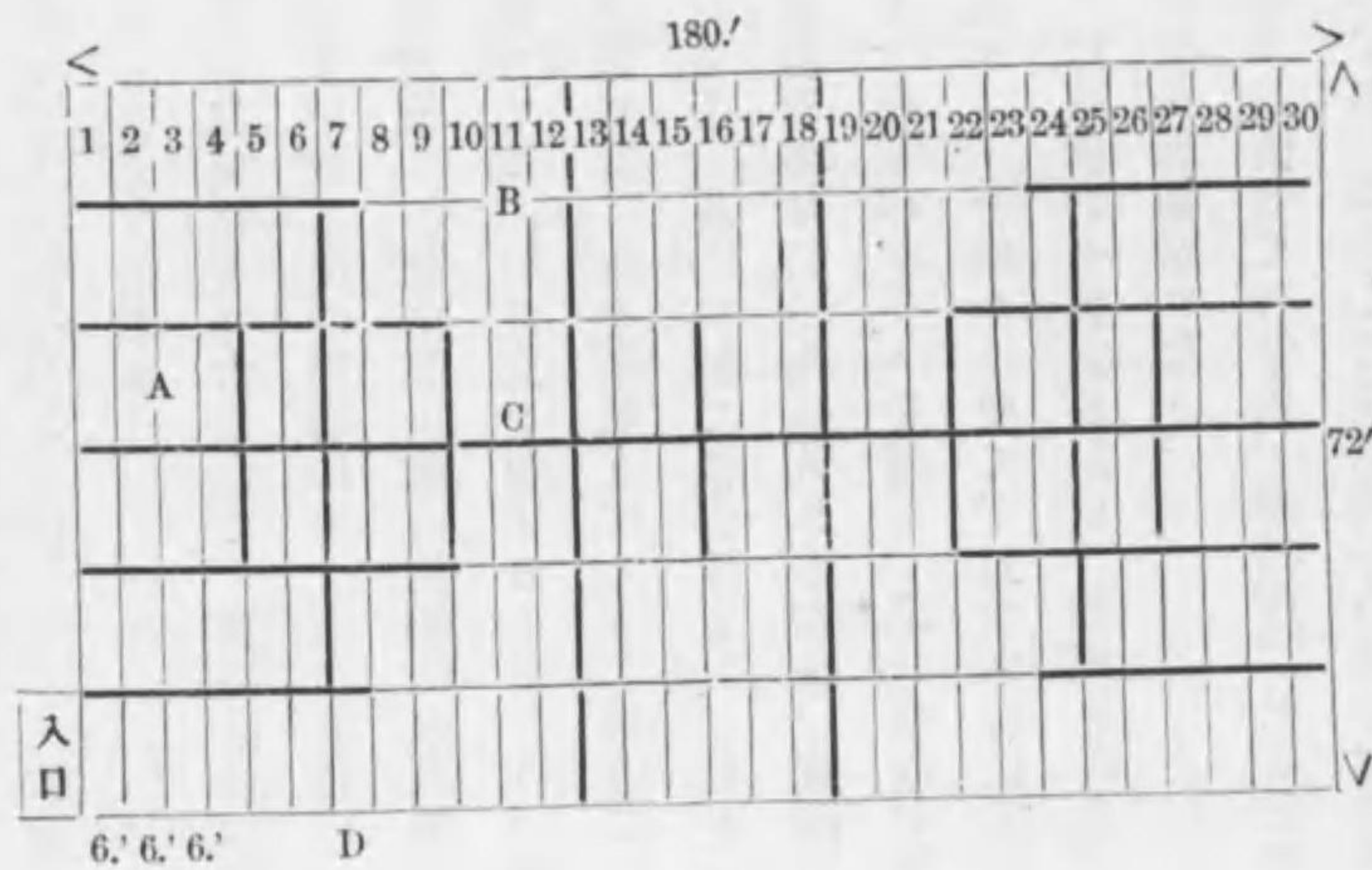


第三圖 支那苦力宿舍設計圖

築を爲すことあり。建物は人種に依り多少の相違あるも、稍共通的のものを掲ぐれば左の如し。  
 本屋の構造を二部屋と三部屋に仕切り、二部屋の方はヴェランダと食堂とし、三部屋の方は中間を寢室に取り、裏側を物置に、前側を書齋に充つ。炊事場と本屋とは三〇呎位とし、コック部屋に續いて炊事場を、次に水汲夫 (Toekau air) の部屋を、更にコンクリート叩きの水浴場 (Kamar Mandi) を隣接せしめ、水浴場内に便所を設け、井戸はコック部屋の端れに、廐舎はこれと反對に炊事場より裏に控へて設くるものにして、其の前面に鶏舎を置き、本屋の左右には庭を作る。建物材料は總て丸太の堅木を用ひ、屋根はアタップ葺とす。  
 倉庫 (Goejang) 七五バウ位の栽培に應ずべきものは間口八二呎奥行五〇呎位にて足るべし。Aは低き板張りにて、Bは土間、Cは藥品其他の重要品を入れる所として戸締

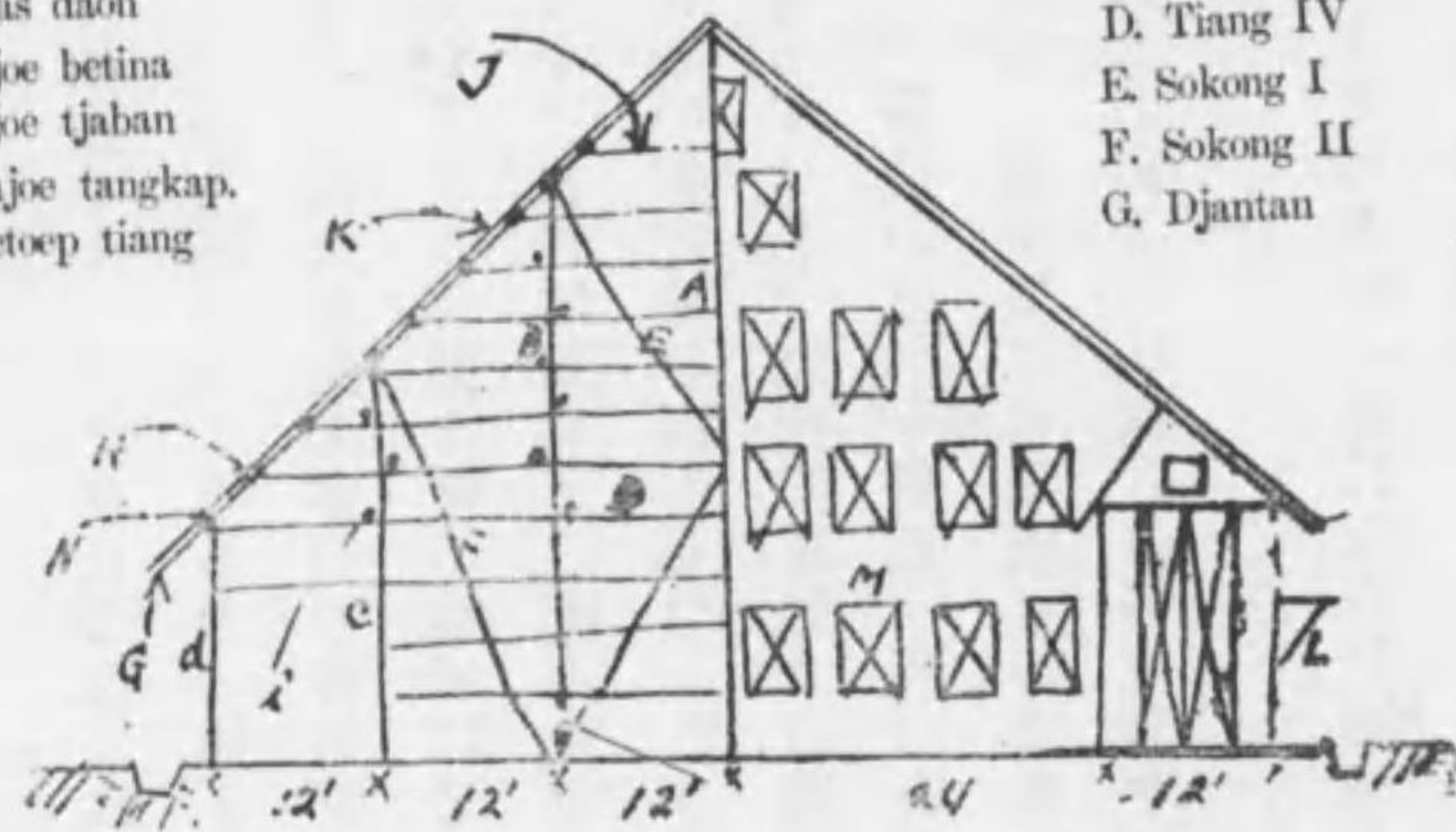
第五圖 圖面平室燥乾(一)

A=Kilas daon B=Kilas angin C=Sokong D=Kajoe tangkap



圖面正室燥乾(二)

H. Goelong goelong  
I. Kilas angin  
J. Kilas daon  
K. Kajoe betina  
L. Kajoe tjaban  
M. Kajoe tangkap.  
N. Toetoe tiang



A. Tiang I  
B. Tiang II  
C. Tiang III  
D. Tiang IV  
E. Sokong I  
F. Sokong II  
G. Djantan

**大苦力頭宿舍**(Roemah Tandil besar en Mandool besar) 大苦力頭の中、支那大苦力頭の分は稍大きく自動車小舎及厩舎の二つの附屬建築物を要するも、爪哇大苦力頭の方には、本屋も稍小さく、厩舎のみにて可なり。構造は圖示の如くにして、角材に代ゆるに丸太材を、屋根はアタツプ、壁は板張りとする。

**商店**(Kotai) 園内商店は自由建築を許す場合なきにあらざるも、商品を安く苦力に供給せんがため園にて建設し、無料或は安き料金にて貸與し、販賣價格を園にて命令する場合あり。構造種別あれども、小園にては圖示の如きものにて足らん。

**土人書記宿舍**(Roemah Kraui) 土人書記は一人一棟とし、圖示の如き小なるものにて足る。乾燥室(Rangsai) 乾燥室は最も重要なものにつき、構造方法は乾燥作業の項に於て説明するを最も便利とするを以て、茲には設計圖と材料名とのみを示さん。

- A. Tiang I (一號柱)
- B. Tiang II (二號柱)
- C. Tiang III (三號柱)
- D. Tiang IV (四號柱)
- E. Sokong I (一號支柱)
- F. Sokong II (二號支柱)
- G. Djantan (木柱)
- H. Kajoe Goelong goelong (母屋木)
- I. Kilas angin (貫木又は桁)
- J. Kilas daon (葉掛ケ材木)

K. Kajoe betina(屋根下地木=柱)

L. Kajoe tjahant(窓ヲ開ケテ支ノ木)

M. Kajoe tangkap(窓柱木)

N. Toekop tiang(梁)

是等の建築材は何れも丸太にして、新園は森林中の堅木を選びて切出すも、古き園にてはこれを態にするを得ず。故に園の周圍にチークを栽培し、これを用ゆる方法を講じつゝあるを普通とす。

醱酵室及選別室

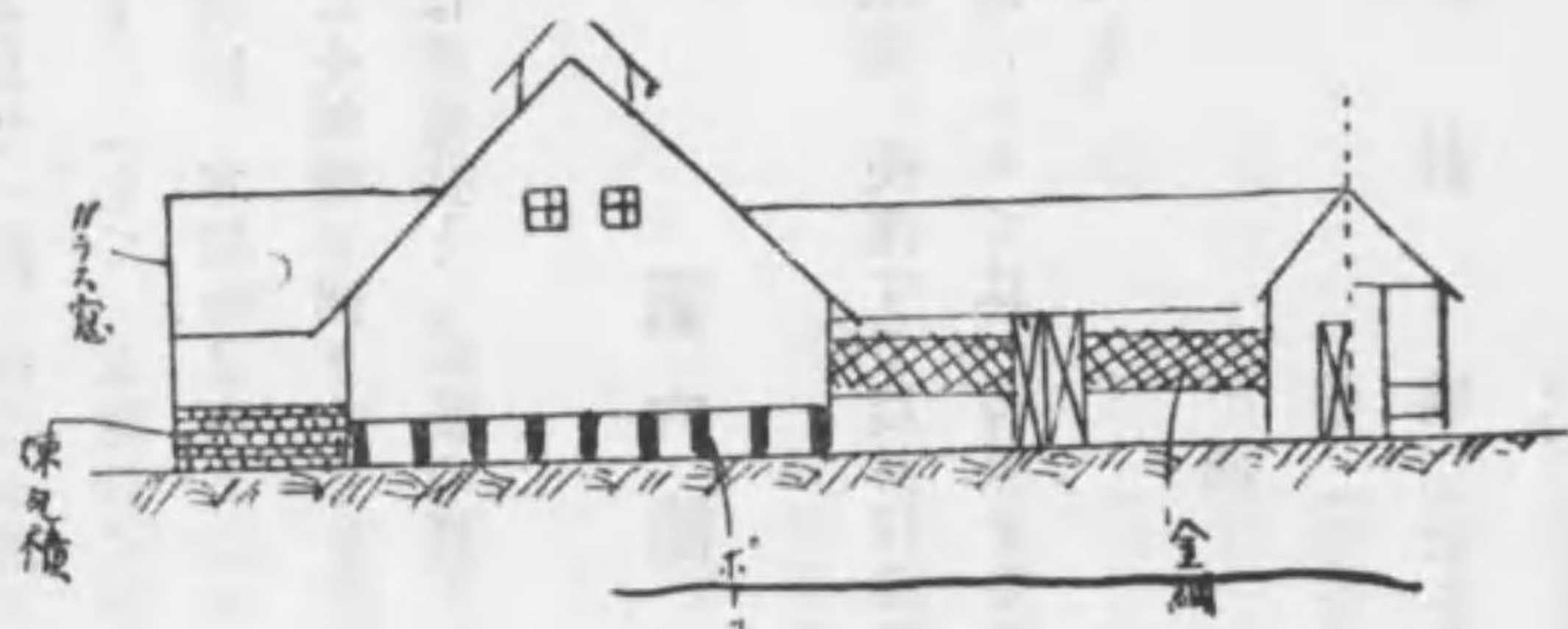
醱酵室—此の建物は永久的のものにして、煙草園建築中最も多額の費用を要すべく、又従つて細心の注意を要するものなり。醱酵室は乾濕甚しからざる交通至便の場所にて、

然も園の中心點に設くるを便利とするも、地方に依り必ずしも然らず。昔時は醱酵室、選別室を一棟に造られたるも、現今に於ては別棟とし、廊下を以て連絡せしむるの構造法を採用しつゝあり。

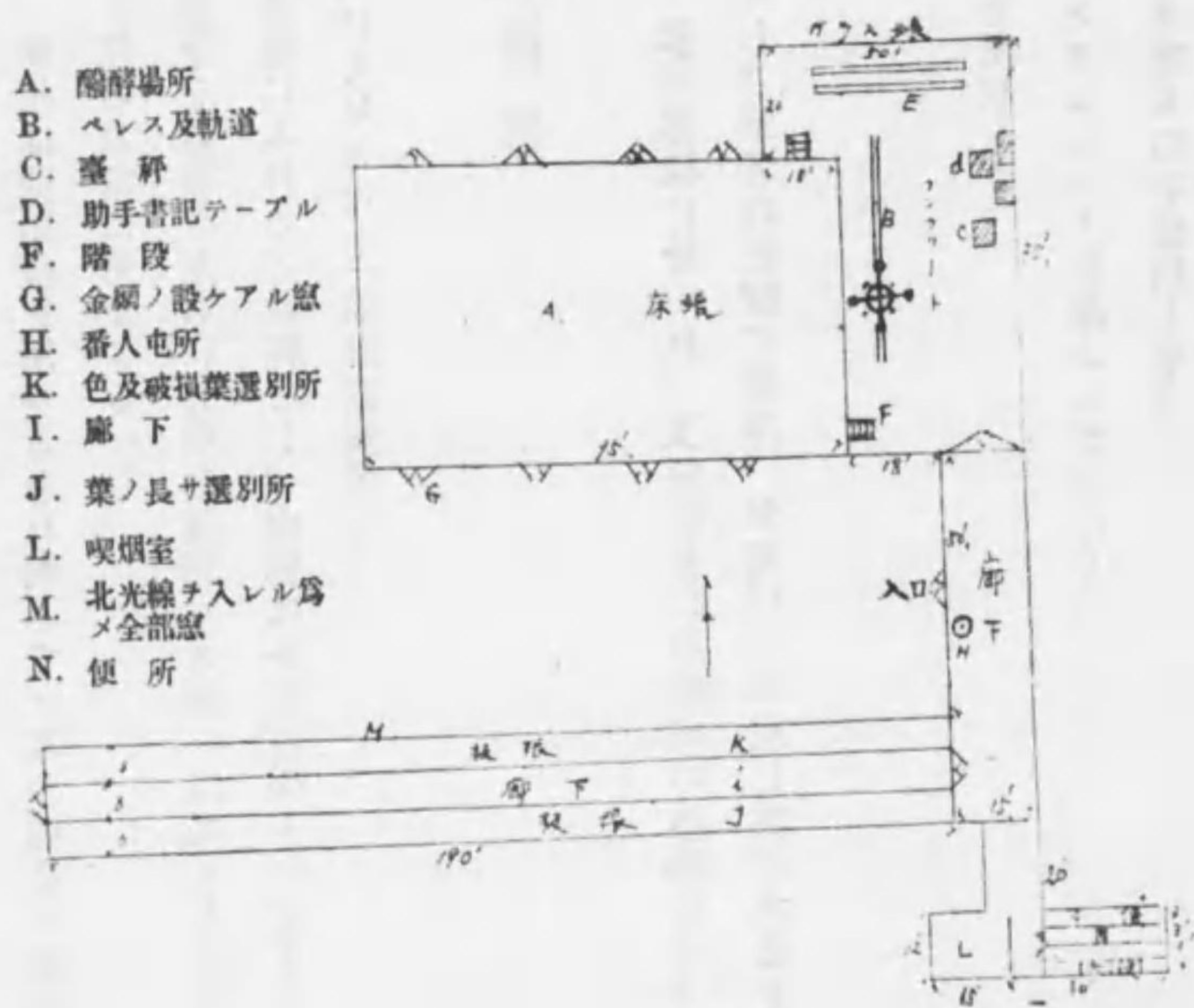
醱酵室は北光線を多量に屋内に入れるため、東西に長く建てるを可とすべし。室内の床張りは高さ二呎半位とし、煉瓦のボースを建て、之に根太を敷き、板を打著く。多量の煙草と多數の苦力の重量を慮り可成ボースを細かく建て、且つ床板は二吋ものを使用すべし。屋根棟は空氣抜きの設備を爲し、周圍には適當の光線窓を設け、金網を張りて開放せるも、他人の出入し能はざるの設備を要すべし。俗に云ふ泥棒除けなり。

此の床板張りに隣して秤量所、壓搾所、乾葉受取場等をコンクリート叩きの一廊に取るを便利とすべし。更にこれに隣接して選別濟みの葉を檢閲受領する場所を設く。茲は光線を最も多く必要とすべし。

圖六第 (一) 圖面側室別選及室醱酵



圖六第 (二) 圖面側室別選及室醱酵



- A. 醱酵場所
- B. ハレス及軌道
- C. 臺秤
- D. 助手書記テーブル
- F. 階段
- G. 金網ノ設ケアル窓
- H. 番人屯所
- K. 色及破損葉選別所
- I. 廊下
- J. 葉ノ長サ選別所
- L. 喫煙室
- M. 北光線ヲ入レル爲メ全部窓
- N. 便所

するを以て、此の側は全部ガラスの壁とす、屋根は亜鉛板を用ゆるを有利とす。其の構造は圖示の如きものにして、本設計に依れば一五〇バウ位の栽培に充分なるべし。

選別室—本建物は中央にコンクリートの廊下を取り、左右に煙草を選別する所の床張りを設け、北側に全部観音開きの窓を設け、北光線を多量に入れるの設備とし、南側は全部板張りの壁とす。屋根は亜鉛膏とし床張の高さは一・五—二呎にて足るべし(設計圖参照)。

### 第六節 農具及什器

煙草園に使用する農具は護謨園と異なり、多種多様に分かれ、又短時日に取纏めの必要あり。新規栽培にありては一苦勞を要するを常とすべし。筆者の經驗に鑑み、参考のため左に其の概要を記載すべし。

- (一) 測量
  - 測竿 (Galuh) 一二呎位を便利とす。
  - 羅針機 (Mata Padoeman) トランシットを用ふるが可なり。
  - 卷尺 (Runtai) 長さ五〇米突ものを便利とす。

### (二) 伐木及燒拂跡片付

- 斧 (Kampak)
- 斧 (Pato)
- 山刀 (Parang Malajoe)
- 山刀 (Parang bengkok)
- 鋸 (Gergaji)
- (Kakal = Kikil)

### (三) 打起及整地用

- (Tjankoe) 三—四封度
- (Arit 又ハ Sabit)
- 嘴 (Rinbas)
- 鋤 (Soedoe)
- シヤンベル (Sakrop 又ハ Penggali) Spada 型
- レキ (Sisir)
- 反リ山刀 (Podang)

(四) 乾燥室及一時的建物に要するもの

斧 (Kampak ketil) 英語 Hatchet

小 ン チ (Kakatowa Kawat)

(Gergudji)

槌 (Martil)

金 鋸 鉞 (Soedoe)

(五) 苗圃用具

(Tjamboe)

鋤 ン キ (Sisir)

山 刀 (Parang)

如 露 (Silaman)

水運搬用石油空罐 (Kaleng Kasong)

蚊 帳 (Klamboe)

苗運搬用籠 (Bakoe)

藥用木桶 (Ton obat)

肩負噴霧器 (Pompa Pikoelan)  
其他

(六) 乾燥室用具

生葉運搬器 (Pikoelan 又は Angkeing)

鋼 鐵 針 (Djaroen daon)

吊 絲 (Tali Merah)

吊 竿 (Anah Kajoe)

莫 產 (Tikar)

籐 籠 (Klamdjang)

木 皮 (Koelit Kajoe)

吊 ン プ (Lampoe gantokg)

(七) 醱酵及選別室用具

運 搬 板 (Papan Angkat)

堆 積 板 (Papan Sosean)

寒 暖 計 (Timbang Panas)

運 搬 床 (Balabale)  
 梯 子 (Tangga) 臺付あ  
 莫 産 (Tikar)  
 臺 秤 (Timbangan besar)  
 ペ レ ス (Tindas)  
 籐 籠 (Klamadjang)  
 壓 搾 用 木 箱 (Pati tindas)  
 縫 針 (Djaroen tikar)  
 縫 臺 (Tempat Djait)  
 選 別 棒 (Nilon)  
 選 別 板 (Papan Pital)  
 木 皮 (Koclit Kajoe)

第七節 契約苦力契約證

契約苦力に移民契約苦力、再契約苦力の二種あり。再契約苦力とは最初移民契約苦力としてスマ  
 トラに來りて其の契約を満了し再び契約するものにして、一般に此の再契約苦力を使役すること多  
 きが爲め其の契約書の一例を示さん。

支那人 (老客) (第一)  
 再 契 約

千九百十五年六月二十二日發布條例第四條  
 (無印紙) 官報第四百二十一號

第.....號

下記署名の拙者

番 新 舊 ( 登 録 號)	姓 名	苦 力	凡 年 齡	前 住 地	原 籍 地	種 族	妻 名	摘 要

下記に指示されたる各契約事項に同意す

第一條 本契約苦力は〇〇〇〇園との契約を履行せざるべからず

- a. 自己の受持区内に於て、伐木、焼拂跡片付竝に自己の受持区の煙草植付に關する總ての作業を爲すものとす。又自己受持区内の溝及土堤の築造、苗床造り及苗床の注意、植付、撒水、補植(必要あらば)、竝に植付せし煙草に對する注意、施肥、摘葉、竝に葉を乾燥室内へ運搬し、懸吊する爲めに桁に昇らざるべからず。又受持区より乾燥室へ通する道路の手入は勿論、煙草受持区の溝内を常に掃除すること、若し破損せる場合は修繕せざるべからず。苦力が受持区に働き歸る時又は醗酵室より歸る時は、自己の所有品を彼自ら携帯且つ運搬せざるべからず。其の他彼の受持区及煙草乾燥室内に於ける全體の作業を爲すものとす。
- b. 煙草乾燥室建設の際、柱を引き出し且つ立つることを手傳ふは勿論、その敷地を掃除すべきものとす。
- c. 自己受持区の煙草の摘葉、葉を絲に貫くこと、竝に摘葉後の殘骸を焼き捨つること。
- d. 乾燥室内に於て懸吊せる煙草を下し、アナカユ一本の葉を束ね、又選別作業に於ける束ね替荷造り其の他總て慣例に従ひて、醗酵室の作業に従事せざるべからず。
- e. 支配人若くは助手の命により常に乾燥室の清掃に注意し、アナカユ及び乾燥室用物品の整頓、

竝に乾燥室周囲の清掃及虫害豫防の爲めの點火、窓の開閉等を行はざるべからず。

f. 園の作業及建物に關する件

1. 乾燥室又は其の他のものに關し故障を生じたる場合他の苦力も助力せざるべからず。
2. 苦力は支配人の命するまゝに従事するものとす。
3. 支配人の命令に依り又は助手が命じたる場合、苦力は如何なる作業にも服するものとす。

## 第二條

1. 苦力に一日二四時間内一〇時間以上勞働せしむる事を得ず。勞働時間は午前五時半より午後六時迄の間とす。但し夜業の場合は八時間を最長限度とす。井戸掘りの如き地中の仕事の場合も亦同じ。

2. 此の一〇時間或は八時間の内には、苦力の點呼又は苦力舎屯所等より作業地までの歩行時間を含む。

3. 若し不幸に遭遇せし時、例へば乾燥室又は其の他の建物の火災、又は原野の火災等の作業に對し、苦力は賃銀を受けざるべからず。

4. 支配人は苦力に對し、引續き六時間以上の仕事を命令するを得ず。六時間を繼續作業せし場合は一時間を休息せしめざるべからず。

第三條 時間外労働即ち前記以外の労働時間に對し、苦力は一時間又は其れ以内の端數につき一時間一仙の割にて賃銀の支拂を受くるものとす。

第四條 苦力が日給にて働く場合は、一日五五仙を得。若し請負日の場合と雖も其の時間が一樣なれば、又五五仙ならざるべからず。

a. 第一條a項に示されたる總ての仕事に對し、苦力は煙草一、〇〇〇本に付、最少〇〇〇盾〇〇仙、最多〇〇〇盾〇〇仙を受取るものとす。

此の支拂額の決定は支配人又は助手の査定による、即ち彼等の仕事の良否によるなり。例へば怠慢者は支拂の減額を見ることがあるべし。然し支配人は平均賃銀(時間若しくは本數賃)〇〇仙より減するを得ず。

即ち苦力より買受けたる總本數に對する價額、若し支配人が一六、〇〇〇本以下の植付を命じたる時は適當なる平均より其の最高及最少價額を上げざる可らず。

若し以下指示したるものゝ外に規定なき時は、支配人は摘葉樹一、〇〇〇本に付き最少限九盾を支拂はざるべからず。

但し苦力が植付を終り、且つ手入(注意)の適當なるに拘はらず、良好ならざる時は(例へば地味不良或は洪水等の爲め)支配人は七日以内に同地又は他の地に再植を通知せざるべからず。

す。

然して此の既植木に對し、苦力は一、〇〇〇本に付き、最少限一盾八〇仙の賃銀を受取るを得。若し一週間を経過して再植を命令したる場合は、一、〇〇〇本に付き最高一五盾に達する迄、一、〇〇〇本に付き毎週九〇仙以上支拂はざるべからず。

但し苦力の不注意又は不整列に植付けたる時は、苦力は支拂を受くるを得ず、而も新に再植し、充分の注意を拂ひ、支拂を得るまでに爲さざるべからず。補植しても不良なるか又は枯死せし時は、苦力は支拂を受取らず。若し苦力未熟葉を摘みたる時は、支拂を受くるを得ず。然して煙草一本に付き二〇葉を普通とし、熟及未熟は支配人の命令に依り知るを得べし。尙又一仕事に付苦力に支拂ふべき請負金額は次の如し。

b. 1. 摘葉を乾燥室に取入れ及葉を積み重ねるに對し一、〇〇〇枚に付き一七仙五厘とす。

2. 摘葉して葉を乾燥室に搬入するのみは一、〇〇〇枚に付き七仙とす。

3. 葉を揃へ糸通しを爲すに對しては、一、〇〇〇枚に付き一〇仙五厘とす。

c. 煙草取り下げ及葉を束ねるに對し、一〇束に付き一仙五厘の支拂を得、但しこれに要する夜業のランゾ及油は支配人支給するものとす。

d. 醗酵室内にて選別し束ねるに對し、苦力は百束に付き砂葉及下葉には〇〇仙を、其の他の中



葉及上葉には〇〇仙の支拂を受けるものとす(但し一束は最少限度四二葉とす)。

e. 第一條中に指示せる處の仕事に關する事項

1. e. 項苦力は一日に付き五五仙を受取るものとす。

2. 其の支拂は下記の如くす。

1. a. 項に示せる處の給料(仕事の賃錢)に就て

選別及び醱酵を終了したるも尙ほ園に滞在し、請負金精算未了の場合は、支配人は生活に必要な給料の半月分を貸與すべし。半月分は少なくとも七盾五〇仙を支給せざるべからず。

2. 第一條中の b e d e 及 f 項に指示せる其給料は、毎月、或は毎週、或は毎日、或は a 項に指示せる即時拂ひ等の方法に依るも、支配人の任意に支拂ふ事を得。

3. 上記の第一及以外日給、請負、或は日請負に對する給料も毎日、毎週、半月或は毎月支拂ふの方法も支配人の任意とす。

此の給料は現金を以て全部支拂はざるべからざるの要なし。又支拂ふも差支へなし。良米を半月分として、妻子分共に充分に支給すべし。園は此の米に對して利益を見るべからず。

政府は米の價格を指定し得るものとす。米を減量して支給する場合、其補充として芋其他の食料を支給せざるべからず。

但し苦力に料理して喰はせる場合は、一人一日に付き二二仙以上を徴收するを得ず。

4. 若し給料にて働く者あらば、園は休日及公休日を與へざるべからず。契約苦力にして其日支配人に留置されたる時も、仕事せざる時と雖も亦支拂はざるべからず。

若しも争議ありて示談なし能はざる時は「コントローラー」は此の訴件を判決するを得。

第五條 此の苦力は支配人より〇〇盾を受取りし事を承諾す。而して其後の計算は下に指示する如くす。

a. 翌年總勘定日に於て全部引去るものとす。即ち上に指示せる條項の一項に指示せる如く、醱室に於ける煙草の選別醱酵を終了せし時に行ふものとす。

b. 又苦力が物品代を受取る都度、分割して引去る事も得べし。

c. 苦力に對し、翌年(年末)の其支拂は、上に指示せる條項の一項に記載される如く減少するを得。

### 第四章 デリ煙草栽培法

#### 第一節 苗圃

##### 一、位置の選定

煙草栽培に先ち最も利便の地に苗圃の位置を選定せざるべからず、選定に對する注意事項次の如し。

- 一、肥沃なる土地
- 二、水利に便なる地
- 三、栽培區域に利便の地位
- 四、交通の便利なること
- 五、湿地ならざるの地

苗圃に供する土地は砂質多く輕鬆なる土地は不適當なり。又粘質強き土壤亦不向にして要するに砂質三〇%位の壤土最も適當ならん。尙ほ選定に際しては支那大苦力頭の意見を考慮すべし。

##### 二、苗圃の形状

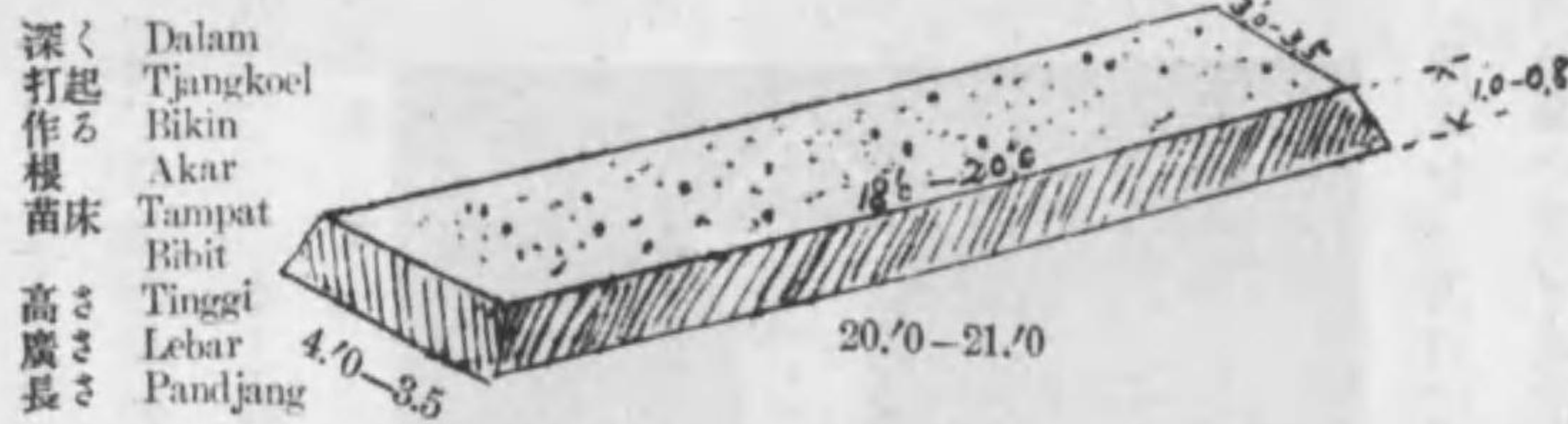
苗圃を作るには先づ充分の打起(Tjangkoel)を爲し、ラランの根及雜根を取除き土塊を粉碎して

挿入寫眞 六

苗圃敷地を打起しつゝある所



第七圖 苗圃



上圖の如く築造するものとす。方向は朝日を多量に受けしむる爲め南北に採るを普通とすれども、周圍の情狀及氣象の關係に依り、強ち南北に依らざるも差支へなし。

##### 三、苗圃の數

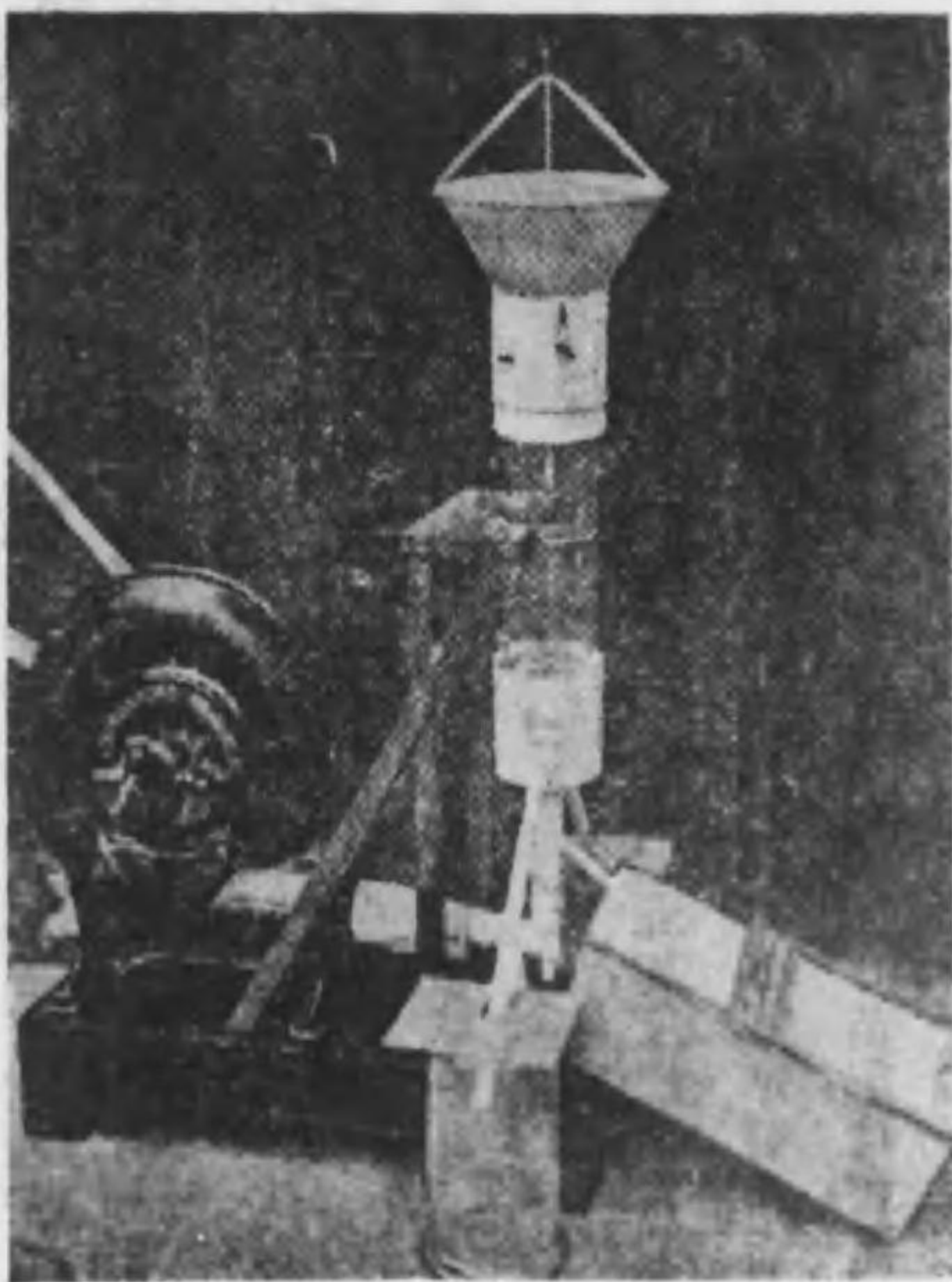
煙草栽培の標準面積は Field (フェルド) 又は Paou (パウ) を以てす。一パウとは凡一・七五英反に該當し、栽培苦力一名に對する基準栽培面積とす。一パウに要する苗圃は普通三〇乃至三二とす。其の計算の基礎は一苗圃より養成する苗圃數を普通六〇〇本乃至八〇〇本とし、而して苦力一人の受持つべき本畑一パウの樹

数は、普通一六、〇〇〇本より一八、〇〇〇本なりとす。然れども會社によりては二〇、〇〇〇本乃至二四、〇〇〇本を植ゑしむることあり。今假りに之れを

一八、〇〇〇本と假定し、一苗床苗木数を六〇〇とせば、

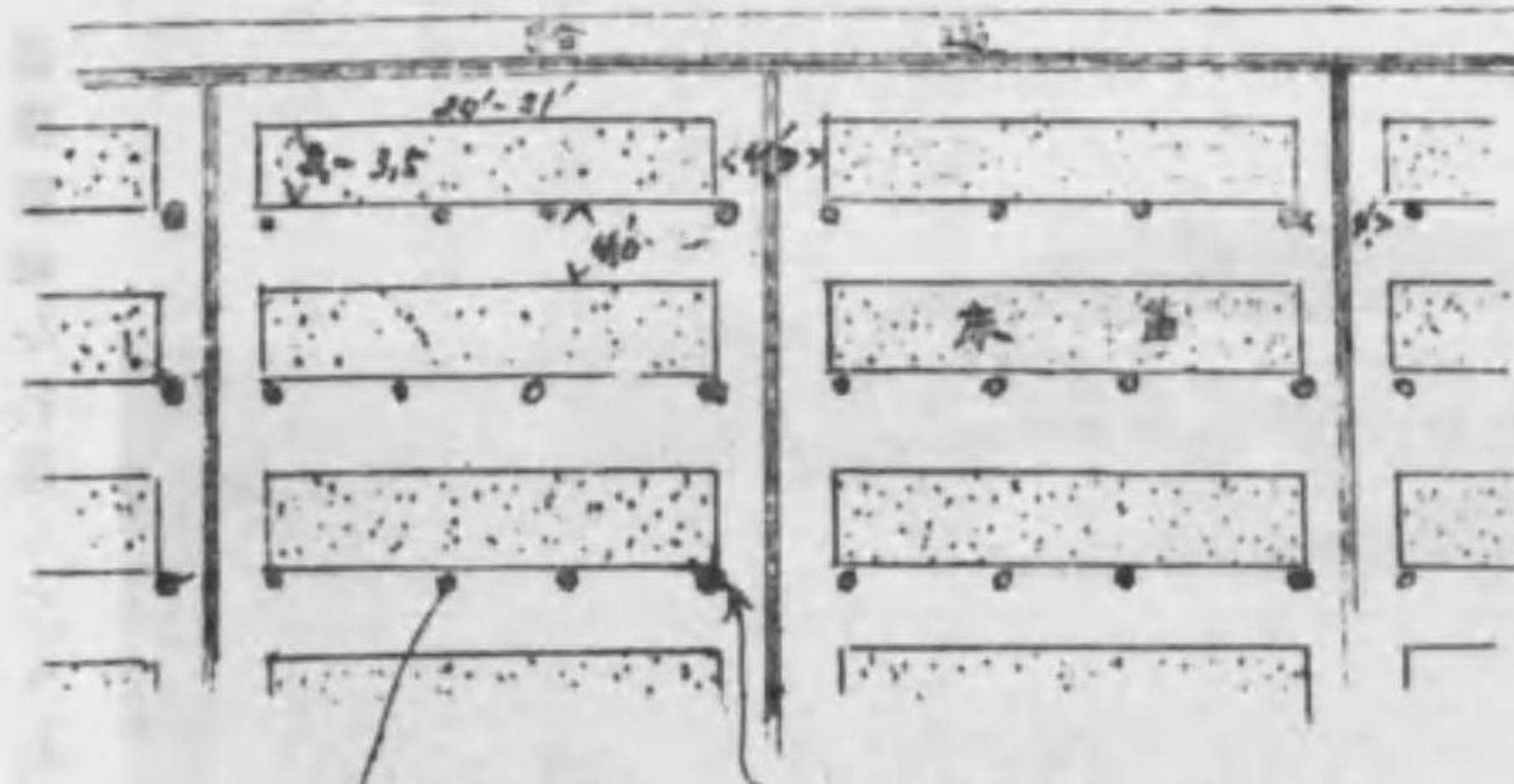
挿入寫眞 七

ブムボ、ルガユフリトンセ型小るけ分き吹な子種 (Ost indische Culturesより轉載)



三〇苗床を一苦力に作らしめざるべからず。又各苗床の間は間隔四尺位を適當とす。

第八圖 苗圃の圖



赤蟻退治設備 苗床番號播種月日の札を建つ  
道 Pasar 播種 Tanam bibit 溝 Parit 記號 Tanda

四、苗床の配列

苗床は同一方向に區劃整然たらしむるを要す。これ管理に便にして空氣の流通其他總ての點に於て利便なればなり。配列法は圖示の通りとす。

五、種子の選定

種子はデリ産のスマトラ種を選ぶを以て至當と認む。要するに其の土地の在來種を供すること最も安全なりと云ふを得べし。

スマトラに於ける煙草の多くは Deli Type 或は Sumatra Type と稱する事のみを耳にし、慥かなる學名を茲に記載し得ざるを遺憾とするも、茄科 (Solanaceae) の Nicotiana tabacum, L. に類似せるものにして、ハバナ種とマニラ種の混合種なることは歴史の上より領かるゝ所なり。種子は新鮮にして、其の色澤黄褐色を帶ぶるを

挿入寫眞 八

(一)白牛麻即ち蚊帳地に提燈型のものを作り優其苗の花を包み害虫の豫防を爲せる所へ本文中には説明を缺けるも、寫眞の如き設備を爲し種子を採取するものなり)



(二)右掲寫眞の蚊帳提燈は支柱一本より成るも、本寫眞のものは下を木とし上端を竹にて作りたるものを示せるものなり



良しとす。古きものは褐黒色を呈し、發芽覺束なし。種子は挿入寫眞七(六四頁)の如き小形空氣ボ  
 ンブにて塵埃及不良種子を扇除し、優良なるもののみを選ぶべし。尙ほ播種前、人工發芽試験を行  
 へば最も安全なり。方法は二枚の皿を並列して之れに渡すに吸取紙を以てし、一方の皿には種子を  
 置き、一方の皿には水を盛るものとす。斯の如くして四五日を経れば往々失敗を見ることあり。  
 發芽の歩合を鑑定し、然る後播種に供すべし。然らざれば往々失敗を見ることあり。

デリ・マートツカッバイの種子は容易に求むること能はず。之を盜み他に販賣せるものは一、〇〇〇  
 盾の罰金に處せらるゝとか。勿論デリ煙草栽培協會に加入せば、同種子を得る方法あり。往々にし  
 て偽物を掴ましめらるゝことあるを以て注意を要す。

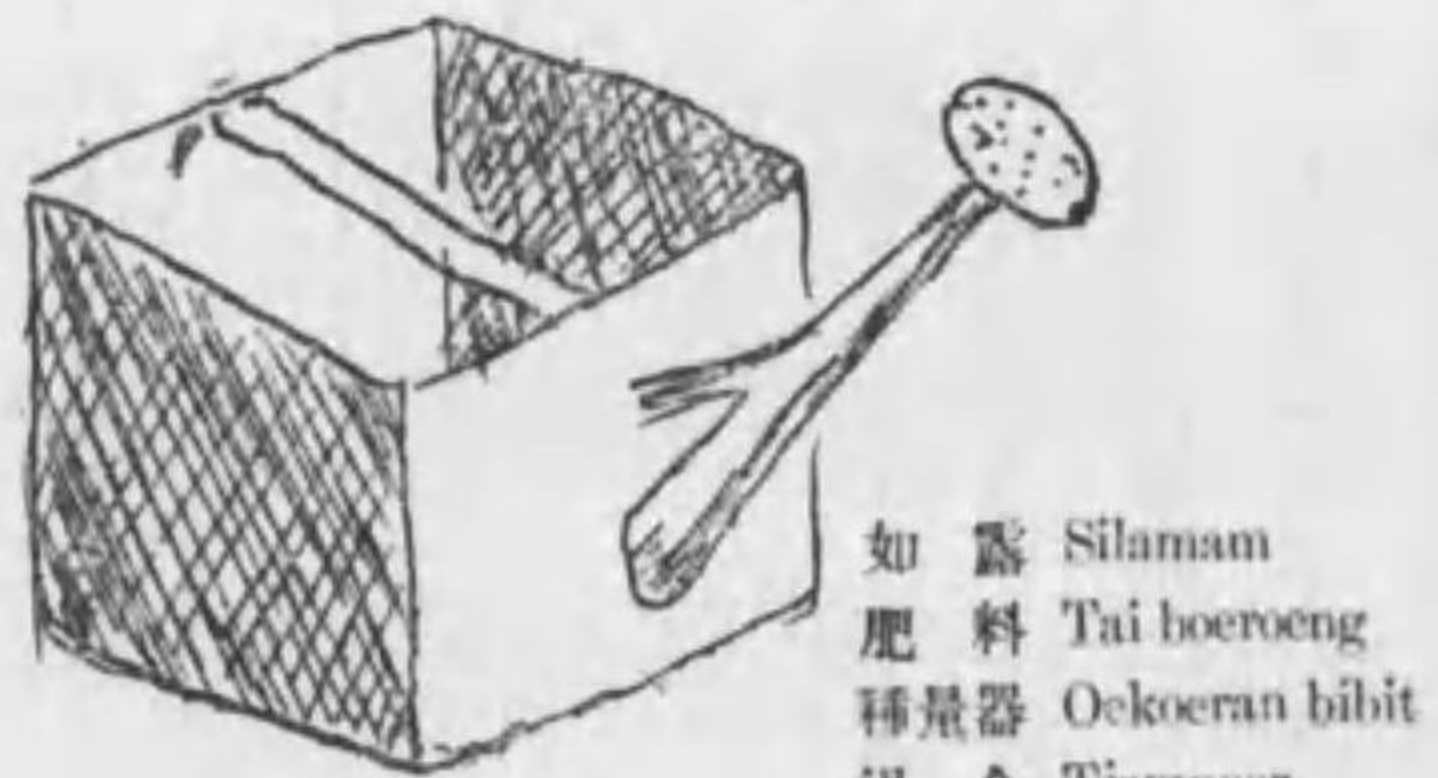
六、播種

前述の方法にて苗床出來せば、先づ播種前苗床に肥料を撒布すべし。肥料は Tai Boeroeng と稱し  
 其の容量約二合五勺乃至三合にて足る。然る後種子を如露に入れ水を注ぎ良く攪拌して、苗床面に  
 撒布すべし。是現今行はれつゝある最良の方法なり。此の外に粉土又は篩にかけたる木灰等と種子  
 を混合し撒布する方法あるも、成績思はしからず。肥料を Tai Boeroeng と呼ぶも馬來語直譯の鳥糞  
 にあらず。之れは土壤検査の上調合肥料を作り、之を撒布することゝ心得べし。量は四百瓦内外大  
 凡サラムの空罐一杯(其の容積高四吋半直徑三吋)を手にて入念に床上に振り撒き、後方長さ二〇—

法 驗 試 芽 發 (一) 圖 九 第



(入瓦五約) 器 量 種 及 露 如 (二)



如 露 Silamam  
 肥 料 Tai boeroeng  
 種 量 器 Oekoeran bibit  
 混 合 Tjampoer



關係等に依り、幾分遅速あるものとす。

播種日数は將來の植付期間、乾燥室の作業、並に醱酵室等の作業に關係あるものなれば充分注意

二五吋位の竹籠にて上土と良く攪き混ぜるものとす。此の撒布手数は一人苗床一に對し二三分間位  
 のものなり。肥料撒布後直ちに灌水を爲すべし。一床石油罐一杯の水にて充分なり。然る後播種す。  
 播種量は一床一・六瓦乃至二瓦位  
 其の容積は深さ一時、直徑八分の  
 六吋位の物に一杯の量とす。之を  
 如露に入れ水八分目を注ぎ良く攪  
 拌して入念に撒水すべし。尙ほ其  
 の如露に残留の種子ある惧れある  
 を以て、更に如露に水を注ぎ撒水  
 せば種子の残ることなし。

七、播種の時期及日數

デリ方面にては一月上、中旬頃  
 始むるを常とす。然れども雨量の

を要す。播種期間長きに過ぐる時は種々なる天候に遭遇し、又は病蟲病菌の發生する危険率多し。又期間短きに過ぐる時は生葉收穫時に於て一時に乾燥室に集まり、室内の不足を告げ、若しくは吊葉に勞力の損失を見ることあり。延いては摘葉を遅れしめ、爲めに良葉を得る能はざる失敗を來すことあり。要するに四〇日乃至五〇日を以て完了するを最も適當なりとの定評あり。今茲に一例を掲げん。

播種月日	苗床數	苗木數	播種月日	苗床數	苗木數	播種月日	苗床數	苗木數	播種月日	苗床數	苗木數	播種月日	苗床數	苗木數	播種月日	苗床數	苗木數	計																		
十二月十七日	四	11,000	十二月二十二日	四	11,000	十二月二十七日	三	11,000	一月七日	三	11,000	一月十四日	三	11,000	一月二十日	三	11,000	一月二十六日	三	11,000	一月三十日	三	二月九日	三	11,000	二月九日	三	11,000	二月九日	三	11,000	二月九日	三	11,000	計	11,000

摘要 一苗床より六〇—八〇〇本を養成す、播種日數五五日

之れは甚だ長き日數を要したる例なれども、諸種の事情に依り長期を要したるものなり。往年試験に供したるハバナ種は、二月二十八日播種三月五日夕刻發芽を見たり。三月十二日には葉の大きさは八分の一時に成れり。三月二十二日に至り、葉は親指の爪大に發育せるを以て夕景間拔を行ひ、直ちに撤水し、同日より Kamboe (蚊帳) を覆ふこととせり。斯くして四月十三日即ち移植の日迄は不良苗木の間拔に依り、一苗床六〇〇乃至八〇〇本の優良なる苗木を見るに至れり。更に最も優良なるデリ種子を取寄せ、四月三日之を播種せるに、六日目即ち四月八日夕景發芽を

見たり。而して二、三日の後殆んど全部の發芽を見たるに、四月十五日に至り發芽歩合の減少せるを發見し、何故なるや解する能はざりしも、四月十八日に至り赤蟻の爲めに喰はれたることを見届けたり。而して健全なる苗木を有する苗床は、五七苗床に對し僅かに一四苗床に過ぎざるを數へたり。斯の如き減少は獨り蟻害のみにあらずして、土質の關係する所亦少なからず。砂質の量多きは撒水毎に種子の沈下を招き、延ひて温度の關係に依種及ハバナ種の如きは、何れも六日間にして發芽を見たり。



挿入寫眞 九 爪哇女苦力間拔作業中の所

り發芽力を害することあり。尙ほ播種後愈々市場に出す迄の日數を計算することに依り、一層播種關係が將來に及ぼす所以を知り得べし。

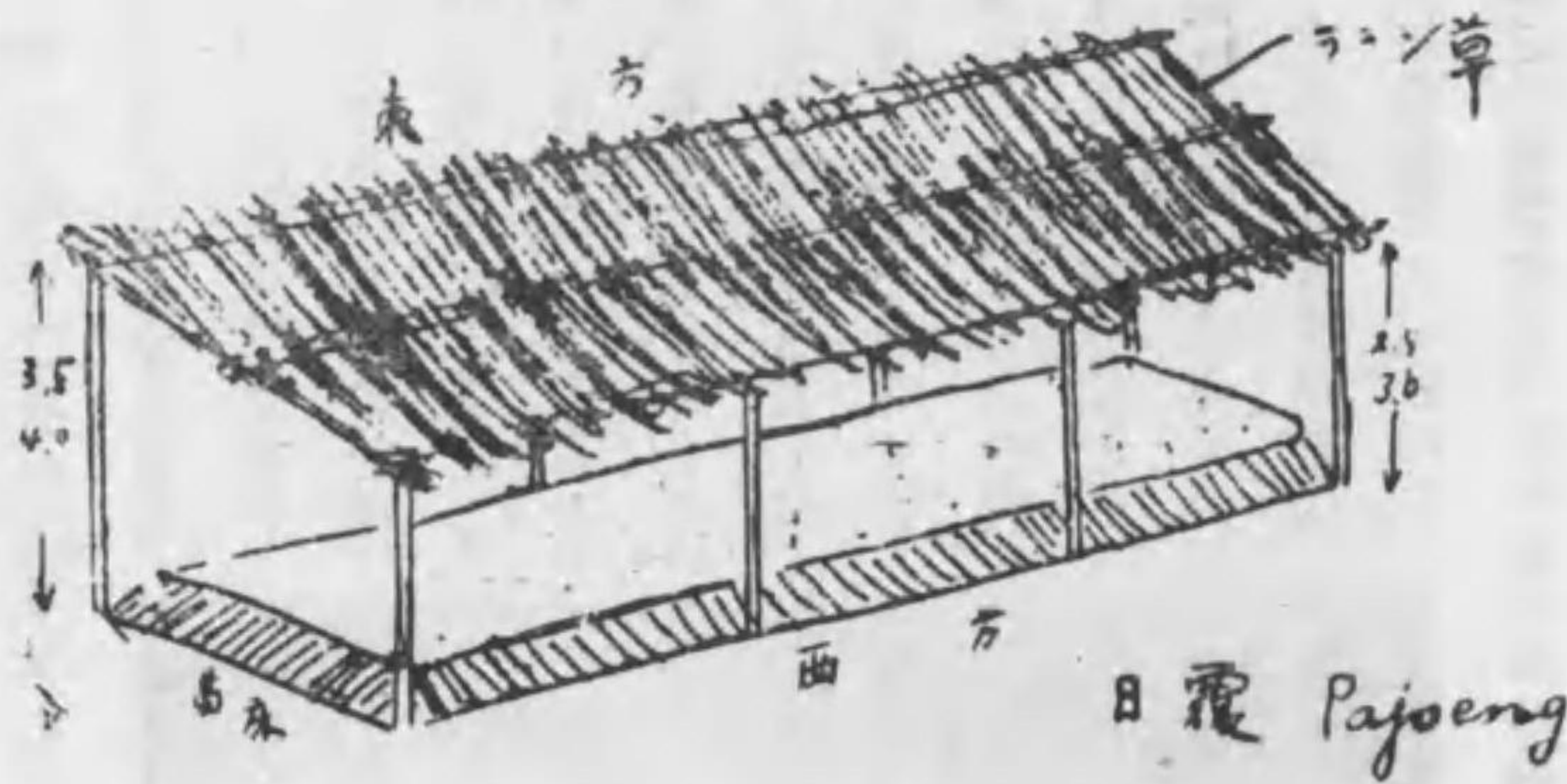
八、苗床の手入

發芽 苗は播種後六日或は八日位にして發芽するを普通とす。但し亞米利加方面より輸入せられたる種子にありては、少なくとも一五日乃至二〇日位を要するならん。兎に角實驗に徴するにスマトラ

**間拔** 苗は發芽後一五日乃至二〇日位の間に於て間拔するを要す。然らざれば苗は密生して細長き貧弱なるものとなる。間拔の方法は先づ一苗床を糸にて十分し、其の一區内の保存苗数を八〇乃至一〇〇木に至る迄間拔す。即ち上記の苗床型に依れば、三吋乃至三吋半方形の間隔に間拔することゝなるべし。若し間拔の日を延引するときは、病木及被害木を出し、更に貧弱なる苗木を作り大なる損失を見るに至る。

**撒水** 撒水は清淨なる水を要す。若し病菌類の恐れある時は過滿俺酸加里を投入し、消毒したる後に用ふべきなり。此の消毒法は和蘭人がデリに於て古く實驗し居たる方法にして、現在にありては設備の完全と共に斯の如き方法を行はずと聞けり。兎に角苗床の近くには適當の井戸を穿つ必要あり。井戸は早魃の恐れあれば充分考慮を要す。今假りに水が一苗床につき一日石油罐三罐の量を要するものとして 1 Congzi 30 litre とせば其の苗床数は、一、〇五〇を要すべし。故に之れが所要水量は三、一五〇罐、即ち一、八九〇立方呎の水を要する次第なり。別に降雨量加はるものありと雖も、之れを安全量として本計算水量を基算せざる可からず。故に水流の便に依ること最も有利なり。尙ほ撒水は播種當日より發芽出揃ひの日迄約十日間は、午前七、八時頃一回、午前十一時頃一回、更に午後四時頃一回、計一日三回を普通とし、其の後にありては午前八時頃一回、午後三時頃一回、計一日二回の撒水にて足る可し。撒水の不順は發芽及發育に至大の關係あるを以て必ず規則的にな

第一〇〇圖 苗床の日の覆

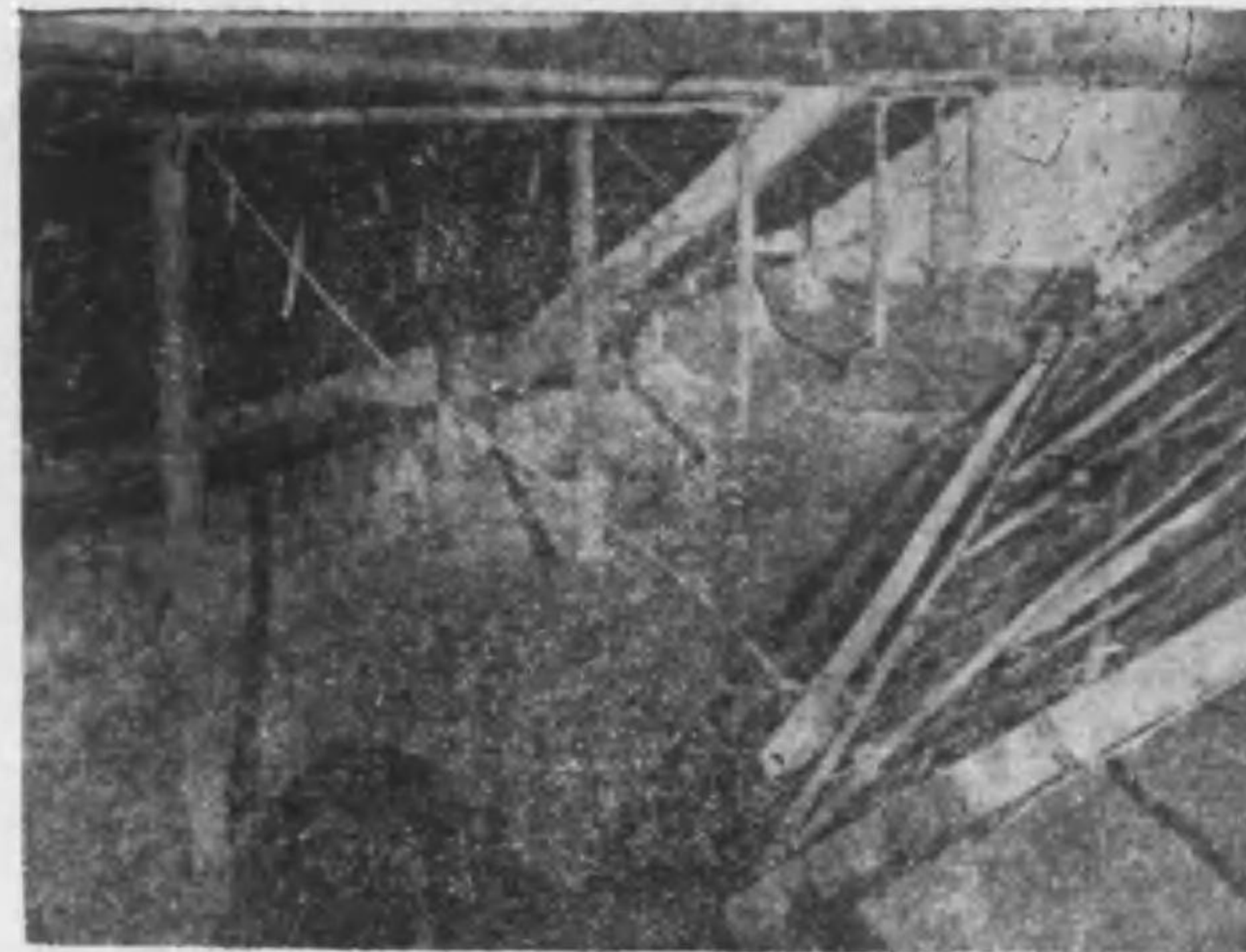


すを要す。

**日覆** 苗の未だ發育充分ならざる時、強雨に逢ひ且つ強烈なる日光を受くることは發育を害するものなるが故に苗床に、アタップ又はララン草の雨覆を作ること必要なり。但し東側は高く西側は低くし朝日を受けしめ、且つ日光の直射をも防ぐものとす。然して發芽後三〇日乃至三五日間を経れば、苗は日光に曝さるゝも平氣なるを以て、全然取除くものとす。但し日覆を除去せんには先づ其の四、五日前より日覆のララン草を畝田に結びて間隙を作り、除々に日光の透過を計り、後ち豫定の日に除却するを最も安全なる方法とす日覆の構造は上圖の如し。

**病蟲害驅除** 發芽後間もなき頃最も恐るべきは蟻害なり（此の蟻は赤き小さき蟻にして其の中には女王とも稱すべき體格五匹大のものあるを見るべし）。此の蟻害に依りて、往々四、五日にして六〇パーセントの發芽を喰盡さるゝこと甚な

しとせず。故に之れが驅除方法としては、播種後直ちに蟻の最も好物たる胡桃科の土名 Kemeli (一名 Boiah Kraus) と稱する果實を二、三箇に碎き、之れを竹筒に納めたるものを苗床の片側に三、四本づつ、即ち一苗床に六、八本を適當の距離に突き差し置くべし。然るときは蟻は此の香を辿りて筒内に群集すべし。而して之を發見する度毎に靜かに之れを抜き取り焼き盡すべし。之れを繰返す中には苗も相當發育するを以て増すこと當然なり。ボルドーの合劑の調製法次の如し。



(りあき開は覆日)苗幼と圃苗 ○— 眞寫入挿

喰はるゝの懼れなし。之れ最も注意を要すべきことなり。

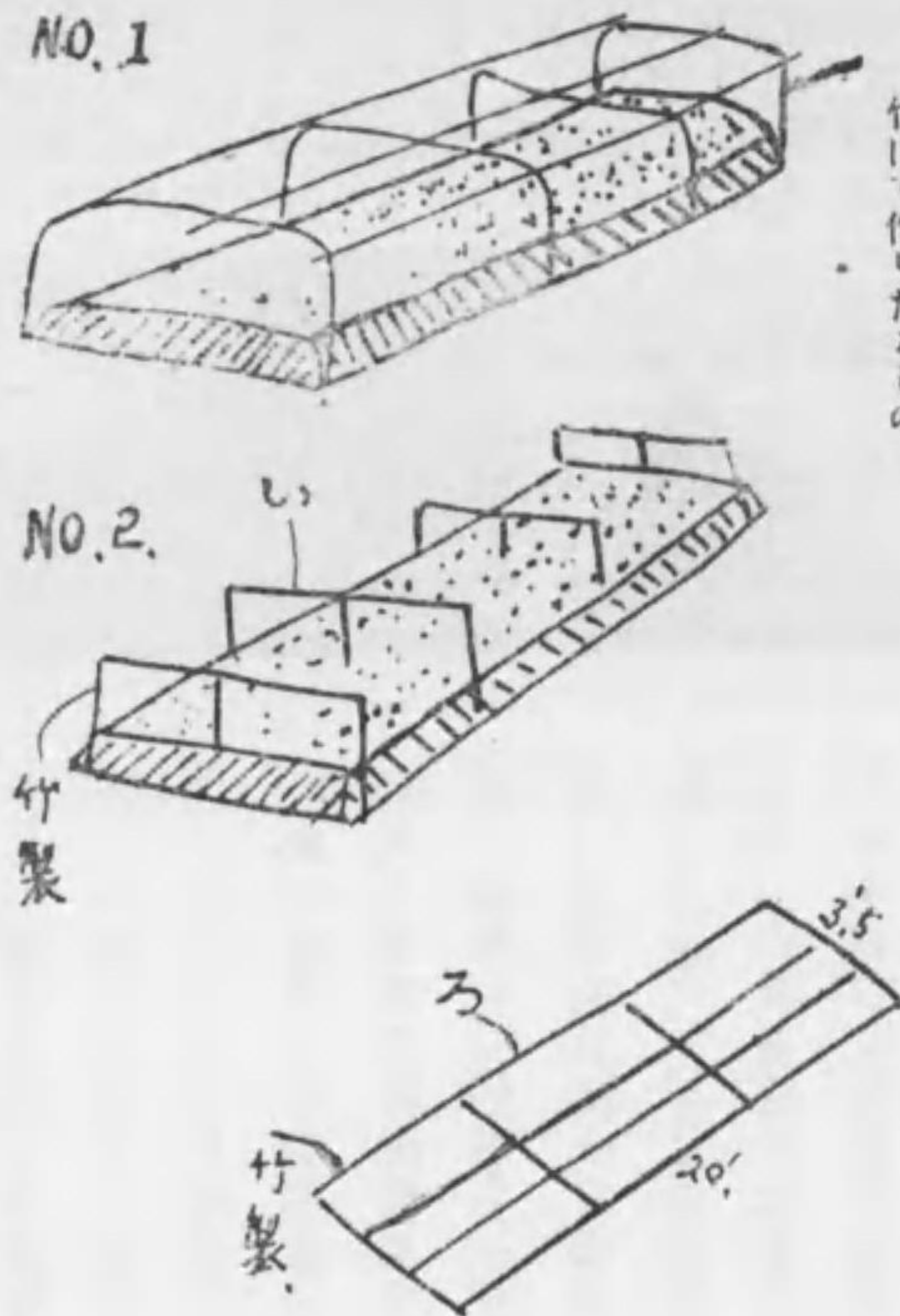
尙ほ發芽後一〇日乃至一五日頃に至れば、殺菌劑 (ボルドー合劑) を噴霧器を用ひて撒布し、殺菌するを要す。噴霧の方法は葉面全部が濕める程度とす。噴霧後降雨あらば更に噴霧すべし。降雨なき場合は一〇日乃至一二日毎に之を行ふ。尤も被害多きときは回数を



所るあゝつし布撒てにブムホを劑合—ドルボ — 眞寫入挿

硫酸銅一二〇匁、生石灰一二〇匁、之に水二斗を加ふるものを二斗式と云ひ、水三斗を加ふるものを三斗式と云ふ。最も普通行はるゝものは二斗式なり。

第二圖 苗床蚊帳下地構造圖 竹にて作りたるもの



め、一方生石灰は適當の水にて溶解し乳液となす。而して大なる木製桶の上に布を覆ひ之に兩液を

同時に注ぎて塵埃を濾すものにして、曩きに溶解の爲め使用したる水量は二斗より差引き、其の残水を混入攪拌してポルドー合劑となす。合劑の良否は輝ける小刀を入れて之に銅が附著するや否やを検し、若し附著せざるときは適當なる配合なることを知る。若し銅が附著する場合は附著せざる迄生石灰乳を増すものなり。但し本劑は七、八時間を経過すれば效力減退

二一 眞寫入挿



業作草除の床苗 (二) 所るたり作を覆目の床苗 (一)



所るせ示を方り張の帳蚊 (四)

するを以て、可成新鮮なるものを用ふべし。尙ほ外部の害虫を防ぐ爲め蚊帳様の覆布を用ふ。之に二、三種あれども白くして麻の混合しあるもの、耐久力に於て經濟なり。此の覆布を Kamboc と云ふ、Kamboc の覆ひ方に二種あり(第一圖参照)。第一の覆方は普通用ひらるゝものにして竹にて作り付けとなす。第二の方法は丁寧なるものにして、いの上にも載する

ものなり。而して何れも之に布を覆ふものなり。後者はろを取り外し得るを以て作業に便なり。布は晝間取除きて日光を受けしめ、夜間之を覆ふものにして、午後五時頃覆ひ翌日午前五時半頃除去するものとす。尙ほ苗床は毎朝可成八時以前に害虫の驅除を行ふべし。其の方法は竹籠か若くは指先にて捕へ、之れを籠中に入るゝものなり。籠の中に約七八分の水を入れ置けば、脱走を防ぎ得ると同時に蟲と蟲との粘著をも防ぎ得て計算に便なり。ありたる時は數回に互り灌ぐものとす。Roofarcante 三五〇瓦 (Red arcante) (Gro ene zeep 五四〇瓦 (煉石鹼) Water 〇・六立方尺 (約一斗)



三一 眞寫入挿 而して捕へたる蟲は監督者に提供せしむべし。監督者は之れを一々計算し土中に埋没す。但し捕蟲作業が請負にあらざる時は計算の要なし。一般苗圃の捕蟲は受持苦力の常務作業なり。夫れより移植三日前頃に左記の藥液を灌ぎ、其の間降雨



本薬品は先づ $\frac{1}{2}$ の水量にて良く攪拌溶解し、然る後温湯 $\frac{1}{2}$ を加へて作り冷却するを待ちて使用するものとす。之れ即ちローダシナタ液なり。

撒液は噴霧器に依るものにして、苗床に潜伏し居る殺菌剤にしてデリ方面にて良く使用せらるゝと云ふ。又レッド・アーセニック剤をも用ゆることあり。

Ortho dry arsenate of red basic

成分	Arsenic oxide	二〇—二五%
	Red arsenate	二〇—二五%
	Inert masser	五—一〇%
	Soluble arsenic	Trace

前記合剤はレッド・アーセニックを二割、石鹼水三割の割合にて作りたるものなり。

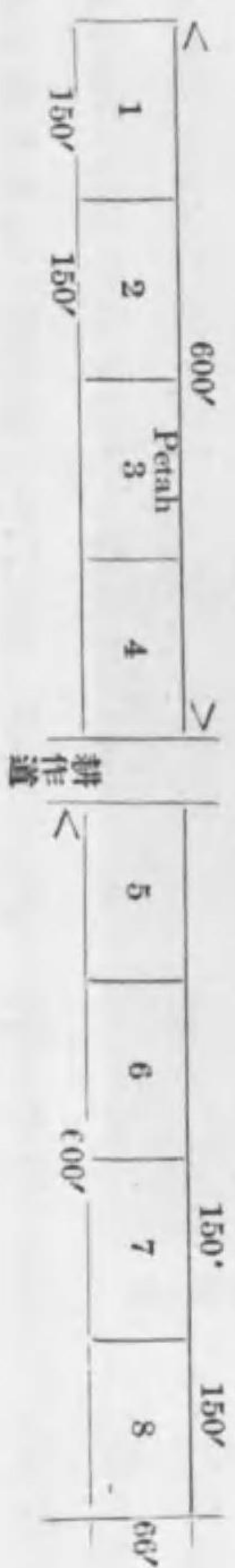
**移植期** 苗は播種後四〇日乃至五〇日にして移植可能期に入る。即ち低地は早く高地は遅きを常とす。然れども土壤及肥料の關係等に依りても遅速あり。筆者試験のハバナ種にありては播種後四五日にして移植せり。苗木は大小様々なりしも、其内大なる葉にありては長さ五吋五分、幅四吋を見たり。葉数は普通五乃至八枚なり。幹長は三・五乃至五吋範圍のもの多かりき。

## 第二節 本 圃

**移植地取** 本圃の地取りは地勢及經營者の方針に依り種々なれども、筆者の経験せるものは幅一デッパ(六六尺)、長さ二〇〇デッパ(一、二〇〇尺)の長方形にして、南北に之れを長く採れり。又其の半は幅二〇ニデッパ(一、二〇〇尺)、長さ一〇〇デッパ(六〇〇尺)の東西長方形なり。デリ方面にては幅一五デッパ、長さ一五〇デッパ、内外の區劃ありと云ふ。要するに區劃は各園同一ならず。勿論經濟的區劃の定評あるも未だ淺學にして耳にせず。

而して此の區劃は苦力一名の受持區域にして、俗に之れを *Satse Kehon* と稱す。各區域は抽籤の法に依り各苦力の受持を決定するを普通とす(抽籤當日は苦力頭主となりて大宴會を催す習慣あり)。割り當てられたる區域は更に六乃至一二等分するものとす。此の小區劃を *Petah* と稱す。

第二圖 一苦力受持區域の區切り



各小區劃の間には左右より三尺宛、六尺の歩道又は排水を設くるものとする。故に一區劃の實際植付面積は更に縮小するものにして、或園の例に倣へば一

Plotは幅10. Dep.長は24. Dep.は0.24acにして、一區劃は一・九二英反なり。苗木を二列植とし苗木間を一尺五寸に採れば、一小區劃は二、八八〇本にして一區劃二三、〇四〇本植付となるものとする。要するに區劃の幅及長さは地形と經營方針に依り一定せずと雖も大體に於て幅一一乃至一五デ



四一 眞寫入挿 (頭力苦哇瓜はるて立に右)所の業作起打の力苦哇瓜

後を受持苦力の責任にして、ララン草の根を拾ひ、草木根を掻出し、土を良く掻均し、以て植付の準備となすべし。



五一 眞寫入挿 所るあいつり掘を穴植し爲を繩り張

準備となすべし。

植付順序 移植は小區劃の第一區より順次植付くるものにして、植付日数は數十日間に互るを普通とす。之れは播種及發芽關係に依ること勿論なれども、一時に多量の苗を植付くるは摘葉時に至り種々の故障を見るのみならず、天候關係亦起因すればなり。

試みに植付關係を假定すれば次の如し。

苗床播種	播種後日數	植付日取	日數	植付本數
十一月一八日	四六日目初め	一月二日より	七日間	五、七六〇本
十一月二五日	四六日目初め	一月二日より	七日間	五、七六〇本
同 二八日	四七日目初め	一月二日より	五日間	四、三二〇
同 十二月三日	四八日目初め	一月二日より	六日間	四、三二〇
同 一月一八日	四六日目初め	一月二八日より	四日間	四、三二〇
同 一月二二日	四七日目初め	二月六日より	四日間	四、三二〇
計				即ち 四〇日間 二三、〇四〇

右の數字は全く假定的のものなれども、移植の將來に及ぼす影響は決して小なる問題にあらざる

なり。即ち植付期長き時は未だ植付完了せざる所あるにも拘らず、先きに植付けたる煙草は既に成熟し、一区内に新植付苗と成熟苗とを見るが如き結果を生じ、作業上非常に不便なり。然れども又不良なる天候に遭遇し前半の收穫を損失することあるも、後半の收穫を見るか或は後半の收穫を失し前半の收穫を得るか何れにしても收穫皆無の難を免かるゝ事なきにあらず。

更に長期植付は乾燥室の數を減じ得べし。例へば一乃至五〇日とす。



挿入写真 六一 二列式株間交互に植付けたる所

棟五區劃乃至七區劃を收容すべきものが七區劃乃至一〇區劃を收容し得べし。然れども長期植付は前述の通り作業監督の不便に加ふるに天候不順に出會するの機多く、且つ害蟲驅除に多額の費用を要するのみならず、延いて醱酵作用の完全を期する能はざると共に經費増加するを以て、各事情を繰合して中庸を採用すべきものなり。

因に收穫期は植付後四〇日

**穴掘** 移植に先だち一バツ又は一區劃に對する苗木數を決定せざるべからず。其の數量は園により異なるも、普通一八、〇〇〇本より二四、〇〇〇本の範圍内とす。デリ方面に於て多く採用せらるゝは二〇、〇〇〇本式なり。

更に本數の決定と同時に一列植、二列植の何れかも決定せざる可らず。デリ方面にありては普通二列植を採用し居れり。以上の方法決定せば之に基き杭立を行ふべし（杭は竹を割りたる長さ二尺位のものにて足る）。然る後其の植付本數に依つて定められたる目盛りの（植付距離の印は赤布を結び付けたるものを用ふ）綱を張るものとす。此の際綱は杭より約三吋位を隔つるを便利とす。然して其の内側に赤布に従つて一鍬宛、深さ約五―六吋の程度に穴を穿つべし。

前述の如く植付方法には種々あれども、列は二列植、一列植の二種にして株間の距離種々あれども大體次の如し。

二列植 株間を一・五呎或は一・八呎乃至二呎とし列と列との間を一・五呎位にし畦の間を三呎おき位とす。

一列植 株間を一・五呎乃至一・八呎とし畦の間を三呎位とす。

是等の植付法に依り一區劃の植付本數異なるべく、又従つて區劃を大小することは屢々述べたる所なり。

施肥

以上の如くにして穴掘を了せば移植前に施肥を行ふものとす。肥料は基肥及追肥の二回に施すを普通とす。肥料要素は其の土地の土質調査の上、適當なる調合肥料を採用すべし。土壤分析をA. V. R. O. S. 試験所或はテリ煙草試験所に託し、調合肥料を算出し、購入するを良しとす。基肥の分量は一本當り五乃至七瓦なり。追肥は其の發育關係に依り加減すべしと雖も、普通六乃至七瓦に過ぎず。最も瘠地砂地等にありては用量の手加減を要すること勿論なり。基肥は五十本宛計算し、運搬器に直立に入るゝを要す。故に運搬器を縦に起し、之に横に入るれば便利なり。



七一 眞寫入挿  
苗を抜き取り籠りに入れ本園に搬送せんとす  
(籠を横にこすところと中文本に説明せしむる所なり)

植付前、追肥は第一回培土の節施すを普通とす。

移植

穴掘を了し之れに基肥を施せば、次に苗木を運搬せざる可からず。苗木を苗圃より引抜くには早朝若くは植付と同時になすを要す。但し早朝引抜きたる苗木は蕨の類を以て覆ひ日光に晒さざる様注意を要す。苗木を引抜くには苗木に充分給水を爲して土を軟かにし、根の損傷なき様注意すべし。又引抜く時は



八一 眞寫入挿  
本園の中の水路を掃き除く  
（共に側土に掃き清めたる所あり）



（二）苦力受持區域の境界線と水路と設けのり  
（苦力受持區域の境界線と水路と設けのり）

植付は普通午後四時即ち日光の西に傾く頃より著手す。運ばれたる苗木は先づ一穴一本宛に配置し、肥料は直接根に觸れしめざる様注意すると共に、肥料は片側の土に混じ、苗木を覆ふべき土は他の側より採りたるものを用ふべし。或は肥料を表面土に混じ苗木の根を其の下に位する程度に植付くべし。但し深植は慎むべし。尙ほ次の如き帳簿に各苦力の植付本数を記載し賃金の計算に便せしむ。

苦力の野業計算帳簿雛形

No _____		Veldno _____		
Naam _____				
No	Aantal	Aantal	Totaal	Bemerking
Petak	Vijen	Doozen	Doozen	
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				

Doorsnee Oatvang Prijs \_\_\_\_\_  
Bedrag.....S \_\_\_\_\_

元來植付は規定に依り、一本何程を支拂ふの契約を爲すものなればなり。然して植付終らば直ちに給水するものとす。給水量は一本に付一合乃至一合半位の量にて足る。如露は此の際尖端の霧噴きを取り除き給水するものとす。一日一人二〇〇本乃至四〇〇本を植付くるを普通なりと雖も、實際

にありては八〇〇本位迄植付くることあり。一旦萎れたる苗木は翌朝に至り復活するを見るべし。  
**撒水** 移植後約三、四日間毎夕刻撒水を爲すべし。最も降雨ありたる時は撒水の要なきこと勿論なり。尙ほ移植後一〇日乃至二〇日間降雨なき時は撒水を爲すの要あり。苦力は毎日撒水より捕蟲、藥劑撒布等總て自ら之を行ふの義務あるものとす。

(二) Acherontia の幼蟲が煙草の葉を喰ひつゝある所 (Oost Indische Culturesより轉載)



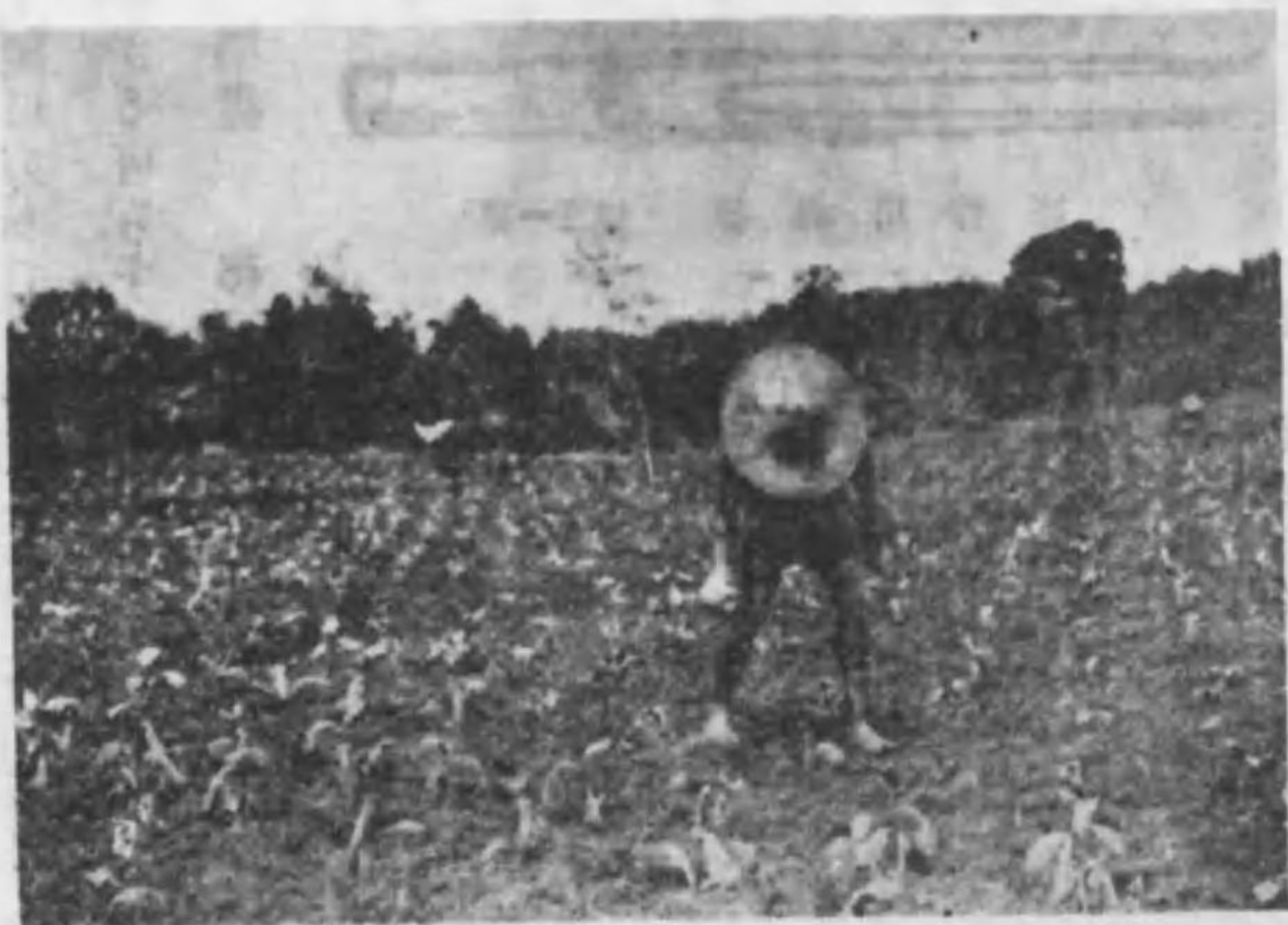
(三) Chloridea albolinea の幼蟲に煙草の天葉を喰害せられたる所 (Oost Indische Culturesより轉載)



**補植** 毎移植

後苦力は各自受持區域の苗木に付き其の活著歩合の検査を監督者に乞ひ、其の本數の受渡しを爲すものとす。而して活著不良なるものにはありては補植を爲すこと勿論なり。補植苗木は豫備苗を用ゆるものにして夕陽之を行ふものとす。但し第二回培

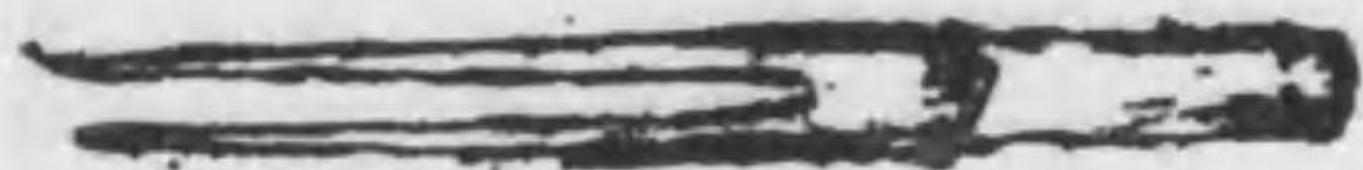
(一) 挿入寫眞 一九 補植を要すべきものを調べつゝある受持契約支那苦力



土後にありては補植するも其の成績思はしからざるを以て、可成移植後二週間以内に之を行ふ様努めざる可らず。

捕蟲

移植後毎朝苦力をして捕蟲作業を爲さしむべし。蟲害多き場合或は苦力の捕蟲作業充分ならずと認めたる場合は女、子供等をして捕蟲作業を爲さしむべし。捕蟲作業は請負にして十匹を何程と計算するを便利とす。捕蟲方法は竹鉄を使用せしめて一列毎に進ましめ、葉の外側より先きに調べ、三と稱する處を最後に入念に調べしむるものとす。時間は昇旭と共に開始し、午前一〇時乃至一時頃に引上げしむ。捕蟲は水を入れたる白き小瓶に入れしむるものとす。然して捕蟲の数は小板の上に一〇匹毎に苦力に計算せしめ置き、監督者は之に依つて計算するものなれども其の内二―三の数を検査し、間違なき時は一〇匹宛を目當に計算受領するものとす。中には一匹を數匹に作るものあるを以て之れ亦注意を要す。斯の如くにして受取りたる蟲は地中深く埋没すべし。捕蟲の請負賃銀は時に依り變動あれども、一〇匹一仙乃至二仙の範圍を普通なりと云ふ。記者の監督實驗に依れば女苦力にして最も多く捕獲せるものは一、一二〇匹にして、普通は七〇―八〇匹なりき。假りに八〇〇匹とし一〇匹一仙とせば八〇仙の收入を得べし。但し捕獲量少なきに至れば之に従事する者少なきを以て、單價を上ぐる必要あり。亦多き時は單價



第一三圖 捕蟲用竹鉄

を下げて以て中庸を探らざれば、蟲害に及ばず影響少なしとせず。尙ほ蝶(即ち母蟲)及蟲の卵は幾分値良く買収するものとす。蝶を捕蟲網にて捕へしむるも可ならんも工程極めて鈍きものにして實行困難なり、Pokok Bouting と稱する寄生蟲の捕獲には、小刀を以て幹を切開摘出せしむべし。尤も第一回培土前ならば植替へを爲さしめ、培土後の場合は單に摘出せしむるのみにて足る。



挿入寫眞 二〇 殺蟲劑を撒きつゝある所の(棒)を立て終る(の)印をせよ

驅蟲藥 (一)パリス・グリーン(Paris green)劑—Paris 水 150 gallons に良く攪拌し撒布するも可なれども、葉面に斑點を生ずるの恐れありとかにて、當ス

尙ほ Paris green 1 pound を 封度六〇乃至八〇(仙位)。本劑は篩に掛けたる粉土と混合し、圖の如き器に依りて一本毎に其の處に撒布するものとす。但し撒布は午前五時半頃より午前七時半頃迄を適當時とす。即ち朝露のある間宜しく、露の消えたる後は藥劑は良く葉面に止まらず。従つて效果薄し。尙ほ Paris green 1 pound を

第一四圖 パリス・グリーン撒布器(トタン製)



用上注意を要す。撒布量は一本の木に對して一振り位の程度にて足る。尙ほ蟲の繁殖力に依り回数に多少を要するは勿論なれども、五日乃至七日毎に撒布するを可とす。最も降雨ありたる

マトラ栽培地にては使用せず。勞金高き亞米利加地方にては人力捕蟲に依らず殆んど此の Paris Green 剤にて驅蟲すと聞けり。但し本劑を眼に入れば盲目となるを以て使場合は更に撒布を要すること勿論なり。藥劑の調合は次の如し。

Paris green 1 pound. 土砂 1 bushel (日本の一斗九升四合)

尙ほ Paris Green 撒布の効果に付て説明すべく記者のノートを見るに六月中旬頃より蟲害多きを認めたるを以て六月二十八日、同三十日兩日全苗木に對し Paris Green を撒布せるに、其の結果捕蟲數を減せる事左記の如し但し其の間降雨を見ず。捕蟲苦力は女五名にして、受持場所を定めて捕蟲せしめたるものなり。七月六日に至りて數を増したるは藥劑の既に效力を失せるものなるべし。

月日	増減	捕蟲數
25/6	-	3230
26/6	- 250	2980
27/6	+ 100	3080
28/6	- 930	2150
29/6	+ 640	2790
30/6	+ 1650	4440
1/7	-	公休日
2/7	- 1760	2680
3/7	- 1210	1470
4/7	- 450	1020
5/7	+ 370	1390
6/7	- 140	1250
摘		
要		

増減	捕蟲數
-	3230
- 250	2980
+ 100	3080
- 930	2150
+ 640	2790
+ 1650	4440
-	公休日
- 1760	2680
- 1210	1470
- 450	1020
+ 370	1390
- 140	1250

六月三十日に特に多かりしは苦力の月末私経済上の結果を加味するものと云ふべく其他諸原因ありたるものなるべし

挿入寫眞 二一 Schenckium Kaulsi の被害に依り萎縮せる狀況なり (Oost Indische Cultures より轉載)



以上の統計に依れば約半減せるものなり。尙ほ其の間一、二回降雨ありしは一層其の効果偉大なりしを想像し得べし。

(一) Tobacco 除蟲液 Koetoko loom—即ち俗稱油蟲

Tobacco (爪哇産の廉價のもの) 一肝

Soap (煉石鹼の方可なり) 二肝

Water 二・五升

調製の方法は先づ所要水量に水を入れ良く攪拌し、全く Soap の液體になれるを見たる後 Tobacco を入れ攪拌煮沸すること約二〇乃至三〇分の後篩にて

Tobacco 及塵芥を掬ひ、之れに水二五乃至三〇倍を加へて薄くし、それを Pump にて葉面に充分撒布す

病蟲害豫防 病蟲害豫

るものとす。撒布は早朝行ふを常とし二、三日にして滅殺を見るものにして效力決して搗しとせず。防として道路の兩側若くは各排水の兩側を掃除し焼拂ひを行ふべし。但し植付前にあらざれば苗木焼失の恐れあるを以て其の期を失すべからず。尙ほ園の周圍は五〇—一〇〇呎通りを掃除焼拂ひを爲し、園外より害虫の侵入を防ぐべき事必要なり。

病木に種々あれども傳播すべき立枯病の如きものあり。

培土 培土は普通二回とす。第一回培土は移植後一週間にして行ふを普通とす。追肥は即ち第



二二 眞寫入挿 所たし爲な土培ち即げ上畦の草煙

りたる時は、直ちに掘起し之を焼去するを要す。然らずして殺菌劑撒布を爲し延引するに至れば却て其の區域を擴大するの恐れあればなり。尙ほ土中には石灰を撒布し、病菌の殺滅に努めざる可らず。更に一部葉面の病菌にありても傳播すべき性質のものにありては、之を摘葉し焼去するを宜しとす。姑息の手段は却て禍を残すの恐れあり。

一回培土の際施すものにして、可成肥料の苗木に觸れざる様注意すべし。而して培土は苗床中にありし葉即ち大きくなりたる葉を埋むるまで高く土を盛り上ぐるを要す。葉を埋むることは生葉を腐敗醱せしめて肥料の分解を早からしむること、及び目的の葉(收穫すべき葉)は本圃に移りて後ち發生する葉を養生する意味に於て、葉を埋むるものなり。更に第二回培土は苗木の發育状態に依ると雖も、普通二週間後に施行するを常とす。



三二 眞寫入挿 態状の後のたし葉摘

此際亦出来る丈け畦を高くなさしむるを要す。

摘芽 發育不完全なる木又は病木にありては、往々莖と葉柄の所に腋芽の出づるを見

るべし。之は常に摘取して發育の頂伸を計り、同時に相當手當を加ふるものとす。若し摘芽せざるに於ては又木となりて葉の收穫に萬全を期する能はざるに至るべし。

尙ほ摘葉期に入りて後ち適當の折に摘葉を行ひ、幹の伸長を止むる方法をも講ずる所あり。然し現在にては餘り行はれ居るを耳にせず。



第三節 收穫

摘葉の時期 摘葉は植

付後四〇日乃至五〇日目頃に始むるを普通とす。砂地、高地竝に肥料關係等に依り早く或は遅く、低地は比較的遲きを常とす。摘葉は葉の成熟適度を見計ひ行ふものにして中々に至難なる作業なれば、多年の經驗に待つの外なし。成熟せる葉は其の表面處々に雲形の隆起を生じ、又綠色の葉色微か



挿入寫眞 四二 摘葉作業の中全景

に黄ばみ、葉縁彎曲して巻き上がるの氣味に至り、更に黄褐色の一小點を見る時は摘葉の最適時なり。若し更に一兩日を経る時は黄褐色の小點數箇を生じ、過熟を示すものなり。過熟の葉は其の中の分解性の成分の一部莖に逆流して葉質粗惡となり、乾燥すれば色赤く葉は厚く堅くなりて劣等の製品となる。又未熟の葉は脂多く黒色を呈するに至る

べし。

葉の種類 煙草は成熟せば七―一〇呎の高さに及び、著葉は普通二五乃至三〇枚位なり。摘葉は地上より順次幹上に向ふものにして、二〇乃至二五枚位に止む葉の分類は次の如し。

- |                   |        |     |
|-------------------|--------|-----|
| 最下部の四枚 (二枚乃至五枚)   | 砂葉(土葉) | 二等品 |
| 砂葉より上八枚 (八枚乃至二三枚) | 下葉     | 一等品 |
| 下葉より上四枚 (四枚乃至七枚)  | 中葉     | 三等品 |
| 中葉より四枚 (三枚乃至五枚)   | 上葉     | 四等品 |

第一五圖 煙草の種類を表す圖



上葉以上は普通摘葉せざるも、市價好況を呈せる場合及葉の長さ十吋以上のものあるときは摘葉收穫すと云ふ。

挿入寫眞 二五  
煙草の收穫



葉の名稱

蘭語	馬來語	邦語	支那語
Tap blad =	duon Kapura =	上葉 =	Sinkoi pjoh
Midden blad =	Tonga =	中葉 =	Ton
Yaet blad =	Kaki =	下葉 =	Kah
Zand blad =	Pasal =	砂葉 =	Zoeh

摘葉方法

監督者より其の前日夕刻摘葉の場所及摘葉數の大體を苦力に命令するを普通とするものにして、摘葉は早朝より始め遅くも午前九時頃迄に終了せしむる様努むべし。然れども成熟の工合によりては午後四時より摘葉することあり。但し降雨の際は摘葉す可からず。摘葉は畑の一端より一畝毎に一葉宛良く熟視し、成熟せる葉は右の手にて葉柄を摘みて丁寧摘葉す。而して左手に移し漸次積上げ一〇〇乃至一二〇枚に至れば耕作道に出で、Pikeelanに垂直に入れしめ、これを繰返すものとす。

挿入寫眞 二六



所るせ示を方ち手に手右てし葉摘 (一)



所るあゝつみ積に念入を葉の草煙にンラクピ (二)



ンラクピるたみ包てにラベムアリ終な葉摘 (三)  
所ふ向にルサンバき捲を



のもるあに中葉摘の葉中(一)

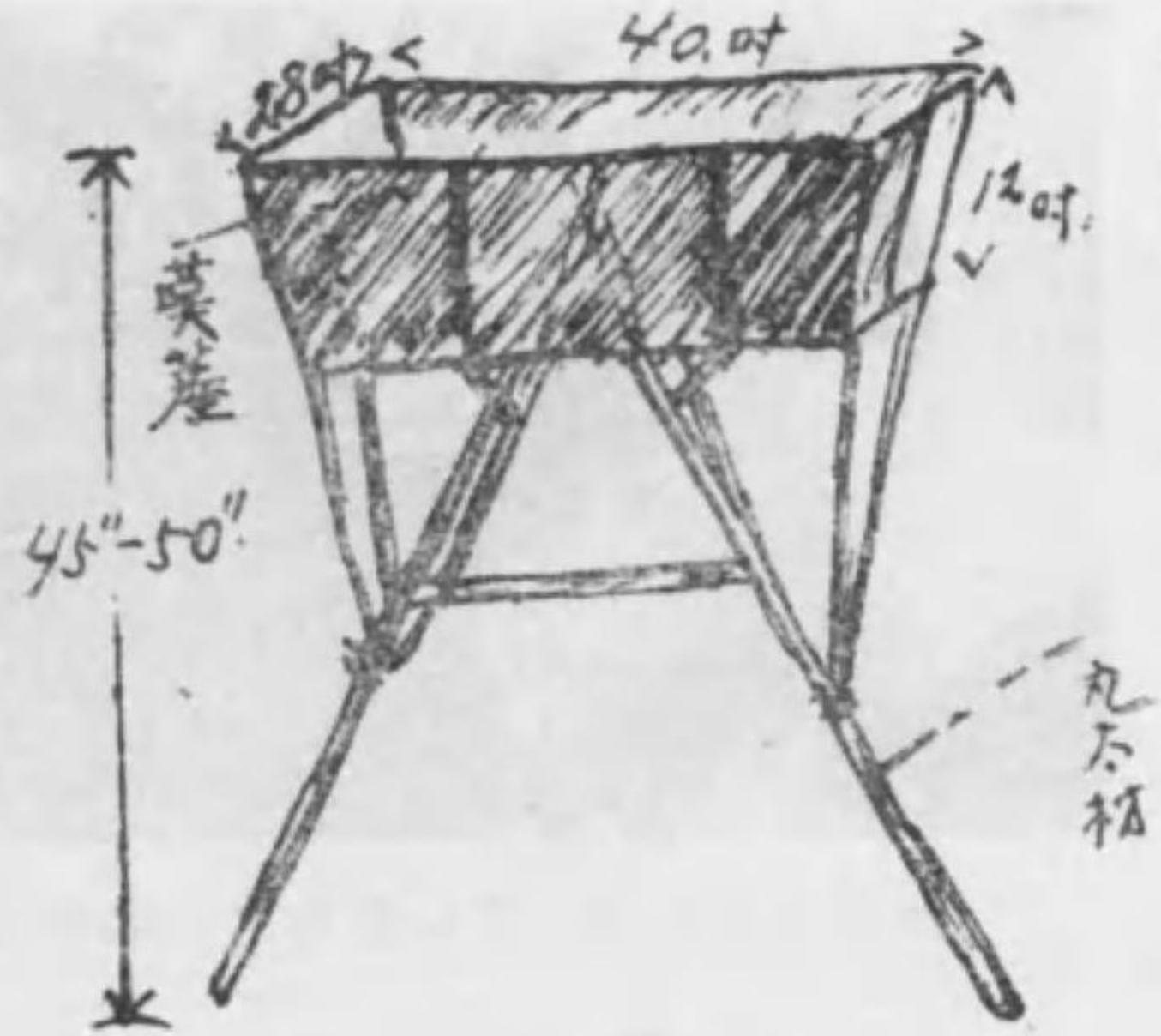
挿入写真 二七



(二) 天葉を摘葉せる殘骸木

垂直に重ねることは水分の流出を便にし葉を壓せざること、並に酸酵を防ぎ脂を生せしめざる故なり。尚ほ積込みの際葉を毀損せざる様注意すべし。一旦折れたる葉は其の線跡を失はず爲めに價額低廉となればなり。摘葉終了せば莫産を以て其の上を掩ひ、日光の直射を防ぐ様にして乾燥室に運搬するものとす。

第一六圖 Pihooian



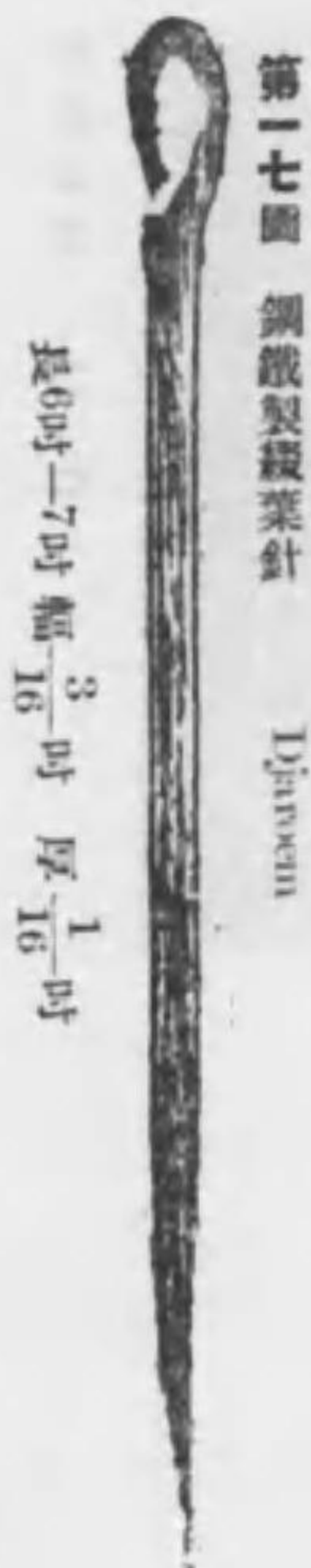
摘葉賃は四、〇〇〇枚 (Anuk Kajoo 100本分) に付三〇仙位を普通とす。乾燥室に運搬せる摘葉は指定の場所に莫産を敷き其の上を下ろし、順序良く四〇枚乃至五〇枚毎に垂直に置かしむるものとす。摘葉数は一日一本に付き二枚乃至三枚を普通とす。下葉は可成二枚位に止め、上葉は時として三枚乃至四枚位を摘葉すること稀れならず。

# 第五章 乾燥

## 第一節 乾燥迄の基本知識

乾燥葉の區別 砂葉及下葉は之を交互に同一乾燥室に入るゝも差支へなけれど中葉、上葉は他の乾燥室に入れしむるを要す。之れ即ち前者と後者との乾燥日數異なるが故なり。

綴葉 乾燥室に運ばれたる生葉は鋼鐵製の針を以て葉柄の基の所を貫き、長さ七尺の麻絲にて葉數四〇乃至五〇枚を綴り合すものとす。但し葉は裏合せになし葉面と葉裏と



第一七圖 鋼製綴葉針  
長6吋—7吋 幅  $\frac{3}{16}$  吋 厚  $\frac{1}{16}$  吋



八二 眞寫入挿  
各力が受持区(ホク)よ運搬せざる葉を穴に針鐵に部基の葉が力苦女(内ルヤン)に刺しつけられ、(メ・リマ)糸綴りにあつる所

挿入寫眞 二九

(一) 麻絲に綴りたる葉を吊竿(Amuk Kajoo)に結びて葉を順序よく並べつゝある所



(二) 検査済みの葉を高く葉掛木(Kilias drom)に掛けんとしつゝある所



合はざる様になすものとす。綴葉の作業は普通午前十時頃より始まり夜業に反ること珍らしからず殊に曇天の日にありて

(三)



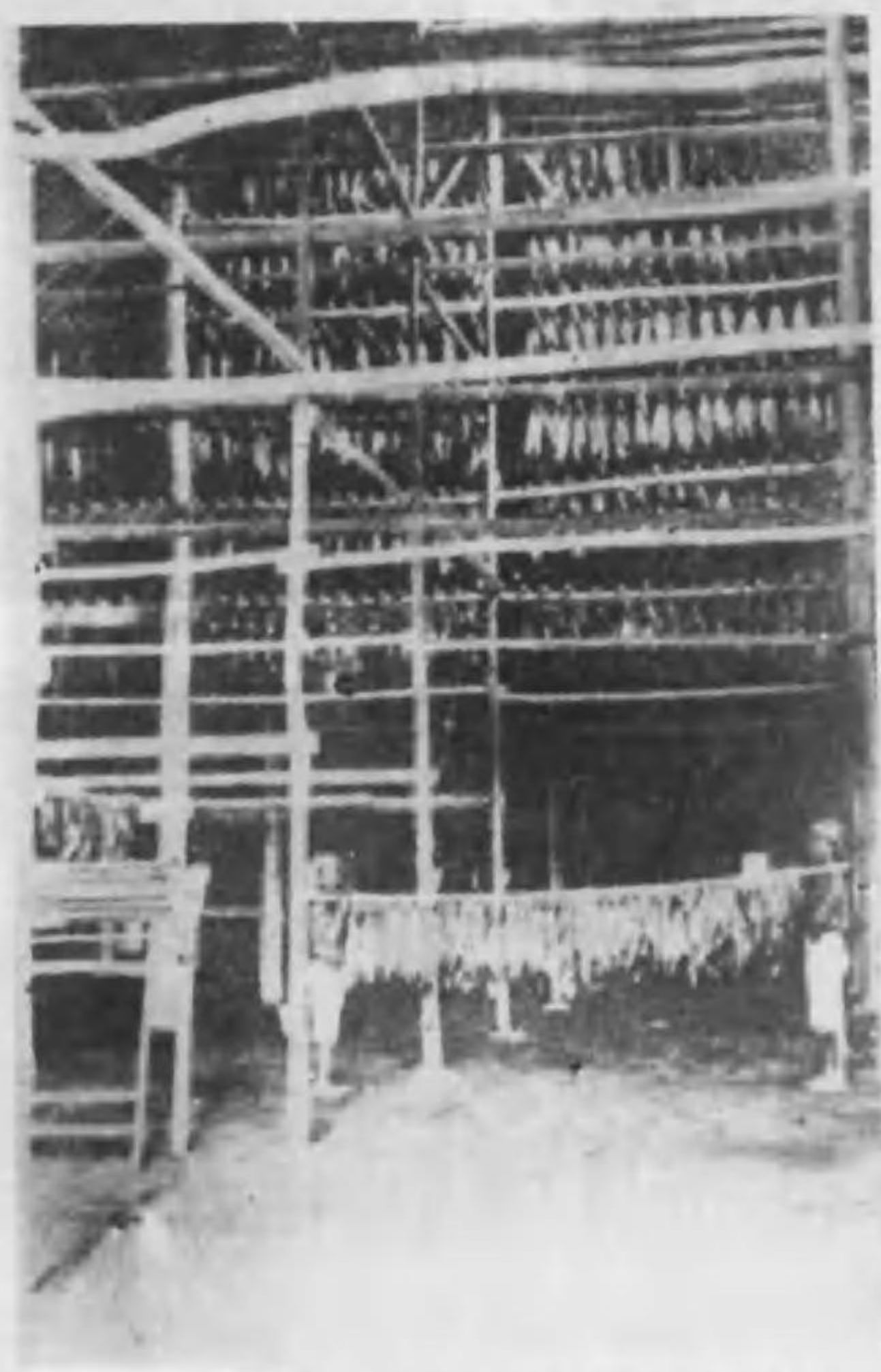
受を準備せしむるに計し易し掛に助けの手を檢査する

は午後一時頃より始まるを以て夜分十時頃に至る事あるべし。綴葉の作業工賃は Amuk Kajoo 一〇〇本即ち葉數四、〇〇〇枚に付四〇仙位なり。綴葉の際種類異なる葉を同一

竿に綴らぬ様、可成注意を要す。尙ほ苦力は作業中手下に光線を取る爲め勝手に窓を開放することあり。

然るに天候過潤又は過乾の場合には室内煙草に悪影響を及ぼすを以て、監督者は常に窓の開閉に注意せざる可らず。夜業用ラムプは主としてカンテラを用ふ。

吊り竿 四〇乃至五〇枚に綴りたる生葉は、長さ七呎五吋の竿(Ank Kujoo)(若くは九太)の兩端八乃至一〇吋を  
残したる所に結び  
著け、葉は一乃至  
二時間隔に順序よ  
く竝べ、綱の垂れ  
下がるを防ぐ爲め  
其の間一―二箇所  
を Kojit Kajoo(木  
皮)にて吊るもの



挿入写真 〇三 乾燥室内の部

とす。但し此の吊り方は極めて簡單を要し、後日の解結に便せざる可らず。吊り竿に結び著けたる生葉は、監督者の検査受領迄一定の所に集め置き、検査後豫定

の室の上部より掛け始むるものとす。竿と竿との間隔は普通八吋内外とす。

生葉受取 生葉受取は普通其翌朝にして、監督者は所定の枚数の有無及綴合せ方の適否、各種葉を混合せることなきや、又葉の成熟工合、一日一本當り何枚位を摘葉せるや等のことに付き能く檢

査したる後ち吊り竿を計算して受取るものとす。此の際受持苦力頭を隨行して、不都合の點ある場合は其の責任を問ひ、若し不都合の點二、三回を重ねる時は、賃銀削減の代りに、竿数を減するものとす。但し記帳には其儘の數を記載するものなり。此の際往々にして監督者と苦力との間に紛擾を醸すことあり。受取帳には自由苦力名、受持苦力名、乾燥室番號、受取月日、葉の種類を記載するを要す。

乾燥室の収容量 乾燥室は構造に依り収容量異なれども、普通一區即ち Sutoe Kanur には六〇〇本即ち二四、〇〇〇―三〇、〇〇〇枚を収容し得べく、假りに 二〇 Kanur とせば七二〇、〇〇〇―九〇〇、〇〇〇枚を収容し得るものとす。

## 第二節 乾燥

乾燥 煙草の葉は収容後一四乃至二〇日の日數を要す。即ち砂葉の如き薄きものにおいては一四日位にして乾燥し、中葉、上葉の如きものにおいては一八日乃至二〇日間を要す。但し天候に依り日數を異にする事なしとせず。尙ほ乾燥室に於ける注意事項次の如し。

- (一)晴天の日は午前八時頃全部の Tongkap(窓)を開放し、午後四時頃閉塞するものとす。
- (二)日光が直入する窓ある時は之を閉ぢ葉に日光を當てしめざること、然らざれば乾燥葉の色に變

化を來す。

- (三) 吊るされたる葉が互に接觸し破損を來すが如き風ある時は其の方向の窓を閉づべし。
- (四) 雨天或は濕潤なる場合(霧の多き時)の如きは窓を閉ぢ空氣の置換に依る黴菌の浸入を防ぐべし。
- (五) 天候不順の場合は乾燥室の各區劃に二乃至三箇所に一尺五寸平方深六寸位の穴を穿ち木又は木炭を燃焼すべし。燃焼は夜中十二時頃より翌朝六時迄とす。但し收容後五日乃至七日を経たる葉に限る。若し生葉の時は急激の熱により葉質を變化せしむる恐れあるのみならず、惡變すればなり。尙ほ燃焼場所に吊るされたる竿は之を左右に掻き寄せ、火氣を直接觸れしめざる様注意すべし。
- (六) 栽培初年度にありては、建物材料及地面の濕氣に加ふるに生葉より滴るゝ水及濕氣により、室内地面常に濕潤なるを免れざる故時々土間の打起しを爲し室内の乾燥に努めざる可らず。
- (七) 吊り竿が常に八寸内外の距離にあること及葉と葉が接觸せざることに注意す可し。
- (八) 乾燥室の各柱の基には蟻害防禦として *Perill Klink* を碎き此れを竹筒(六乃至七寸の節あるもの)に入れ埋没すべし。而して蟻群を發見する毎に燒去すること苗圃の場合に同じ。尙ほ煙草の害蟲を防ぐ爲め *Thoume* (腋芽)、不用葉、枝葉等を拾ひ來り、各柱の下部に置き蟲の集まりたるを見て燒去すべし。
- (九) 乾燥室内にて乾燥中の葉が蟲害を受けざるや、未乾燥ならざるや、各柱にある表に基き生葉の

受入日、受取竿數等に注意を要す。

- (一) 窓の開放は常に九〇度に開くを要す。
- (二) 乾燥室番人の動作に注意し、常に乾燥室内を清潔に掃除せしめ莫産、麻絲、竿等は一定の場所に置かしめ、保管の任に當らしむ。尙ほ妄りに外出せしめざる様注意すべし。

乾燥表 乾燥室各 Kamar の柱に掲げらるゝ表は左圖の如きものにして幅四吋長さ六吋の厚紙のものなり。

Schuur				
No.				
Kamar No.				
Vulling	Soort	datum van Vulling	aantal stokken	datum van afbundelen
1				
2				
3				
4				
5				

*Schuur No.* は乾燥室番號 *Kamar No.* は乾燥室内の區劃番號 *Vulling* の所は回数なり。 *Soort* は葉の種類にして *V M T* 等の略字を用ふ。 *datum van Vulling* は懸け滿たされたる月

日、aantal stoken は葉の懸けられたる竿の數、datum van afbundelen は乾燥終りて醗酵室に送り出したる月日なり。

尙ほ一乾燥室の全部を知る爲めに次の表を一棟一枚宛備へ置くを便利とす。

Schuur No. ....		Congsi No. ....		Tondel .....		1928
Hari	Anak. kajoe Banjak	Daon Banjak	Dnon Apa	Kamar	Hari toeron	
20/3	2,121	8,450	Z	3	4/4	
22/3	4,401	176,040	Z	5	6/4	
23/3	558	22,320	Z	1	7/4	
24/3	827	33,080	Z	1	7/4	
25/3	2,289	91,560	Z	3	10/4	
27/3	2,584	103,360	V	4	12/4	

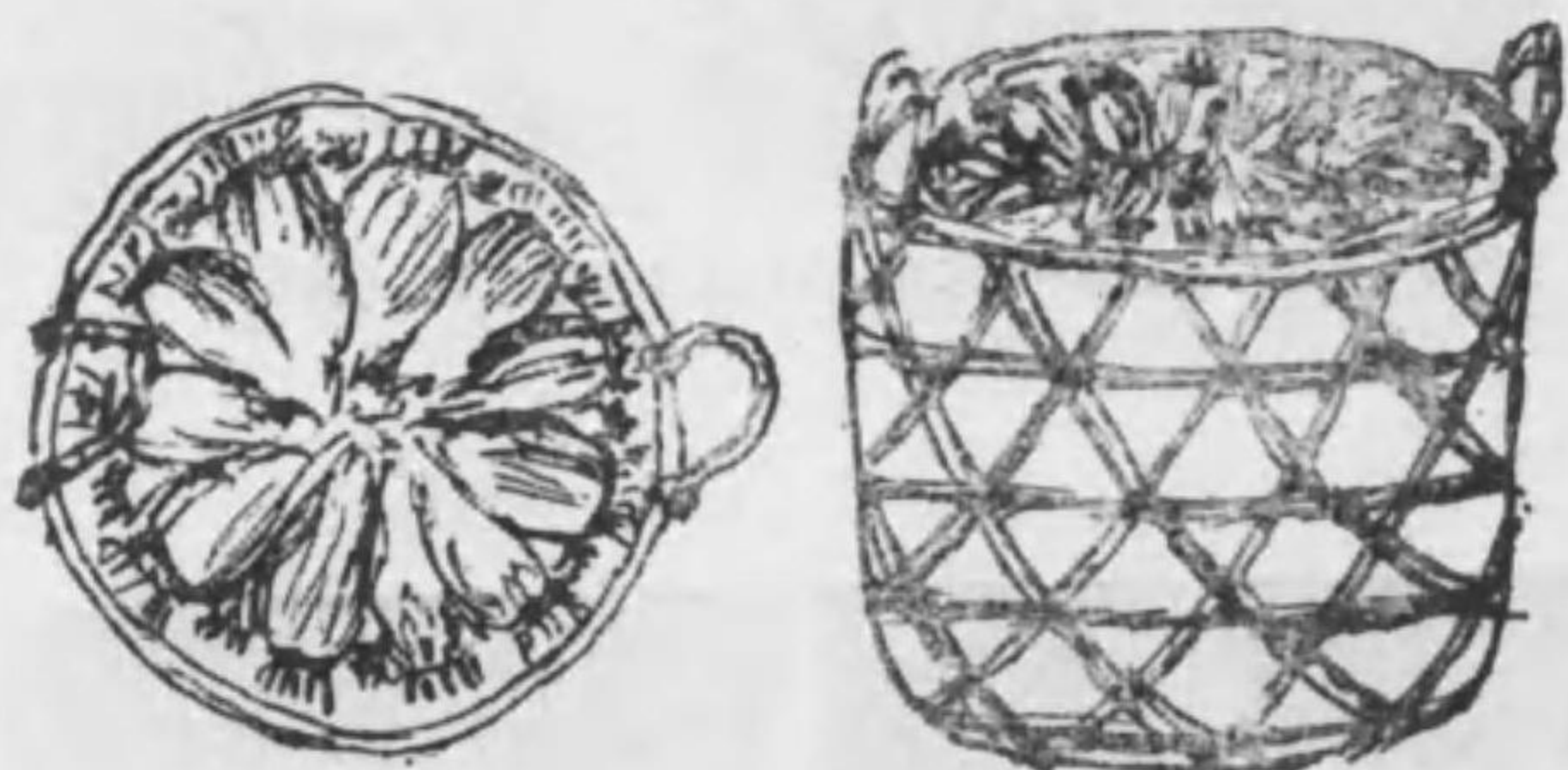
↓醗酵室へ運び出した日附  
↓室内區劃の番號  
↓葉の種類  
↓葉の枚數  
↓竿の本數  
↓乾燥室に入れた日附

### 第三節 乾燥葉の搬出

煙草の葉の乾燥せるものは葉の主葉脈を挫折せしめざれば屈曲せしめ得ざるに到り、其の葉の乾燥完きを知るべし。之を注意する爲め一公司に熟練の苦力四人乃至五人を定めて之れが任に當らしむ。但し完了後一人につき五盾内外の手當を給せば足る。

乾燥したる葉は一竿の葉四〇乃至五〇枚を一括し一束となす。乾燥過ぎたるものは破損し易し。此れが結束は夜分八時より行ふものとす。晝間は葉に損傷を來たす恐れあるが故なり。其の結束負は一〇〇束に付き一盾乃至一盾半位の範圍なり。夜業其の中は總て莫産張りとなす。莫産は可成長くし此れを以て上覆と爲し得る位になすべし、此の入

Klandjang



圖八一第 乾燥葉を容るる籠

に要する石油は圓の負擔とす。結束したる乾燥葉は圖の如く籠(Klandjang)の中に二〇〇乃至二五〇束を積重ね中間を空虚ならしめ温度高まらざる様注意すべし。籠に納めたるものは一夜乾燥室に留め置き翌朝醗酵室に人肩に依り送るものとす。醗酵室と乾燥室とが遠き場合は運搬箱(Pikoelan Pati)を用ひ、牛車にて運搬す。

Klandjang も Pikoelan Pati も

れ物は風袋を秤り、側面に其の量を記載し置き煙草計量に使せしむるものとす。尙ほ乾燥室より酸

一三 眞寫入挿



所るす搬運に室醇溜み積に車牛てれ入に籠を葉るたり終燥乾 (一)



のもる送室に醇溜み積に車牛てめ取に箱搬運守ひ用を籠 (二)

酵室に煙草を送る時は次の様式の傳票を附し數量を明記し、盜難を防ぐものとす。

No.	
Droogschuur No.....(乾燥室番號)	
Aantal bundels.....(煙草束數)	
..... 切り離し線 .....	
No.	1928
Droogschuur No.....	
Aantal bundels.....	
Tandil.....	
Gewicht	
Bruto (たばこと籠の重さ).....kilogr	
Tarra (籠の重さ)....."	
Netto (正味重さ)....."	

便宜上五〇枚綴に印刷されあり、砂葉には赤、中葉には黄、下葉には白、上葉には青等の色紙印刷に依るものとす。此の傳票は大苦力頭保管し、以下の分は酸酵室苦力頭に委すべきものとす。

#### 第四節 乾燥室の構造

乾燥室(Panzer)は三年乃至四年間使用するものにして、耕作地は毎年其の位置を換ゆるを以て、耕作地との距離關係及交通關係を熟慮研究の上決定すべきものとす。尙ほPanzerの方向は風向きの關係を調べ強風に堪ふるの方向を採らざる可らず。大さは長さ一八〇尺、幅七二尺にして室内は三〇箇に區劃せられ、一區劃は幅六尺、長さ二〇尺とす。材料は總て丸太材にして其の種類多く、此れに次ぐ



は Athap なり。故に山地にあらざる耕作地にありては、事業計畫と共に先づ之れが方針なかる可らず。

亦材料運搬力を多用すること容易ならず。建設期間は短かきを常とするを以て一層準備に意を注がざる可らず。

(二) パンサル内の構造と番人 (Djuna Kamposi)



挿寫眞 三二 (一) 乾燥室 (ルサンバ) の全景を以て各窓を開けつる所

を要する爲め、支那人を手傳はしむるを以て便利とす。建築に際しては一本の釘をも使用することな

尙ほ本建物には特別の技術を要するを以て、斯業に經驗ある苦力頭に請負はしむるを便宜とす。普通此の技に長ずるは Kamliu 人なり。但し第一第二の柱建てには強力

く、全く鐵線のみにて結束するものなり。之れ風力に抵抗が強きが爲めなり。アタツプは總數約四〇、〇〇〇枚を要し、屋根は二吋半葺に、壁は六吋位に重ね綴るものとす。屋根には。アタツプ押へを爲し、アタツプが風の爲めに捲き上げらるゝ事なき様作らざるべからず。アタツプを綴る Rattag (藤を細く割きたるもの) の數亦甚なからず。周圍の窓は總てラタン綴りにして何れも上方に開くの設備なり。蝶番に代ふるに鐵線を以てし、數十尺の高き窓もラタンを一線に依り開閉自在なるの裝置とす。内部は大中小柱の六並びにて大柱は地上三六尺の高さ、中柱は地上二〇尺及二八尺の二種とし、小柱は一三尺の高さとす。大中小三本の柱には長さ三五尺の支柱を禰に組み、更に中柱より中柱に左右に長さ二二尺の支柱を出し、五本の柱の連結を爲す。此れを六尺毎に三一並びを作りて三〇箇の區劃を設く。三一並びの柱は支柱及 Kiziz namin (桁) なる木にて結び付け、大中小柱には更に吊り竿を掛くべき Kiziz thuan なる木を二尺五寸おき十一段に結び付け、屋根下地は Kiziz djuntan, (Gochong spehlong) (母屋木及種) にて造らるゝものとす。出入口は前後二箇所に造り、周圍に幅二尺乃至二尺五寸、深さ一尺乃至一尺五寸の排水溝を掘鑿すべし。以上述べたる所のものは柱七本建てなるも或ひは八本建てのものあり。本構造に要する材料を記せば次の如し(柱七本建)。

材料名	長さ	大さ	數量	摘	要
Tiang I	40'	末口4寸	31本	根入四尺	

”	II	31'	”	4'	62本	”	3'
”	III	23'	”	”	62	”	3'
”	IV	15'	”	”	31	”	2.5
Kajoe djantam		35'	3'		150		
Kilas anging		25'	3 $\frac{1}{2}$ '		200		
” daon		25'	2 $\frac{1}{2}$ '		2,000		
Kajoe betina		15'	1'		1,000		
” dendling		15'	1'		800		
” angkap		7'	1'		800		
Toetoept tiang		20'	4'		100		
Goeloug goeloug		20'	2 $\frac{1}{2}$ '		1,000		(Pinan をも用ふ)
Sokong I		43'	4'		100		
” II		25'	3'		58		
Attap, inde attap		15'	1 $\frac{1}{2}$ '				
Rattang					600束		

鐵線 1-2-3m. 取り混ぜ 約 30斤

Kajoe Tjabang (窓明け木)

76本

高所の窓明け用 Rattang 及 Kajoe tjabang

若干

以上の材料取り揃へ、大小柱の建設は園の負擔として假りに Orang Iankier (バンヂャル人) に請負に附するとせば、一棟約六〇〇盾乃至八〇〇盾の範圍ならん 苦力米は園にて爪哇契約苦力並みに支給するものとす。竣成期間は一棟約三〇乃至四〇日間を要すならん。要するに一棟仕上げ一切約三、〇〇〇乃至四、〇〇〇盾を要す。即ち一坪當り八盾乃至一一盾の範圍に見積り大差なからん。

## 第六章 醱 酵

## 第一節 堆積醱酵に関する概念

普通醱酵の *Stapel* は次の如し。

A. <i>stapel</i> = 40-50 pikoel	B. <i>stapel</i> = 80-100 pikoel
C. " = 160-200 "	D. " = 320-400 "

醱酵作用に於て砂葉と下葉とのみは必ず別に *D. stapel* を作るの要あり、異種類の葉を堆積せば完全なる醱酵を爲す能はず。七五パウにては *D. stapel* に各種混合にて堆積するに非ざれば此の作業を爲すを得ず。依つて各種類の葉を別々に *D. stapel* になすには一五〇パウ、即ち一五〇畑を栽培せざる可からず。一畑二一 *Pikoel* の生産は可良の畑なり。普通六乃至一四 *Pikoel* 生産なりと云ふ。今、假りに栽培面積七五パウとせば平均二一 *Pikoel* と見るも九〇〇 *Pikoel* に過ぎざるなり。各種の葉殊に上葉と中葉とは必らず砂葉、下葉より區別して堆積すべし。前者は油氣(脂)多く後者に種々の影響を及ぼ

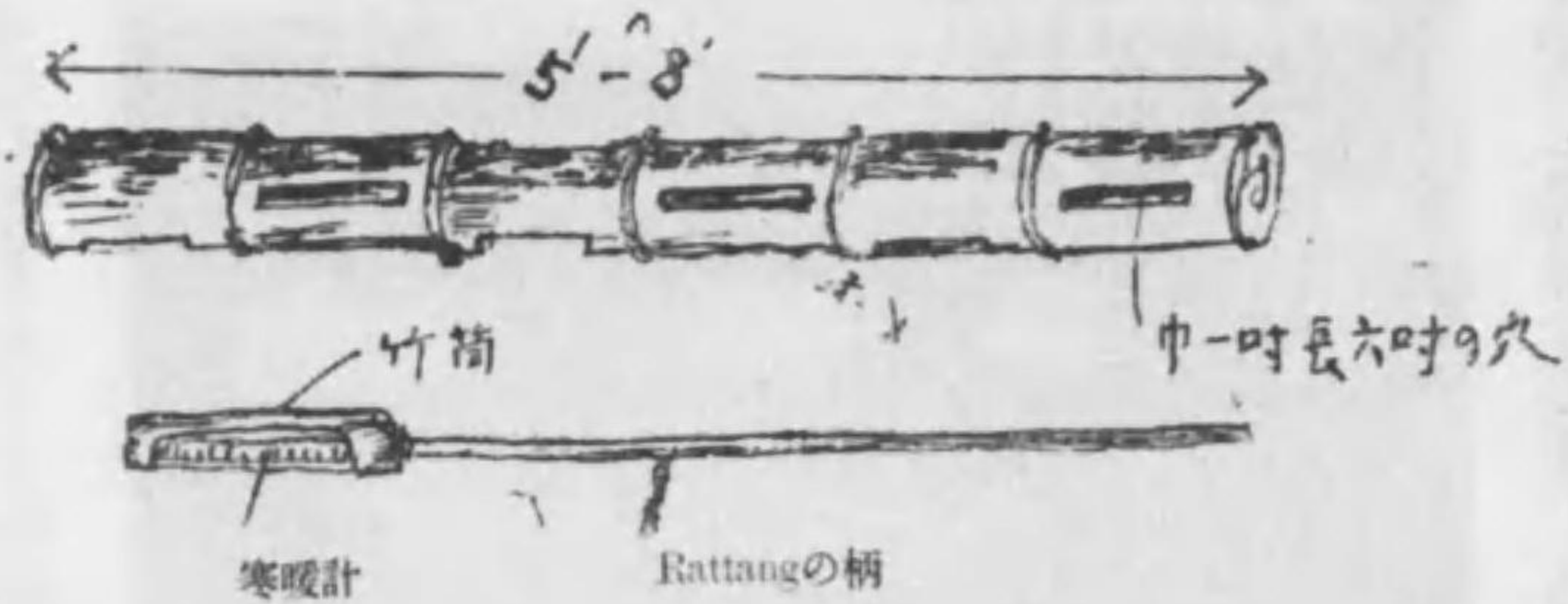
せばなり。下葉は生産中の大部分を占め且つ價高きものなれば、必ず此の種のみにて *D. stapel* を堆積醱酵し得る様栽培するを有利の條件とす。

## 第二節 醱 酵 大 意

煙草を堆積する日数は、苦力の熟練と否とに依り非常に關係する所大なり、最も苦心を要する所なり。デリの各園にては一〇年乃至二〇年一醱酵室に勤務せる苦力少なからず。依つて葉の種類病蟲菌害の葉の良否、油氣の有無、乾燥の度等を検すること及び堆積方法迅速なり。

今順序として乾燥葉が乾燥して籐籠に入れられ醱酵室に運ばるゝ際は、籠と傳票に依り醱酵室苦力頭 (*Tandil Ketil*) 之を受取り(籠には其の重量を明記し置くこと、普通八、九斤なり。傳票は前述のもの) 臺秤にて秤量し、土人書記は之を帳簿に記載す。醱酵室支那苦力頭は此際葉を取調べ若し未乾燥のものあるときは再び乾燥室に返送するものとす。受取りたる各種の葉は一定の場所に約五乃至一〇擔の小積となす。而して四〇擔迄に達する間の秤量に就ては、*パレパレ (Palipale)* なる木製運搬器と共に秤量すべし。勿論運搬器の重量は一〇斤位に調製するを要す。尙ほ此際經驗ある苦力をして病害蟲菌が葉に附着し居らざるかを吟味すること肝要なり。

筒竹るれ入を計暖寒 圖〇二第



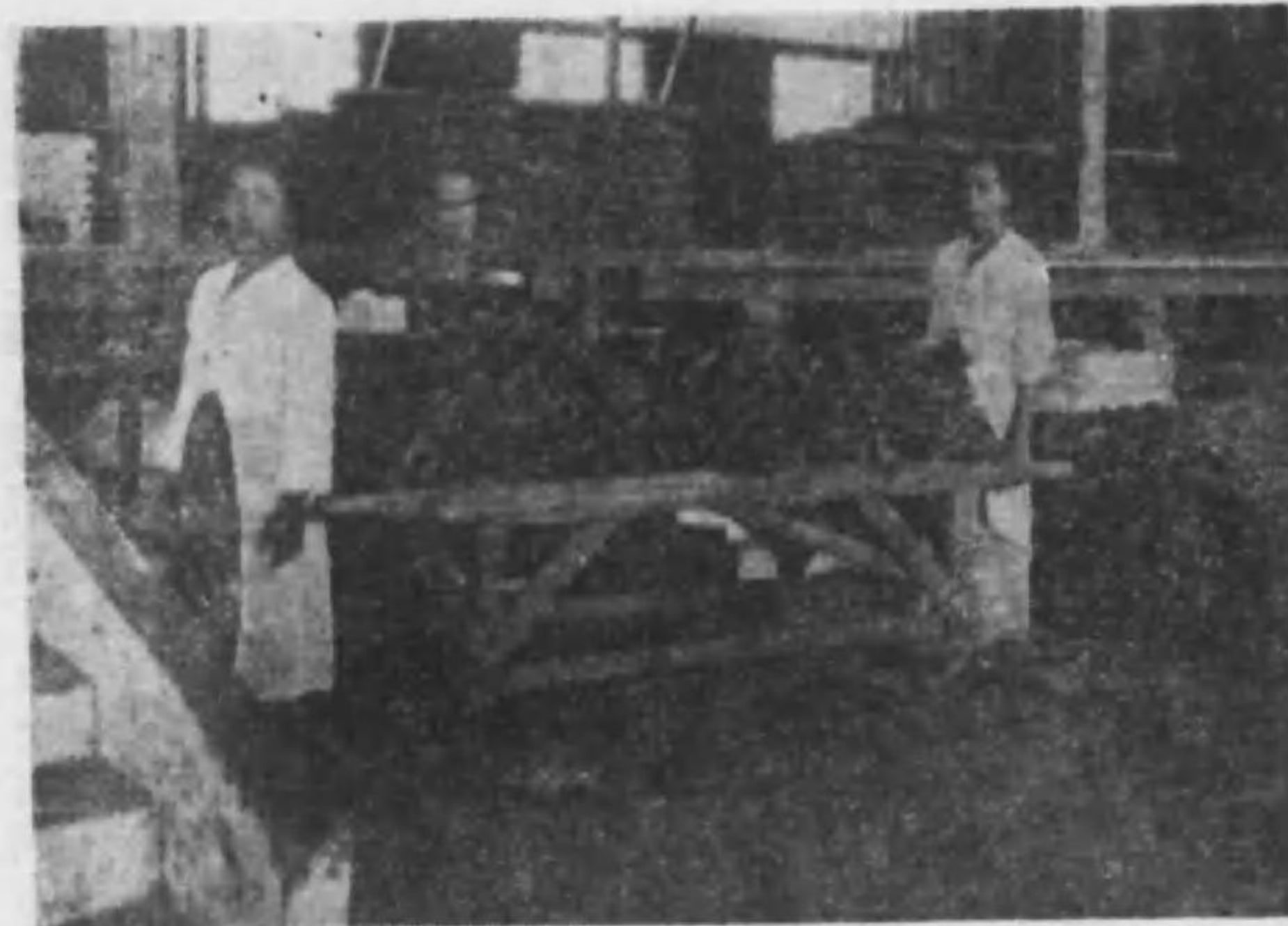
を挿入し、檢分して別表に記入し温度の上騰に注意す。此の積まれたる葉の含有水分量が適當なる場合には、一晝夜に攝氏一度乃至二度位

Onderaeming		1928						
<b>ZAND BLAD</b>								
No. 821 Voet I. A. stapel								
Gezet op	17.4.28	Finish	20.4.28					
Afmeting	{10' x 10'}							
1. A. stapel	{.....}							
Hoogte	32	{.....}						
antaaI pikoels	.....							
Temp. Waaropongezet	.....							
<b>TEMPERATUUR-OPNAME</b>								
datum	G.r	G.r	datum	G.r	G.r	datum	G.r	G.r
20/4	35°							
21/4	41°							
22/4	45°							
23/4	57°							
			Bikin	B.I				

(數字は便宜記入せるもの)

側面に孔を穿ちたる良く乾燥せる孟宋竹筒を堆積煙草中に納め置き、午前六時、午後五時の二回に籐 (Rattang) の柄に結び付けたる寒暖計

の變化と發熱とが相伴ふものにして、堆積の温度は徐々に上騰するを以て、堆積内の温度を計る爲め



所る寸量秤搬運にてレバレバを葉燥乾 (一) 三三 眞寫入挿



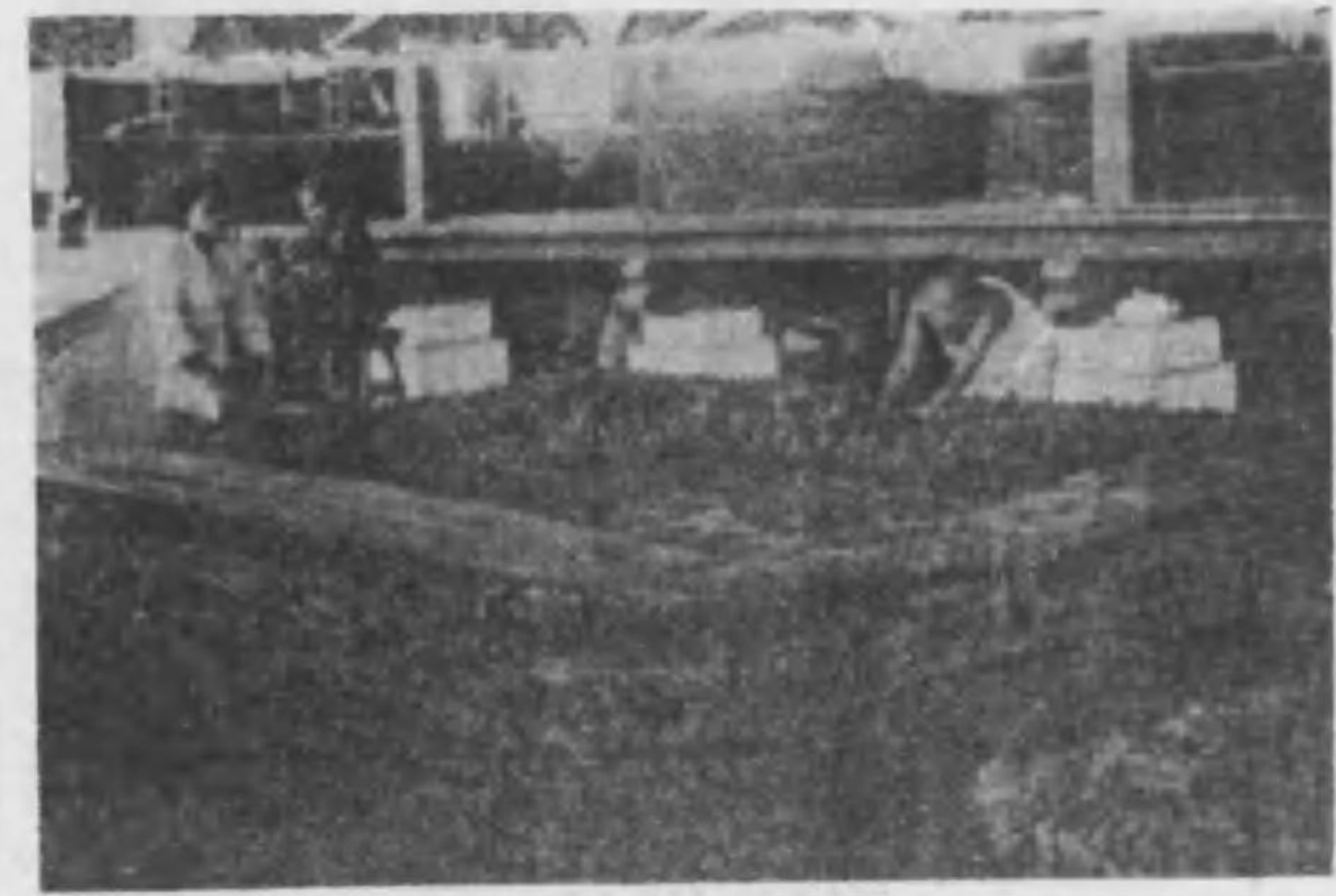
所るたれ入受を草煙りよ室燥乾にて内室醱酵 (二)



(葉搬運草煙) レバレバ 圖九一第

備て一種類の葉が四〇擔集まるを待ちて、*leveled* 堆積醱酵を開始す。元來醱酵作用は葉中の成分

宛温度上昇す。而して攝氏五、六度に至りて此の *straw* を取崩す(温度は高くも六十度以上に上騰せしむべからず)。此際



所るあいつし積堆をルブニス (一) 四三 眞寫入挿



さ長、のもるたし爲を積堆の定機はるあひ置の葉葉)積 堆 (二)  
(のもしるす屬に中業作積堆だ夫はのもしるあせ級に上の板

を作る。此の積替に當り *Cold leaf* と *Hot leaf* との位置を轉換して何れの煙草も皆一樣の成分變化

A. *straw* の外側三

東積、最上表五東

積、最下底五東積

を *Cold leaf* (冷葉)

と稱し、其の内側

にあるものを *Hot*

*leaf* (熱葉)と稱し崩

し始むる際別々の

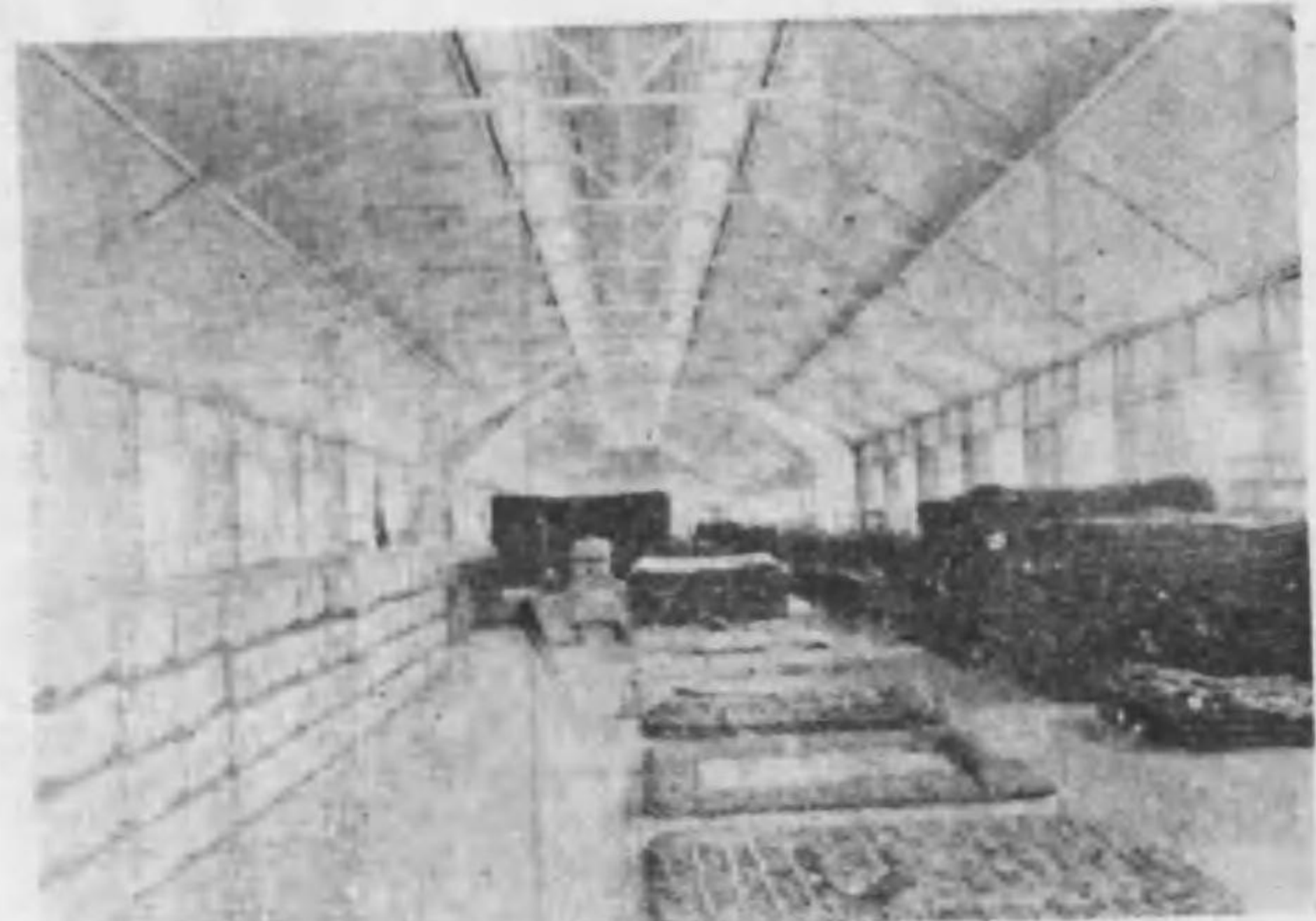
場所に積みて次に

同じ大きさの堆積

A. *straw* を二つ併せ

て大なる B. *straw*

を需むる爲め、温度の上騰を同一ならしむるものなり。



五三 眞寫入挿  
俵の草煙は方左)。す用使みのに用醱酵、室醱酵式新  
るたし解はに央中、草煙るせ積堆に爲の醱酵は方右  
(む止し殘に儘其は草煙等下るあに層下最。積堆

上述の如き取扱ひを繰返し、堆積は順次大形となり各束の受くる壓力は倍々増大し従つて醱酵作用も益々進捗し C. *straw* (160 pilcock) を終りて D. *straw* (320 pilcock) に至りて、遂に温度の上騰が五十六度にて停止するに至る。之れ葉中の養分が全部消費せるを示し醱酵作用を終りたるなり。今 *straw* の種類、大きさ、數量、乾燥、束數等を表示すれば次の如し。

第二〇表 スタブルの種類、大きさ、數量、乾燥、束數表(便宜數字を記入す)

堆積種類	數量		大 小	束數 (一束 四枚)	堆積高 (二)	堆積層 日數	寒 暖 計 挿入箇所
	擔	疋					
A. <i>straw</i>	80	5,000	九x10	四一五	四一六	三六	東目
B. "	80	10,000	一〇x10	五〇七	四一〇	四〇	同
C. "	120	10,000	二x11	五〇七	二一五	五〇	同
D. "	120	20,000	一六x一六	六〇一	二〇〇	三六	同(一本)
計							

寒暖計は大約各堆積高さの三分の二の場所に挿入するも D. *straw* のみは二本を挿入す。尤も此

の堆積の高さは葉の厚薄、大小、葉種等に依りて種々にして堆積後三、四日にして一尺或は二尺餘下降するものなり。堆積室は公司數によりて異なれども四〇乃至五〇擔となるを普通とす。一公司は大抵三五畑よりなる。即ち七〇乃至百〇五畑の生産乾燥葉を堆積醱酵する場合なり。五乃至一〇公司即ち一七五畑乃至三五〇畑の生産乾燥葉を堆積する場合なり。

A. B. C. D. 各 Stapel は必らず同性質の一種葉の煙草たるべきものなり。

第二一表 堆積醱酵標準

Stapel	堆積重量	温度	堆積日數	醱酵日數	堆積を解く日數	積上げ高	積上げ高呎	堆積の長
A. stapel	四〇—五〇	六〇	一—二	四—五	一—二	四〇	一〇	九尺—一〇×一〇
B. "	六〇—一〇〇	六〇	二—三	七—五	二—三	五〇	一〇—一〇	一〇×一〇—一〇×一〇
C. "	一〇〇—一〇〇	六〇	二—四	一五—一五	二—四	六〇	一一—一三	一三×一三—一三×一三
D. "	二〇〇—四〇〇	六〇	三—五	二五—三〇	三—五	七〇	二—二五	一六×一六—一七×一七
計			八—一四	五—一〇	八—一四			

### 第三節 醱酵温度

デリ會社の或る經驗家は、攝氏五六度を以て解積するやう嚴重に注意すべしと再三忠告したれど、普通は五八度乃至六〇度なるが如し。然し如何なる場合と雖も六〇度以上に昇る場合は乾燥葉を全く破損せしむるものなれば、六〇度以上は絶対に昇すべからず。熟練なる苦力を得がたき場合、五八度となりて解積を始むれば、終了迄に六〇度以上に達する恐れあれば五六度より始むるを可とし、且つ製品の如きは往時の如く暗黒色ならずして淡黒色なる故五六度以上に昇らざるを可とするが故に晝夜を分たず常に寒暖計を注視すべし。

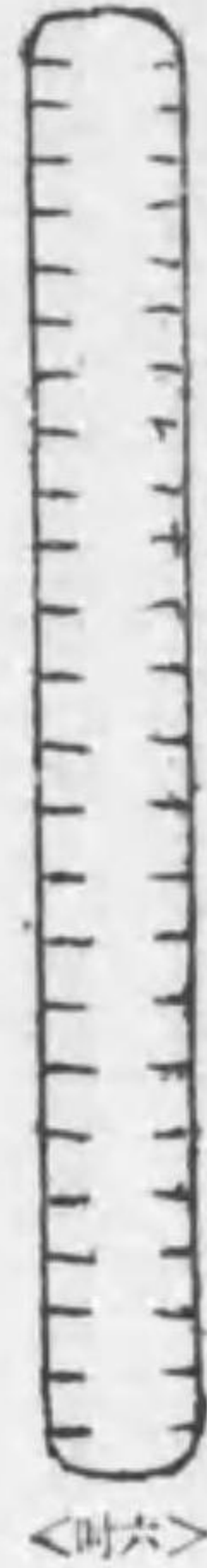
### 第四節 堆積の型

各乾燥室より受入れられたる葉は、園支配人の命により普通四種類(砂葉、下葉、中葉、上葉)に區別せられ、後乾濕の度に依りて更に分ち、又栽培地の状況等にも依るが斯く注意して四束宛長さ一五尺或は一八尺に高さ二尺乃至二尺五寸の小積を作り、(イ)圖の如く最端の積み始めは束の基部と束の基部とは二吋おきにし、頂部は重ねること、第二列の堆積は四吋おきに、前者兩束の中間に位置し、各四吋乃至五吋の間隔をとりて第三列より一と二との兩端より平行に並べるも、第三列は第二列に對し六時間隔を有し束と束との間は四吋とす。此の六吋の定まる堆積は堆積板と稱する長一

○尺乃至一六尺幅六吋の板に四吋毎に目盛をなせる一時半厚の板を使用し、一列を終る毎に一列前に進み、一枚に座し一枚を前に置き交互に繰返すものとす。斯くて兩端より並べたる列の合する場

堆積板 (Papan Seawen)

長一〇一六呎(目盛四吋)



断面

厚五分

圖一第二 子梯用積堆及板積堆

堆積の際運搬に用ゆる板



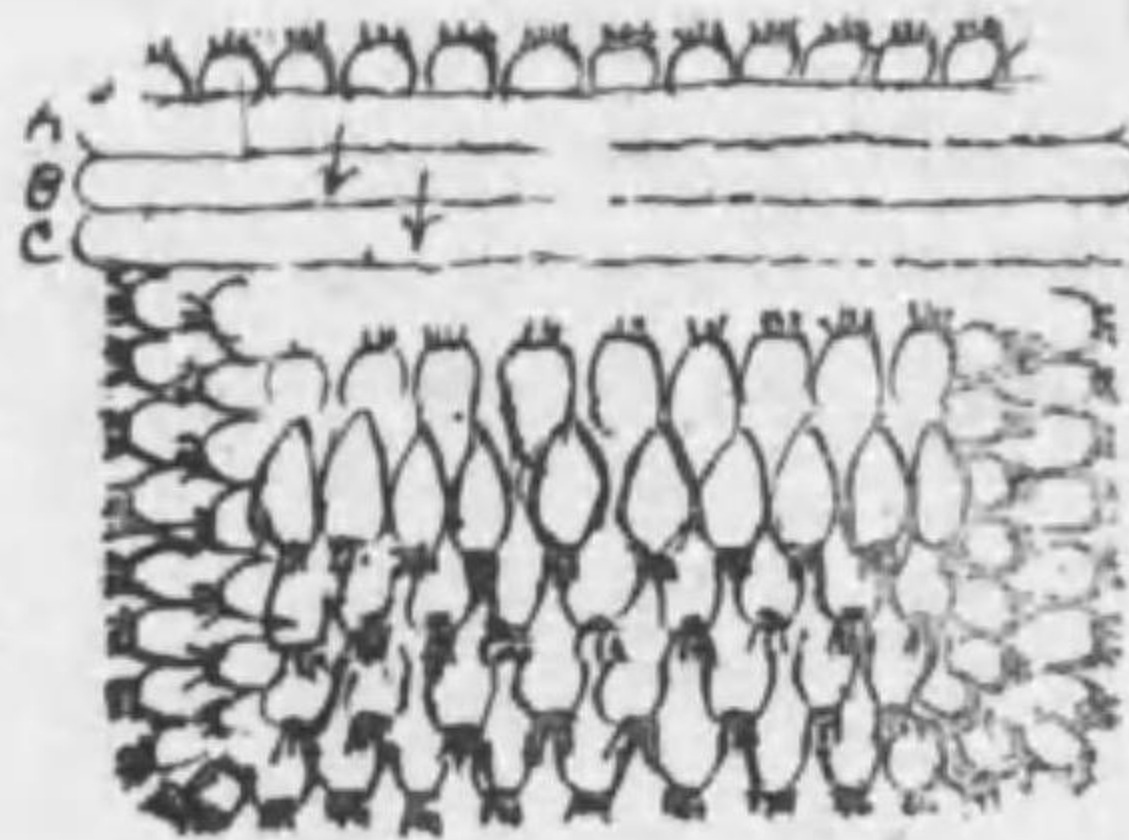
堆積用梯子



所は、真中或は八分目、或は六分目と交互になすべし。此の束を堆積する場合には良く葉の乾燥の度を見て葉を延ばして葉の折重なるを省き、葉の破損せざる様丁寧に堆積すべきなり。此の葉の運搬には長一九吋幅九吋の運搬板にのせて直接手に觸れざらしむ。手に持ちて運搬すれば葉を損傷す

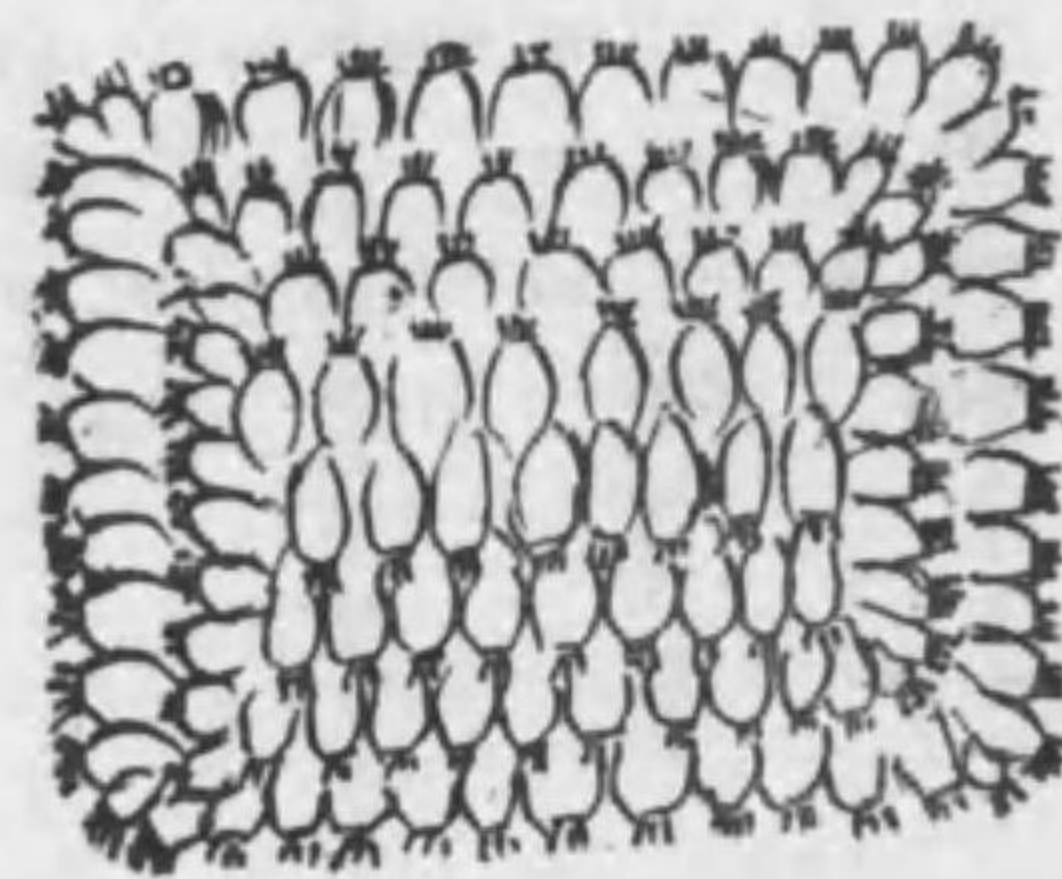
圖二第二 堆積方法

所に見らか上をルブダスるあつけ上積

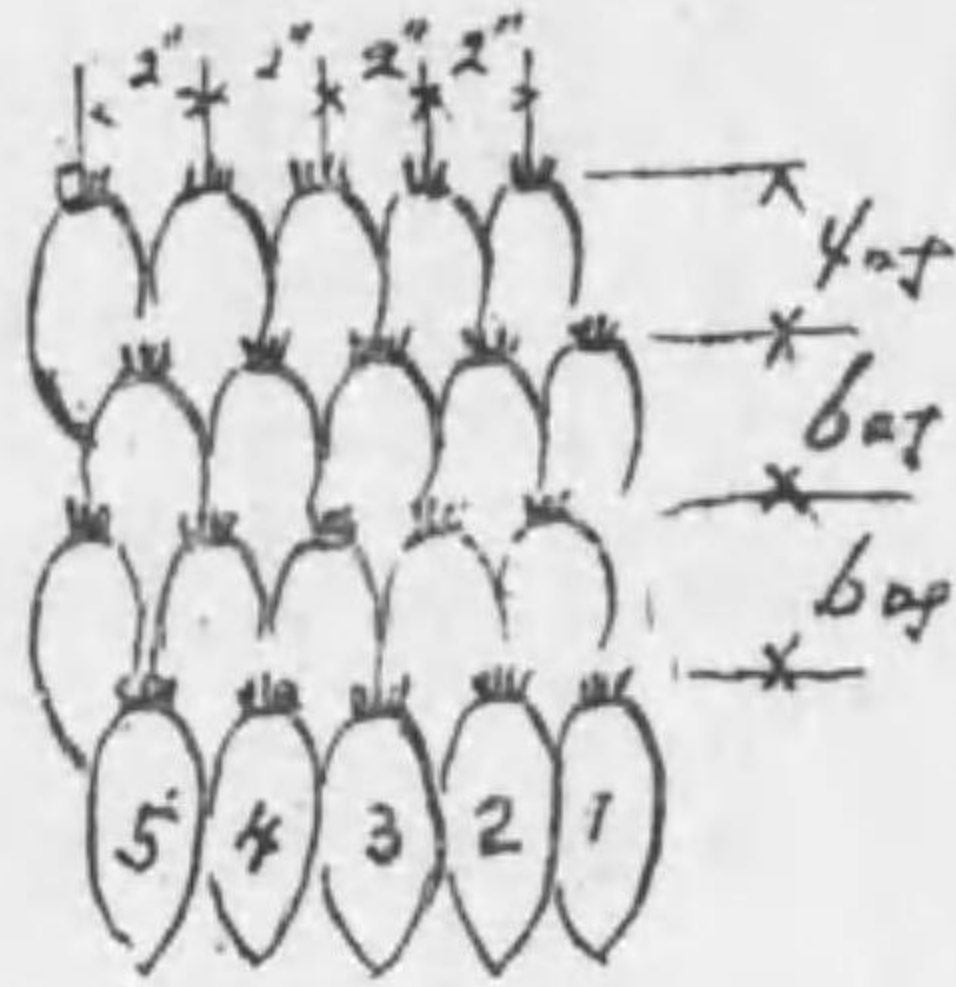


第六章 醗酵

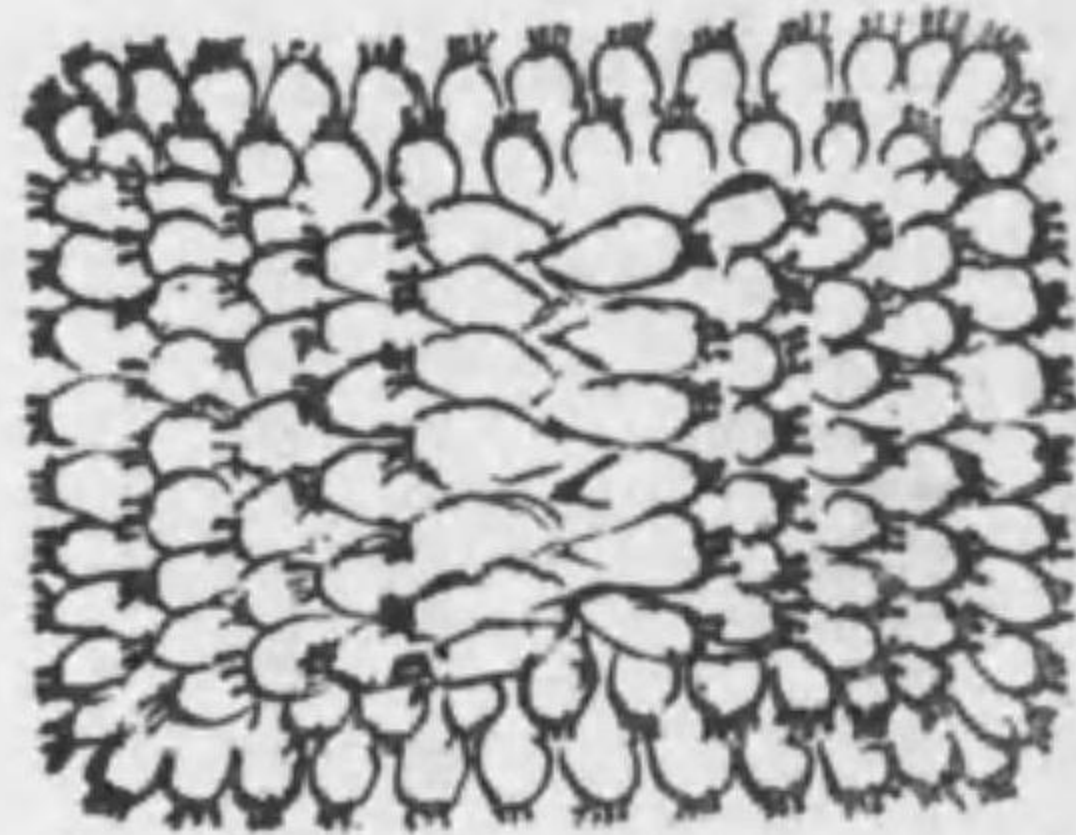
所に見らか上をルブダス (イ)



序順法するす積堆を束葉



所に見らか上をルブダス (ロ)

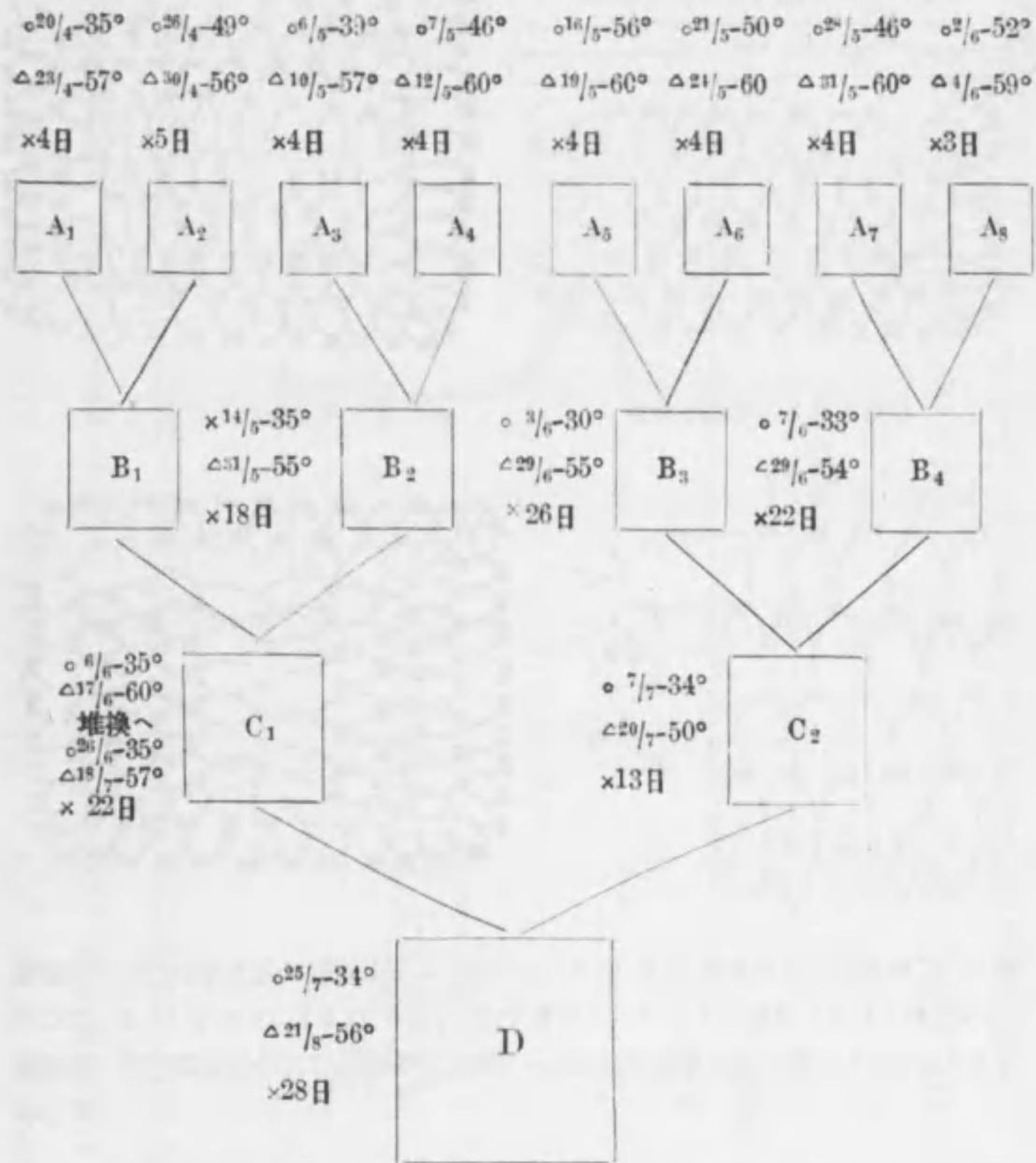


幅てしに板を乗の足の力苦は C B A。すとのもふ行し返縁に交互な(ロ)(イ)は積堆。すとのもむ進に序順の C B A。るな異り依に stapel はさ長、位半吋一さ厚、位吋六もるせ合ね重をと葉と葉に序順の三、二、一は尙にきお吋六は他の其隔間吋四はり廻縁。すとの

ること多ければなり。斯の如く複雑なる注意を要するため解堆積の日数は苦力の熟練に左右せらるること多く、苦力数にも依ること勿論なり。  
堆積の高さは一定せず醗酵日数を多くしても温度上昇せざる如き場合は幅、長を短くして高く積み上げるを可とし、堆積後醗酵を始めてよ

堆積醱酵の工程  
堆積醱酵概略 (D. stapel)

○印は堆積済の日 △印は崩し初めの日 ×印は醱酵日数



堆積始め<sup>20</sup>/<sub>4</sub>、醱酵済<sup>21</sup>/<sub>5</sub>、其期間123日にして約四箇月間とす

り終る迄、高さは各 *stapel* 共約一尺或は一尺五寸減するを普通とす。底邊の長さ及幅は前表の如くなれども、必ずしも絶対的のものに非ざるが如く、温度大なれば長さ、幅も短く、乾きたるものは長さ、幅は廣くすべし。尙ほ堆積高まり

たる時は左右に梯子を置き之に依つて苦力の昇降を爲さしむべし。

第五節 醱酵日数

各スタブルの醱酵日数 醱酵の温度の昇騰は葉の乾濕厚薄に依ること最も大にして、且つ外界の気温の昇降に係るが故に、A. B. *stapel* は底邊、上邊に二枚或は三枚の莫産を以て蔽ふも (C. D. *stapel*) は全部莫産を以て包むべきなり。

A. の温度上騰は急にして B. C. D. と順次速度緩慢となり C. D. に至りては五〇度に達せずして止む場合あり。A. B. も亦餘り乾燥せる場合には温度上昇の中止することあり。前表の醱酵最大日数に達するも上昇を續けざる場合は、解崩して次の堆積を行ひ、D. にありては解崩して選別室に送らる。

堆積解崩 解崩に要する日数も堆積に要するものと同日数なれど、乾、濕、熱の各葉を選り分け、餘り乾燥したる時は芭蕉葉を交互に積み重ね或はセメント床の上に置き、或は箱の中に芭蕉葉と交互に煙草を置き、或は早朝濕氣に曝らす等の手當を爲し、別々に小堆積を爲し、次の *stapel* 堆積に備へらる。



## 第六節 監督者の心得べき事項

- (一) 積替に當りては、堆積の上に長さ一〇尺乃至一六尺、幅六吋、厚一吋半の板にて兩端の角を圓く切りたるもの二枚を乗せ其上に苦力をして昇らしめ決して直接足裏が煙草に觸れざる様なすこと。
- (二) 堆積の中央部より捲り始め、一五束乃至二〇束を一枚の板(運搬板)に乗せ運搬し、決して葉を手に乗せて運ばしめざることを。
- (三) 運搬人と解崩人とは別々の苦力を使役すること。
- (四) 葉の束は能く振り空氣を入れ、過濕のものと過乾のものとを區別し別々に積ましむること。
- (五) 葉の濕りたるものは醱酵室に用意せる針金に吊し、或は木の床上に束を下にして擴げ乾燥せしむること。
- (六) 過乾のものはセメント床上に半時間、一時間上下に換へて適當の濕度を得しむ。尙過濕甚しき時は芭蕉の葉を床上に置き其間交互に葉束と芭蕉葉とを堆積せしむること。
- (七) 適當の濕度とは *laudon's* 葉束を手の平にて軽く握り其の手を開き見るに何等其の束中の葉に損傷せざる程度)の程度なり。

に損傷せざる程度)の程度なり。

- (八) 積替中束の解けたるものは束ね直さしめ、又病蟲害發生せるもの、油氣(脂)出でて黒くなりたるもの等ある時は之を除き監督者に提出せしむること。
- (九) 監督者は午前午後二回寒暖計にて溫度を計ること及寒暖計を入るゝ竹筒の入口はガンニー袋の端布の類にて密閉し冷氣浸入を防ぐべし。
- (一〇) 堆積作業中喫煙を禁ずるは勿論食物を室内に置かしめざることを。
- (一一) 苦力が堆積中各種葉を混合し居る場合は、*Tanditi* に命じ同種のもの積替せしむること。
- (一二) 醱酵作業に従事する苦力は點呼を行ひ、監督者は各苦力の爪の延びたるものは嚴重に切らしむべし。
- (一三) 醱酵作業は總て東部の基を掴ましめ葉を掴ましめざることを。
- (一四) 解崩の場合順序正しく積み、初めと正反對の順序に行はしむること。

## 第七章 選別

### 第一節 第一作業

堆積酸酵を終りたる煙草葉は砂葉より下葉の順序にて選別室に運搬せられ、先づ圖の如き Nison の棒の垣の中に座を占めたる各苦力は窓を背にして背後より北光線を受けつゝ先づ砂葉をば色と破損の程度によりて分類すること左の如し(第二四圖、一二九頁下参照)。

砂葉 (Daon pasir)

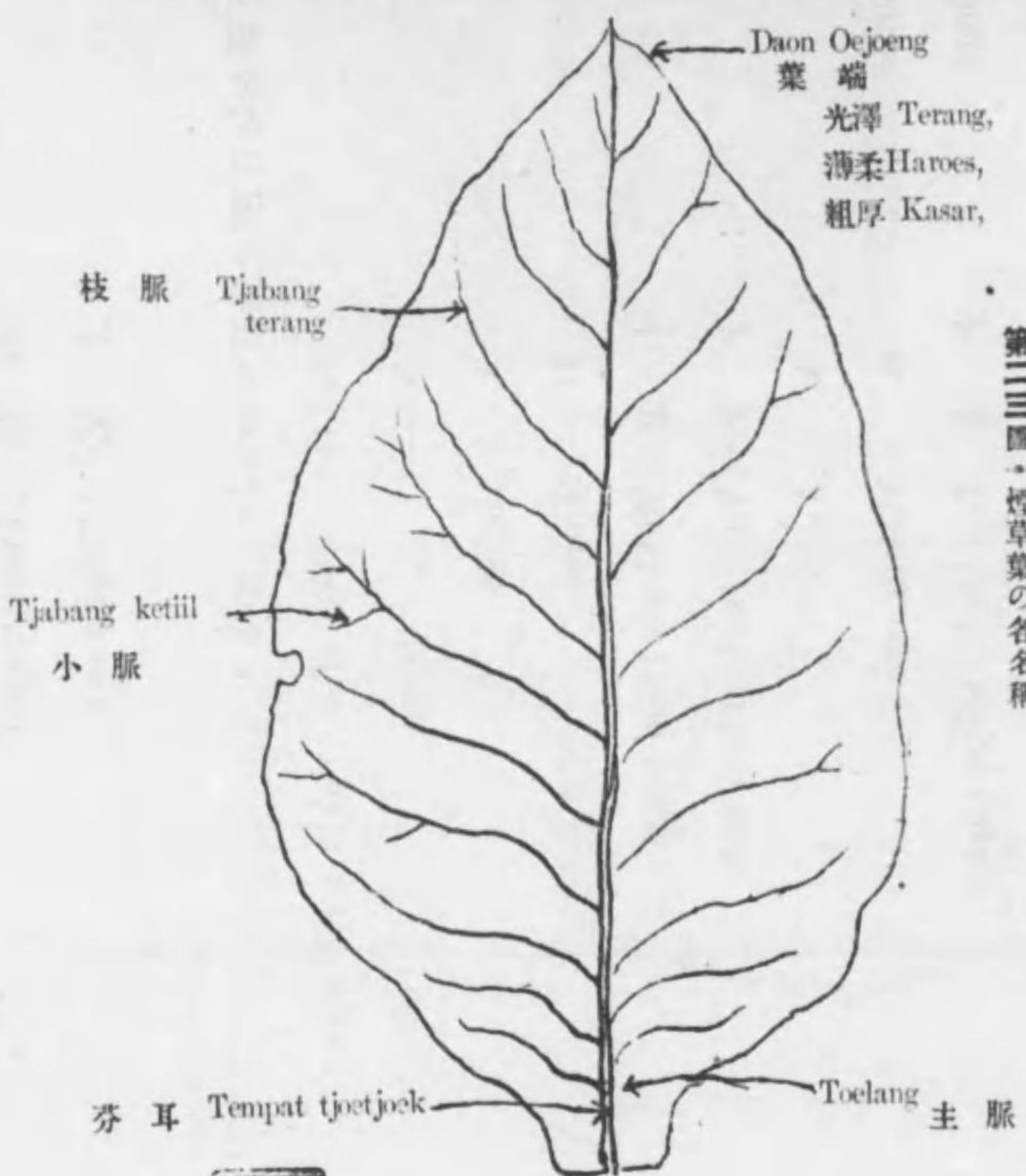
- |                                       |                              |
|---------------------------------------|------------------------------|
| 1. LV. Idjoe moeda (薄青)               | 2. I. Keoring (黄)            |
| 3. V. Idjoe toewa (濃青)                | 4. XLV. Pijja ketjil (小破薄青)  |
| 5. XI. Pijja ketjil keoring (黄色小破のもの) | 6. B. Merah (赤)              |
| 7. XV. Pijja ketjil merah (小破の赤)      | 8. H. I. Sam cik moeda (雙色黄) |
| 9. H.V. Sam cik toewa (雙色赤)           | 10. X. Pijja besar (大破せるもの)  |

挿入写真 三六



醗酵終りたる葉を選別室に運び入れたる所

第七章 選別



第三四圖：煙草葉の各名稱

下 葉 (Daon kaki)

A. Anjjoer (揉碎せるもの)

B. Makaan api (燒葉)

中 葉 (Daon tengah)

上 葉 (Daon atas)

然し或る園にてはイ式に依り選別種類を左の通り採用せるを耳にせり。

砂 葉 Zand bland

B — Merah toewa

V — Idjoe toewa

L — Koening

LV — Idjoe moeda

HV — Sam aik toewa

HL — ” moeda

XV — Pitja toewa (pitja ketjil merah)

XL — ” moeda ( ” ” koening)

XLD — Pitja idjoe (pitja ketjil idjoe)

X — ” besar

A — Anjjoer

D — Minjak

中 葉 = Midden = Daon tengah

下 葉 = Vaet blad = Daon kak

A. — Anjjoer

R. — Makaan api

上 葉 Top blad = Daon kapala

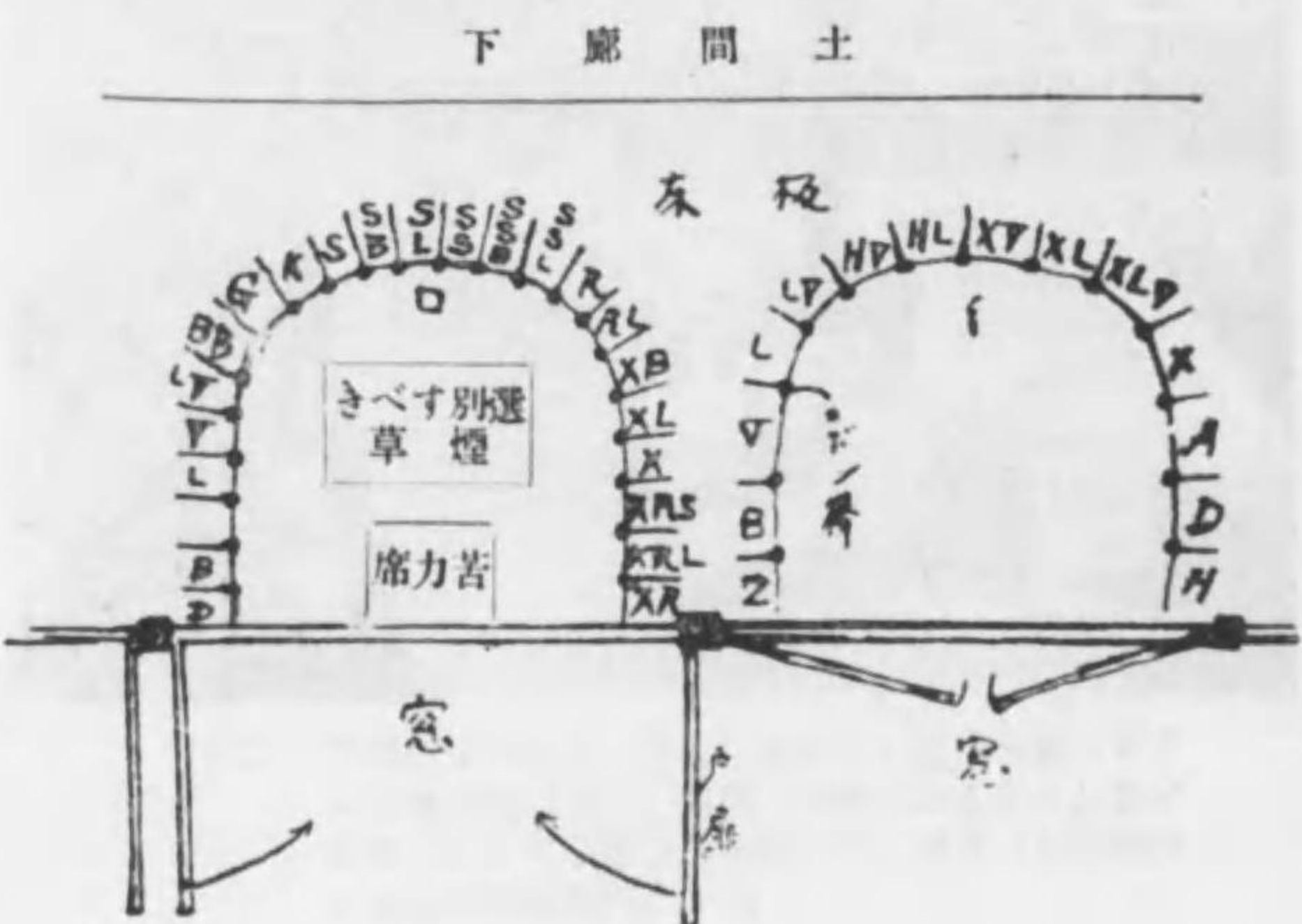
選別したる各葉はニホン棒の間に堆積す。普通は八月一日より著手し二箇月半位にて終ると云  
 40

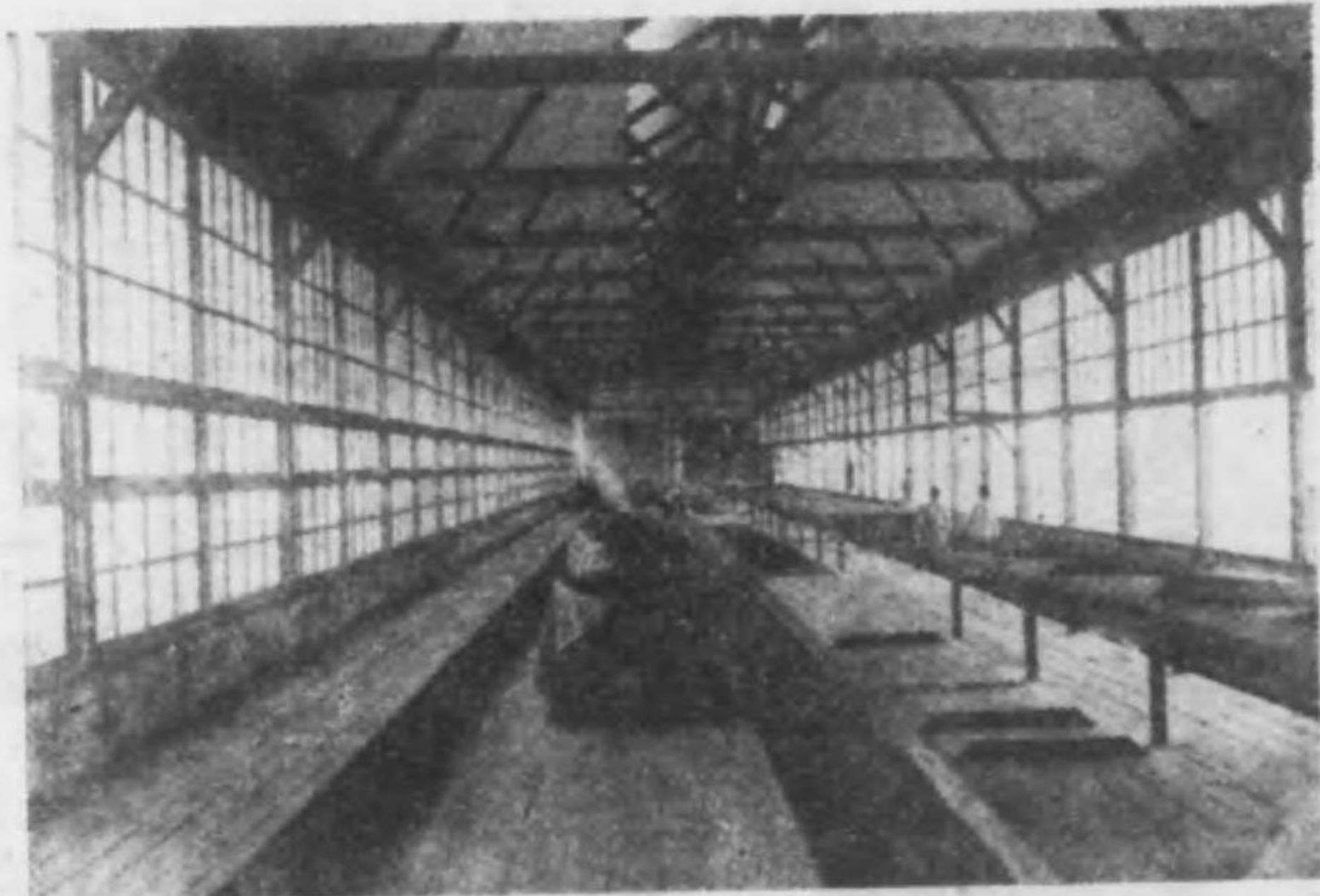
挿入寫眞 三七



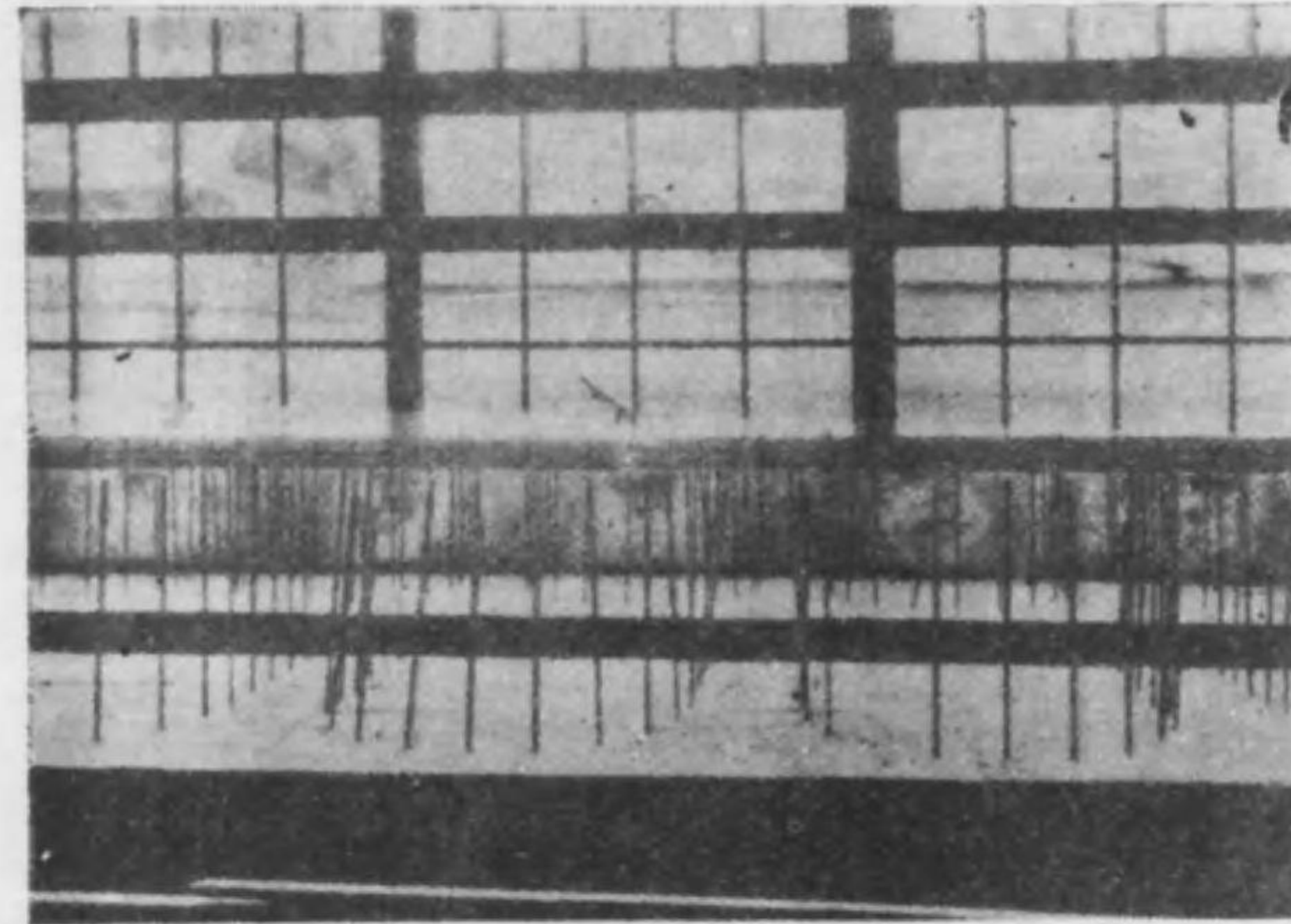
ニホンの棒を區切りとし種々に選別作業中の所

第二四圖 選別作業場及選別方法

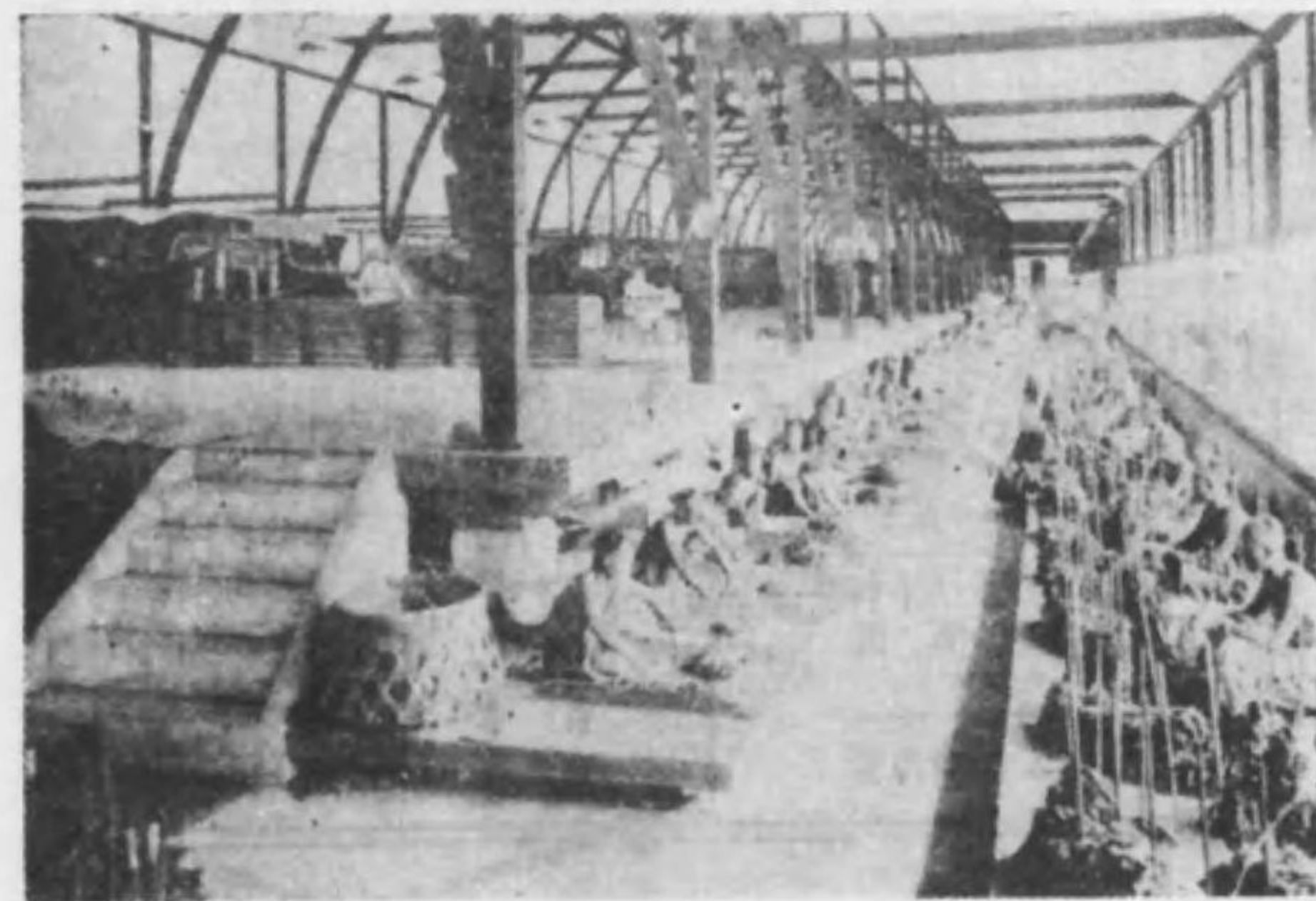




九三 眞窩入挿  
あ壁子硝き高に側兩(リテ)場別選るせ備設に式新最  
儘るたみ含を氣温は下目。ずらま始だ未尙は別選。リ  
(す供に用るす燥乾ら先に積堆を草煙るたれらせ入搬



八三 眞窩入挿 (一)  
力苦の人一各ひ覆て以を蒲は掛櫻)場別選 (一) 八三 眞窩入挿  
し類分之間其、す列並に狀閣半棒別選に毎  
(照參況狀の別選の七三眞窩く置を葉て



眞窩の業作別選 (二)  
ち分に類種を葉は人別選の方右) 眞窩の業作別選 (二)  
を葉は力苦るせ向對相に等彼。く置に問の棒小て  
せ醇醫はに央中。すに束を之し分高てりよにさ長  
(。りあ機搾壓俵及積堆る

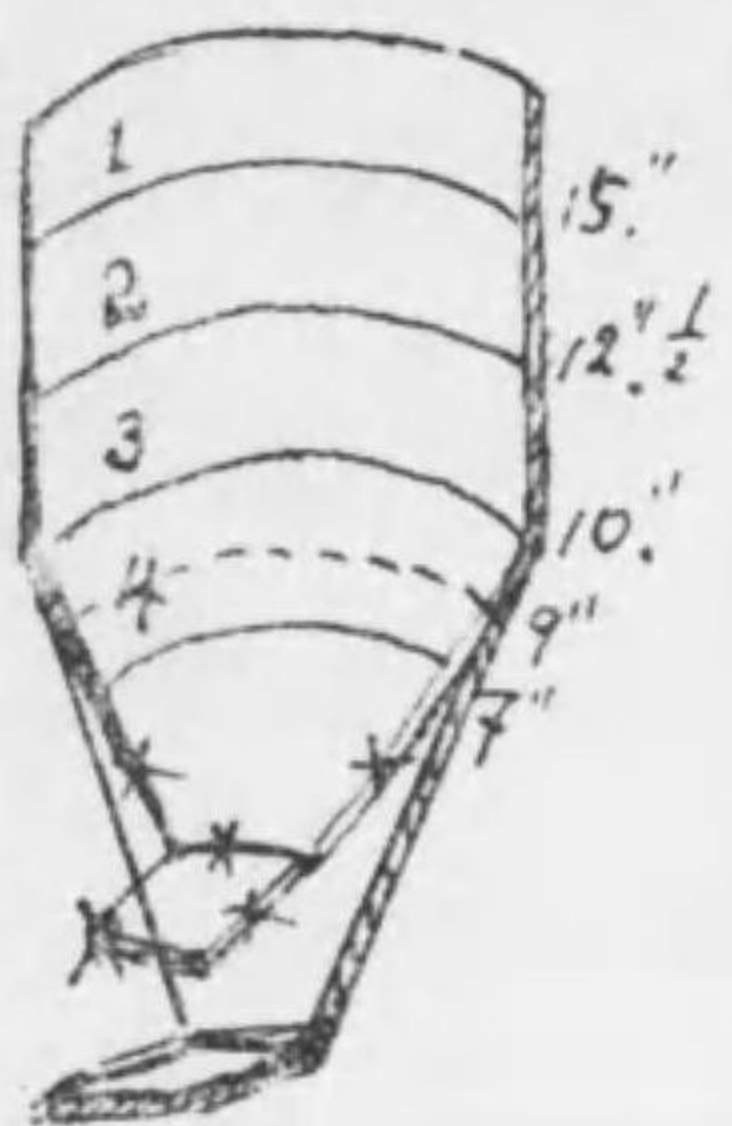
### 第二節 第二作業

第一法より選別せられたる葉を他の苦力は長短によりて區別し、同じ長さの葉を四〇枚づつ *Koilit* 挿入寫眞 四〇 葉の長さを選別しつゝある所



法に區分せらる。此れを *Kat Haroo* 又は *Kat Maui* と稱す。選別の際は次の如き板に依り左記す

Zudblad.  
B<sub>1</sub> = 9"  
Vochtblad.  
B<sub>2</sub> = 10"  
B<sub>3</sub> = 12 1/2"  
B<sub>4</sub> = 15"  
B<sub>5</sub> = 砂葉達の中にも下7さの葉のせ



第二五圖 選別の際煙草の長さを定める板

而して後醱酵室内受取場 (*Tempat kerima daon*) へ運搬せしむるものとす。

### 第三節 第三作業

第一作業、第二作業によりて選別せられたる葉をば受取場所にて一枚宛検査せらる。此の検査に當る苦力は最も經驗ある熟練なる爪哇女苦力を最上とす。此の検査の良否は生産品の市價に影響すること甚大なるを以てなり。各園とも此の検査には充分の注意を拂ひつゝあり。此の苦力を *Toekang kerima daon* と云ふ、稀れに支那人をも使役することあり。若し選別當を得ざるものある時は訂正を命じ又は罰金として賃銀を差引くことあり。検査済の葉は *Toekang kakehalei* に依りて運ばれ、秤量の上各種葉毎に別々に小積みとなし、圖示の如く *D. zampai* に堆積して再び醱酵作業を爲し完全醱酵を爲すものとす。

更に醱酵状態層は HV HL XV XLV V B LV L BLV L LV B V XL XLV HL HV の順序にして上等品は堆積醱酵の中央部を占め、他のものは上層下層に位置せしむるなり。之れ小規模栽培の場合にして、大栽培にありては一種類にて *D. zampai* を作るを得。故に小堆積の煙草栽培經營は大栽培の場合より不利なることを知るべし。

次にこの検査済の葉は種類及長さに依り各葉束をB<sub>1</sub> B<sub>2</sub> B<sub>3</sub> B<sub>4</sub>の順に小積となし、次の包装作業に譲るものとす。茲に出来上りの製品こそは世界無比の煙草上捲き用のデリ葉にして左記の特徴を有するものとす。

- 一、葉の整一なること。
- 一、葉の繊維細かく強きこと。
- 一、色澤は稍々青味を帯びたる優良色なること。
- 一、葉薄く且つ弾力を有すること。

## 第八章 製品の包装

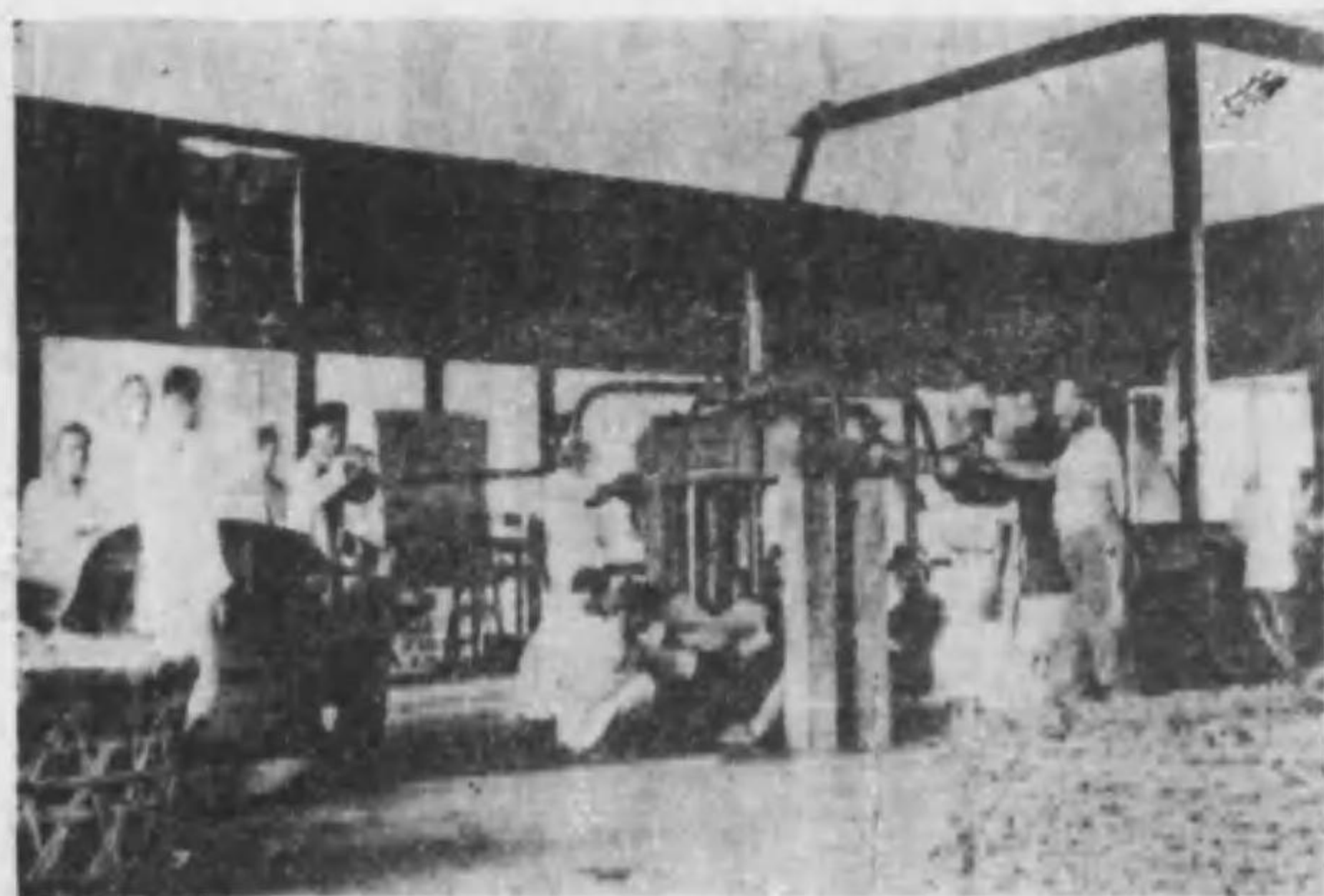
### 第一節 壓搾

選別受取済みの煙草は各種別に八〇軒づつ籐籠に入れて運び軌道の壓搾箱に納め壓搾器に送る。壓搾箱はチューク材にて堅牢に作り金帯を廻らし、トラックに抜差し出来るよう取付けあり。蓋は厚き一枚板にて箱の中に入らるよう幾分小形に作られあり。

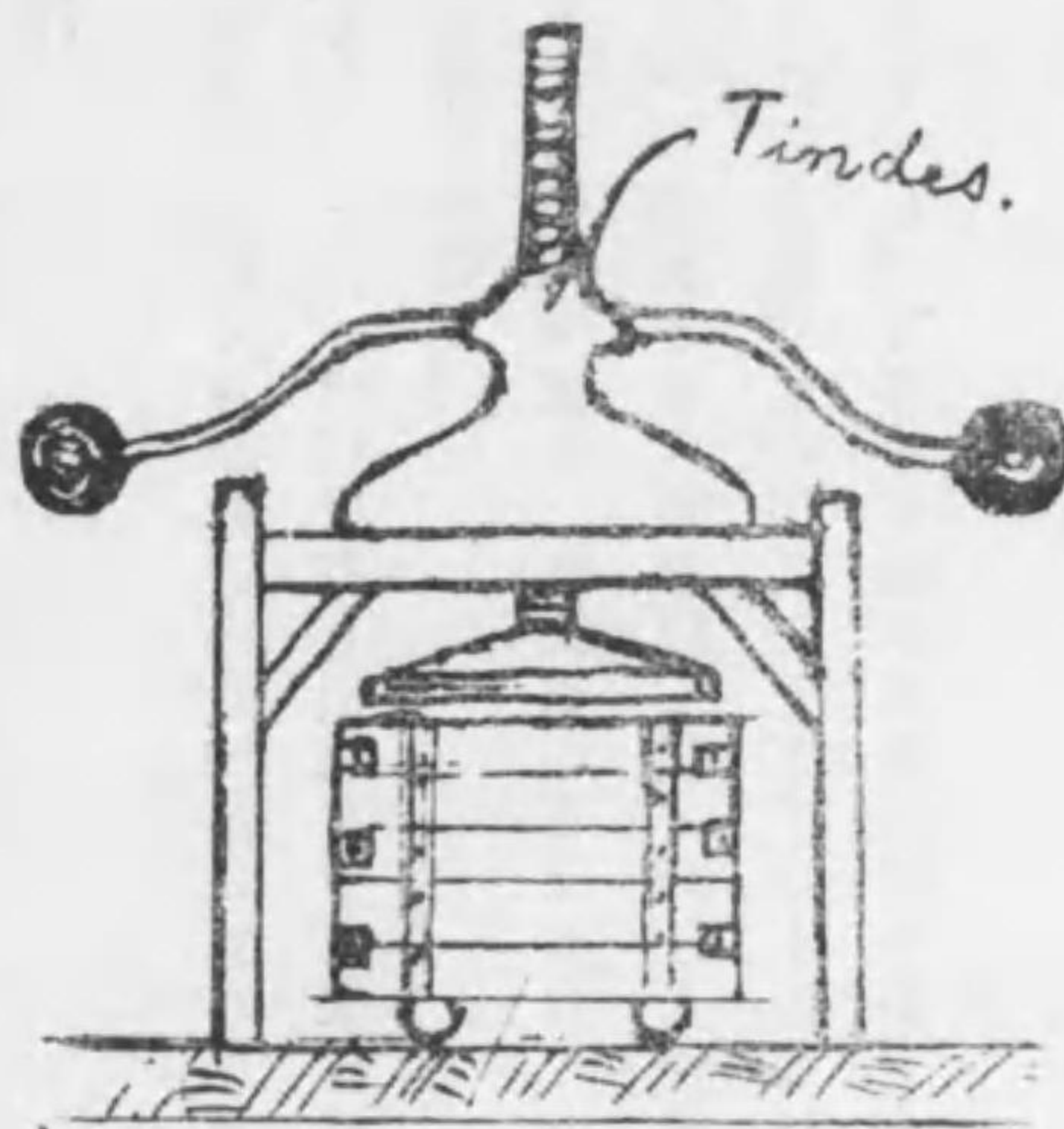
壓搾器は圖示の如きものにて、普通八人掛りにて廻轉壓搾す。壓搾箱の蓋は壓力に依り漸次降下し、煙草を壓縮す。壓縮せられたる葉煙草は恰かも板状となり踵を以て強く踏むも何等凹みを見る能はざるに至る。其の形状は方形にして、厚さは約方形寸法の半ばに過ぎざるものなれども、必ずしも一定せるものにあらず。二―三吋の差を生ずべし。方形の寸法は其圓に依り多少の差あるも大體に於て三〇吋位とす。

### 第二節 包装

壓搾したる煙草はトラックに依りて他方に運び、トラックより抜き取りて包装係りの女苦力に渡す。女苦



一四 眞寫入挿  
選別検査のみ葉を包装すべくスレ  
に掛し壓縮あつる所



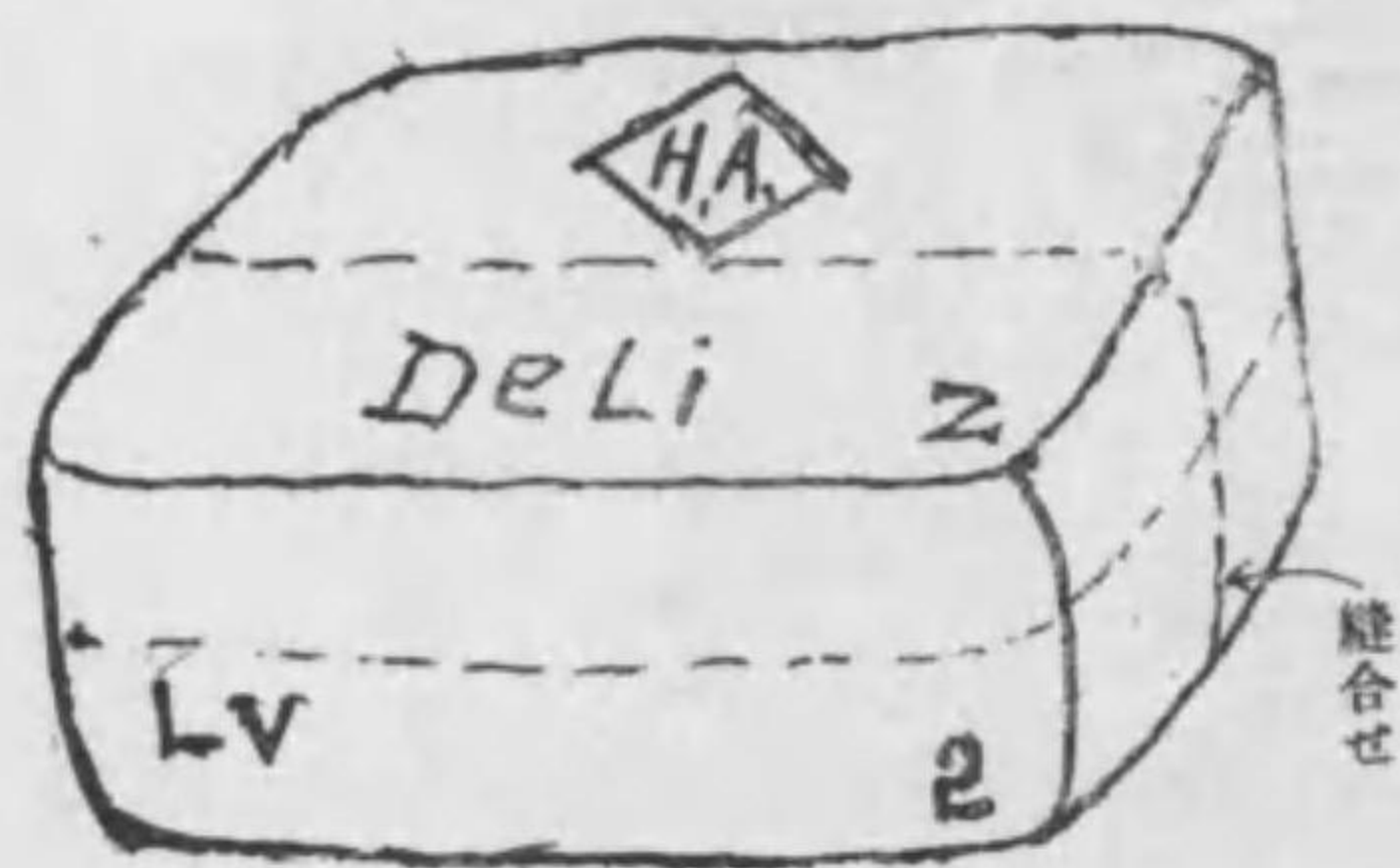
第三六圖 煙草壓搾機(ベレス)

力は粗末なるアンペラにて原形に従ひて縫ひ合せ、更にその上を上等のアンペラにて包み、

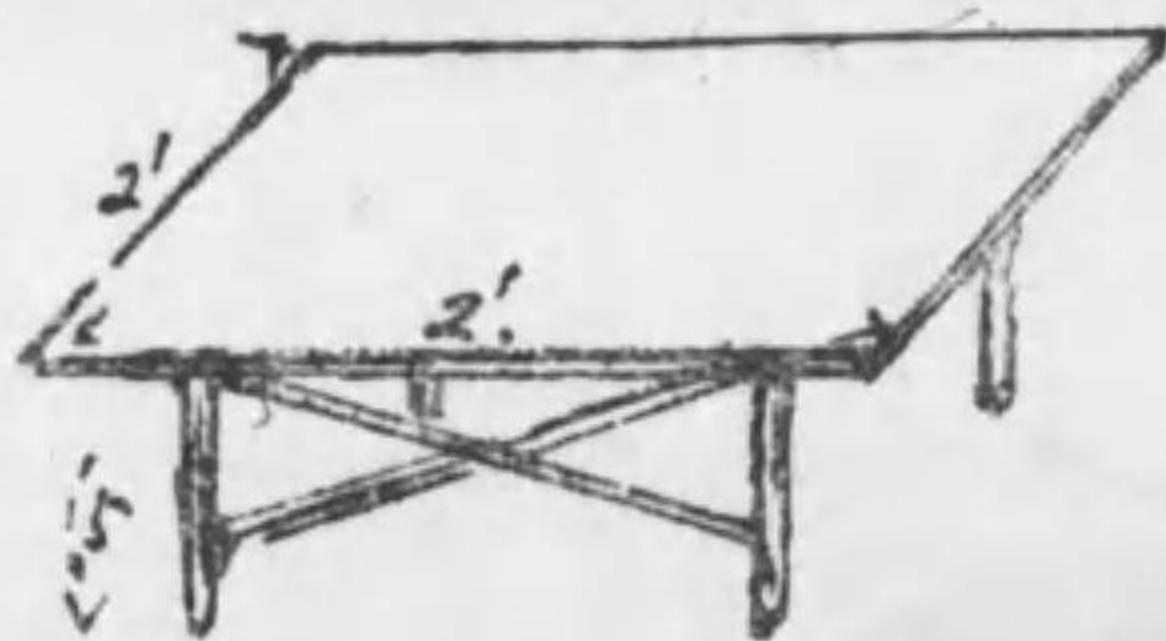
にせざる處ありとも聞く。要之原形に従ひピツタリ入念に包装すること肝要なり。

入念に麻絲を以て縫ひ締め、莫産に緩みなきよう寫眞の如く包装するものなり。圖によりては二重包み

第七二圖 型の装包及縫装包  
型の装包



煙草装包縫装包



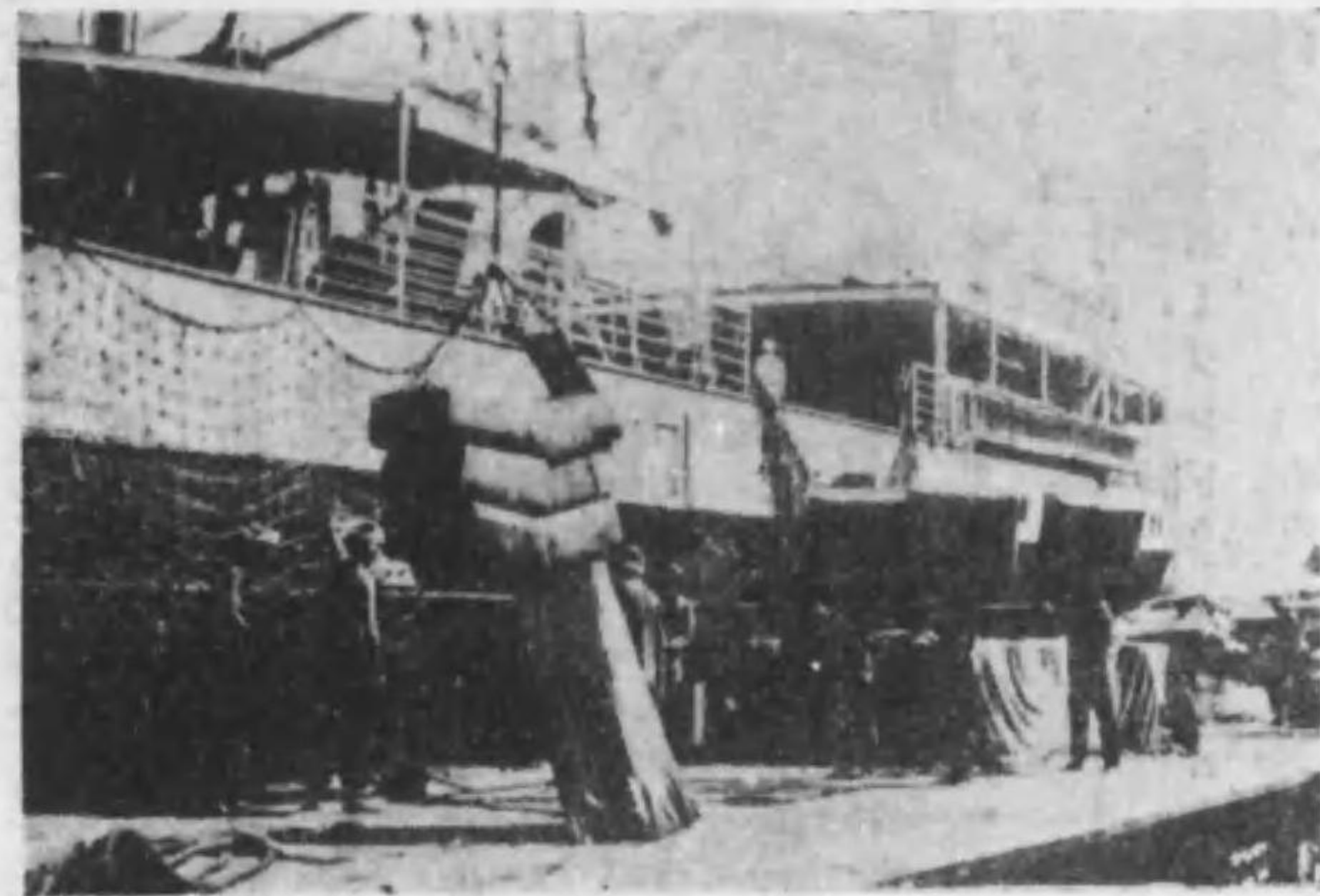
包装終れば秤量機にかけ、總體重量、風體、正味を秤り、後園名、葉の種類、符號、番號等を印字し、初めて製品として倉庫に納むるものとす。尙ほ特殊の場合、送り先の記號をも印字することありと聞けり。然し多くの場合は Plantation-  
mine に加入し居るを以て斯の如き特殊の場合に極めて勤きものとす。包装印字は熟練せる苦力に依らざれば良く爲し得ざる處なり。

包装の印字に於てデリなる記號の多きことはデリなる名稱の大なるを知るを得べく、例へばカルチュール・マーツカッパイ、デリ・パタバア・マーツカッパイ、デリ・マーツカッパイ、リーカッパイ、デリ・マーツカッパイ、ホームランド・デリ・コムパニー、リム

ブン・タバコ・マーツカッパイ、セヌムバ・マーツカッパイ、スングイ・リボット・マーツカッパイ、タバコ・マーツカッパイ、カルチュール・マーツカッパイ、ラマン・エルビン等何れもデリの記號を印



別類種に所場の定一を品製るせ装包 (一) 二四 眞寫入挿  
所るあゝつね重み積に



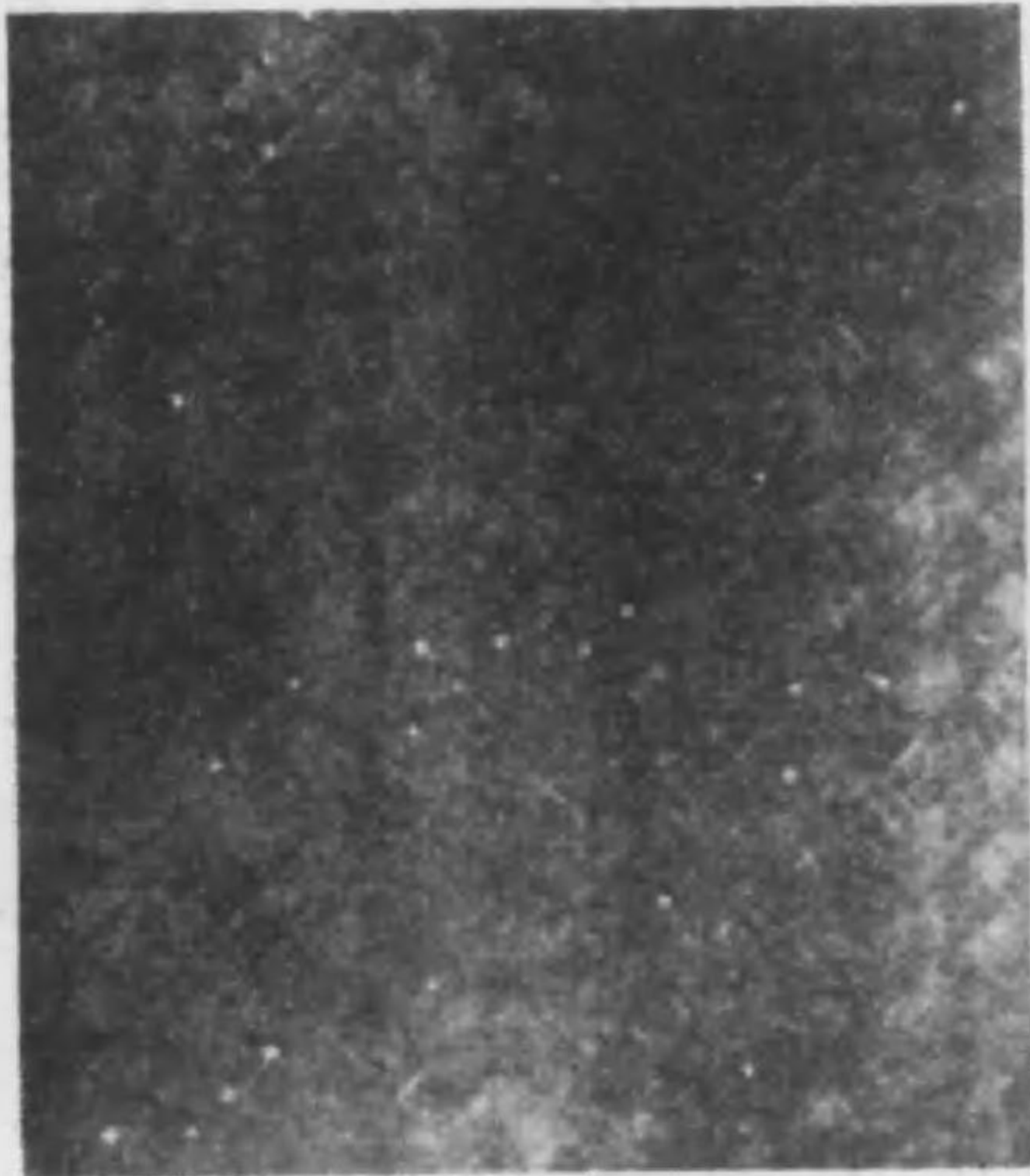
らせ積船てに港ソララベ州岸海東ラトマスが品製 (二)  
所るすとんせ帆出け向にムダレテムアレ

## 第九章 製品に對する害蟲の驅除手段

包装印字を爲せる製品即ち商品は直ちに輸出を見ること稀れにして、或る期間倉庫内に貯藏する

挿入寫眞 四三

Lasikomunの爲め包装裏面に穴をあけられたるものなり。(Oest. Inlische Cultures)より轉載



第九章 製品に對する害蟲の驅除手段

ものとす。これ市價の都合或は其の他の事情に依り貯藏するものにして、半歳を閲すること稀れならずと聞く。故に倉庫は乾濕の度を調節し、常に清潔になし害蟲の發生せざる事に絶大の注意を要すべし。これが豫防策としては製品を常に上下に積替へ、掃除を怠らず、最初倉入せしむる放置するが如きは絶對禁物にして、例へ害蟲發生せずと雖も、煙草の重量に依り甚だしく製品を傷けるものなり。

斯の如く周到の注意を拂ひつゝあるも包装前誤つて害蟲のあるを知らず包装せるか、或は外方より來りて侵入せる害蟲の爲めに被害を蒙ることあり。一



且害虫發生せば、製品は甚だしく價額を落し、非採算的製品に變ずるものなり、故に斯の如き被害を發見せば直ちにこれが驅除手段を講せざるべからず。

而して其の被害は寫真に見るが如きLasiolemaの被害にして實に戰慄すべきものなり。

之れが驅除方法は二硫化炭素燻煙法にして其の要領次の如し。

先づ燒煙室は木製の箱にして板の接目には目張りを爲し、藥煙の漏出を防ぎ、箱の上一方、下方に小さき穴を設け、藥煙の調節排出を行ふの設備とす。

二硫化炭素 (Carbonisulphide) — (zwavelkoolstof) — (CS<sub>2</sub>) は一〇立方米即ち三五三立方呎に付き

一、五〇〇斤を要するものなれば煙煙室の大きさを打算し、其の量を決定すべきものとす。

煙煙の要領は先づ煙草包を間に挾木を入れて重ね、その頂上の煙草包の上に小形の板を置き、その上に皿二枚乃至三枚を置き、手早く藥を適當に注入し、扉を密閉して約三晝夜燻煙するものとす。

二硫化炭素は火を引き易きものに付き、煙草を吸ふこと及び其の附近に火の氣無きやう注意すること肝要なり。

此の二硫化炭素燻煙法に由ればラシオデルマは絶滅するものにして、其の效力偉大なり。豫防法として行ふも煙草其の物に有害ならざること勿論なり。

### 第十章 煙草栽培豫算書

茲に記載する栽培豫算書は或る和蘭人の作製に成るものにして、信用するに足るか否かは保證し難きものなれども参考ともなるべきを以て茲に掲ぐ。

第二二表 二百英加煙草栽培收支豫算書

(本豫算書は一九二〇年頃のものなり)

#### 収入

費目	豫算額	摘	要
收入	三三三、一〇〇〇	收穫量一英加六擔、二百英加分計、千二百擔、換算(一擔百二十四封度)十四萬八千八百封度、(3) 11.00	
合計	三三三、一〇〇〇		

#### 支出

費目	豫算額	摘	要
固定資金(興業費)	六三、四五〇〇		

家畜費內譯

費目	數量	豫算額	摘要
乾那力小舍	一	二,二〇〇	
支那人苦力小舍	四	四,〇〇〇	
爪哇人苦力小舍	一	一,〇〇〇	
牛馬小舍	一	二,〇〇〇	
第一助手小舍	一	二,五〇〇	
助宿舍	一	二,五〇〇	
商店	一	九,〇〇〇	
合計		五二,三〇〇	

建物費內譯

費目	豫算額	摘要
差引利益金	四六,八六〇	一英加當,二百三十四盾三十仙

利益

費目	豫算額	摘要
建築費	五二,三〇〇	
器具費	八,九四〇	
家務費	二,二一〇	
諸事稅費	三七,六一〇	助手二人
雜給	一,二〇〇	
需用品	一,二〇〇	
通信用	一,三〇〇	
車輻集	四二〇	
苦力募差	一〇〇	油代
飯米	一六,〇〇〇	支那人百人,爪哇人五十人
衛生金	二,四〇〇	
家畜	七五〇	
建築	二,三四〇	一頭一箇月十五盾宛,十三頭分
雜物	一〇〇	
栽培費	三,八〇〇	
調製費	六五,二八〇	
栽培費	五三,二三〇	
豫備費	一一,〇〇〇	
豫備費	一〇,〇〇〇	
合計	一七六,三四〇〇	

費目	數量	①	豫算額	摘	要
金網代費			二五〇〇		
石油代費			二〇〇〇		
臭氣止劑石灰費			一〇〇〇		

需用品内譯

雜給費目	數量	①	豫算額	摘	要
雜給費計			一〇〇〇		郵便夫、番人、小使、土人書記
合計			二,二〇〇〇		

雜給内譯

地租	數量	①	豫算額	摘	要
其他稅金	四、〇〇〇英反		一〇〇〇		
合計			二,〇〇〇		

費目	數量	①	豫算額	摘	要
馬車購入	一	四一〇〇	四一〇〇		
牛車購入	六	二三〇〇	一,三八〇〇		
農具費			一,三八〇〇		
歷榨機	一	二,五〇〇	二,五〇〇		
事務所器具			三,四〇〇		
船室器具			二,五〇〇		
秤			五〇〇		
合計			八,九四〇〇		

諸稅内譯

器具費内譯

費目	數量	①	豫算額	摘	要
牛馬購入	一二	一七〇〇	二,〇四〇〇		
合計			二,二〇〇〇		

費目	數量	①	豫算額	摘	要
打伐木起	二〇〇英反	三〇八〇〇	六、一六〇〇〇		
道路、排水、橋梁	一〇〇	一三二〇〇	一、三二〇〇〇		
種子及肥料			二、二〇〇〇〇		
培養手入			六、〇〇〇〇〇		
摘葉及生葉吊費			二二、〇〇〇〇〇		
害虫捕獲費			五、五〇〇〇〇		
害蟲捕獲費			三、〇〇〇〇〇		
丸太費(乾燥室用)	三〇罐		二〇〇〇〇		
亞砒酸			八五〇〇〇		
粉碎具			一三〇〇〇		
竹桿(煙草乾燥用)		〇〇四	一、四〇〇〇〇		
葉煙草結束費			八五〇〇〇		
苦力頭給	一	一〇〇〇〇	一、二〇〇〇〇		
苦力小頭給	五	三〇〇〇〇	一、八〇〇〇〇		
乾燥室番人給	一四	〇〇〇〇	六二〇〇〇		
合計			五三、一三〇〇〇		

栽培調製費内譯

費目	數量	①	豫算額	摘	要
苦力祭日			一、〇〇〇〇〇		
建物火災保險			二、五〇〇〇〇		
煙草アラロン迄運賃			三、八〇〇〇〇		
合計			七、三〇〇〇〇		

雜費内譯

費目	數量	①	豫算額	摘	要
電報料			三〇〇〇〇		
郵稅			一、二〇〇〇〇		
合計			四、二〇〇〇〇		

通信費内譯

費目	數量	①	豫算額	摘	要
支那苦力頭用寢臺			二〇〇〇〇		
苦力用茶代			二〇〇〇〇		
文房具			三五〇〇〇		
合計			一、三〇〇〇〇		

調製費内譯

費目	數量	④	豫算額	摘	要
乾燥葉選別及結束費			六、〇〇〇		
葉受入、堆積、醱酵、荷造費			四、〇〇〇		
包裝英産煙草費			一、六〇〇		
煙草運搬籠費			三五〇		
包裝英産煙草用絲代			一〇〇		
合計			一二、五〇〇		

本豫算を以て現在之を行ふことは蓋し不可能なり。

- 一、建物費中乾燥室は一棟三、五〇〇盾を要すべし。支那人、爪哇人苦力舎に於ても一時的のものなれども五割方増額を見る必要あり。醱酵室兼選別室は二〇、〇〇〇—二五、〇〇〇盾を要すべし。更に支配人住宅約五、〇〇〇盾を計上せざるべからず。
- 二、事務所費中支配人給の脱記あり。約七、二〇〇盾を要す。其の他の費用に就ては差したる増減を見込む必要なるべし。
- 三、栽培費中打起費に於て、デリ地方の如く輪作地の場合には或は可ならんも、英反一五〇盾を見積らざるべからず。其の他の費用に就ては差したる増減を見ざるべしと雖二—三割方増を見込むを

安全なりとす。

- 四、調製費は總體を通じ三割方増を見る方可ならん。
- 五、収入に於て封度一盾五〇仙は、一九二六年度の各園の賣上値を見るに不良園にて一盾四一仙、最良園にて三盾九〇仙に取引されたるに鑑み、極めて安全率なりと云ふを得べし。

## 第十一章 土人煙草

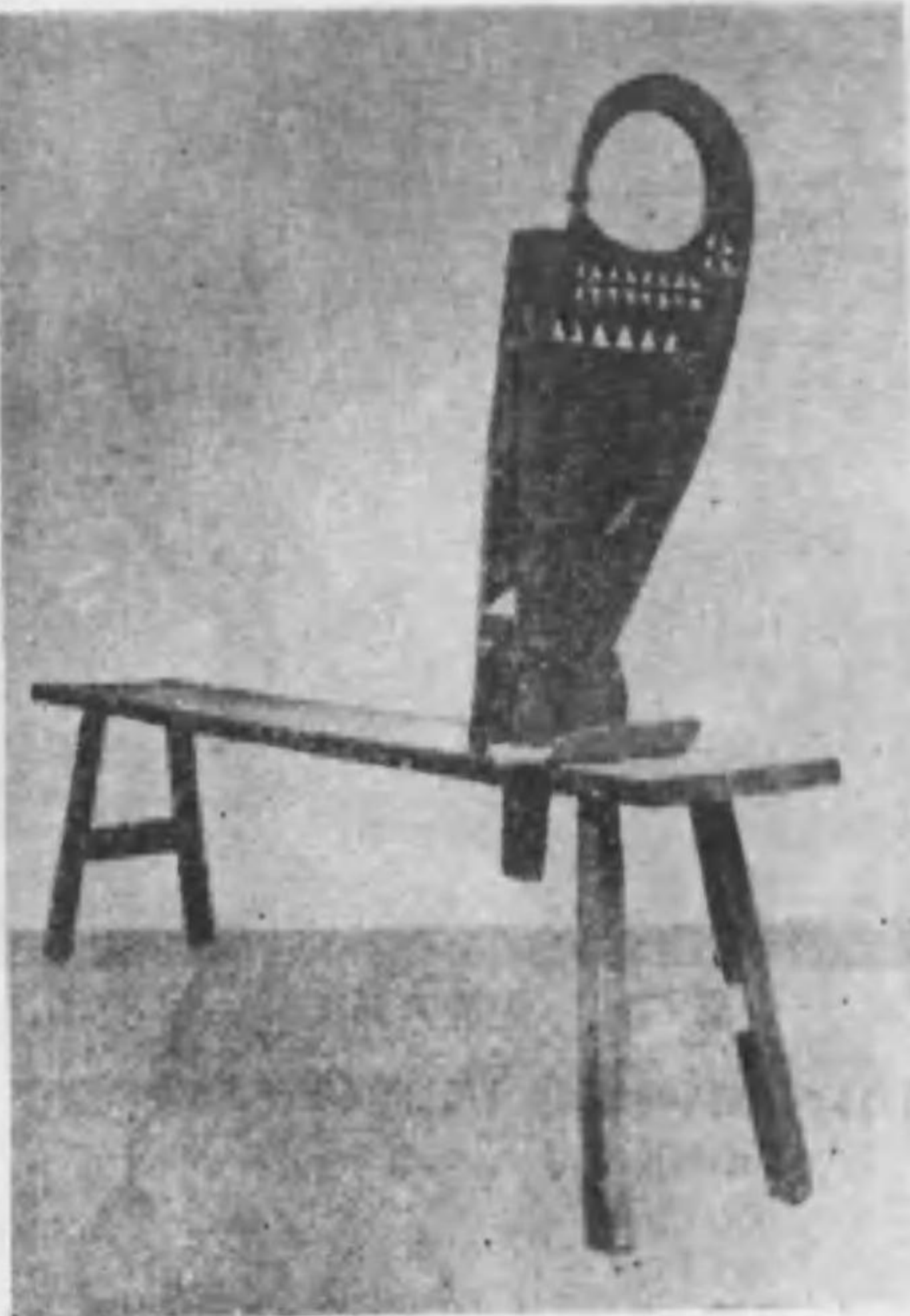
土人煙草とはスマトラ及爪哇地方の土人が栽培しつゝあるものにして、其の種類は種々なる變種あり。例へばデリ種の變種及ハバナ種より轉化せるカナリ種、又地方的のケヅー、バンニューマスなどの品種なり。

栽培方法はスマトラは粗放的にして爪哇は幾分集約的なり。先づスマトラの寒村に於ける栽培法を見るに、森林を伐木し焼拂ひを爲し、倒木の整理をも爲さず、又打起しをも爲さず、居宅の周圍にある畑地に播種せる草木を持來りて植付け、伸るがまゝに成長せしめて砂葉より天葉を掻き、殆んど全部を收納するものにして、全く原始的方法なれども、土地肥沃の爲め發育の旺盛なることは驚くの外なし。然して煙草は一回作限りにして其の跡地には陸稻を作り、そこを放棄して他に新たな地を求めて耕作すると云ふ方法にて、爪哇方面土人の模倣し得ざる暢氣なる栽培方法なり。

爪哇地方の土人煙草栽培は、スマトラ土人煙草に比し集約的方法なりと雖も、デリ地方の如き秩序的のものにあらず。又五領州地方の歐洲人栽培の如き集約的のものにあらず。爪哇土人の多くは畑

地或は水田を利用し栽培するものにして、従つて列を正し、畦を作り、歐洲人のそれの如く眞似、稍々見るべきものあり。又手入れに於ても收穫に於てもスマトラ土人に比し進歩發達し居るものと云ふべし。

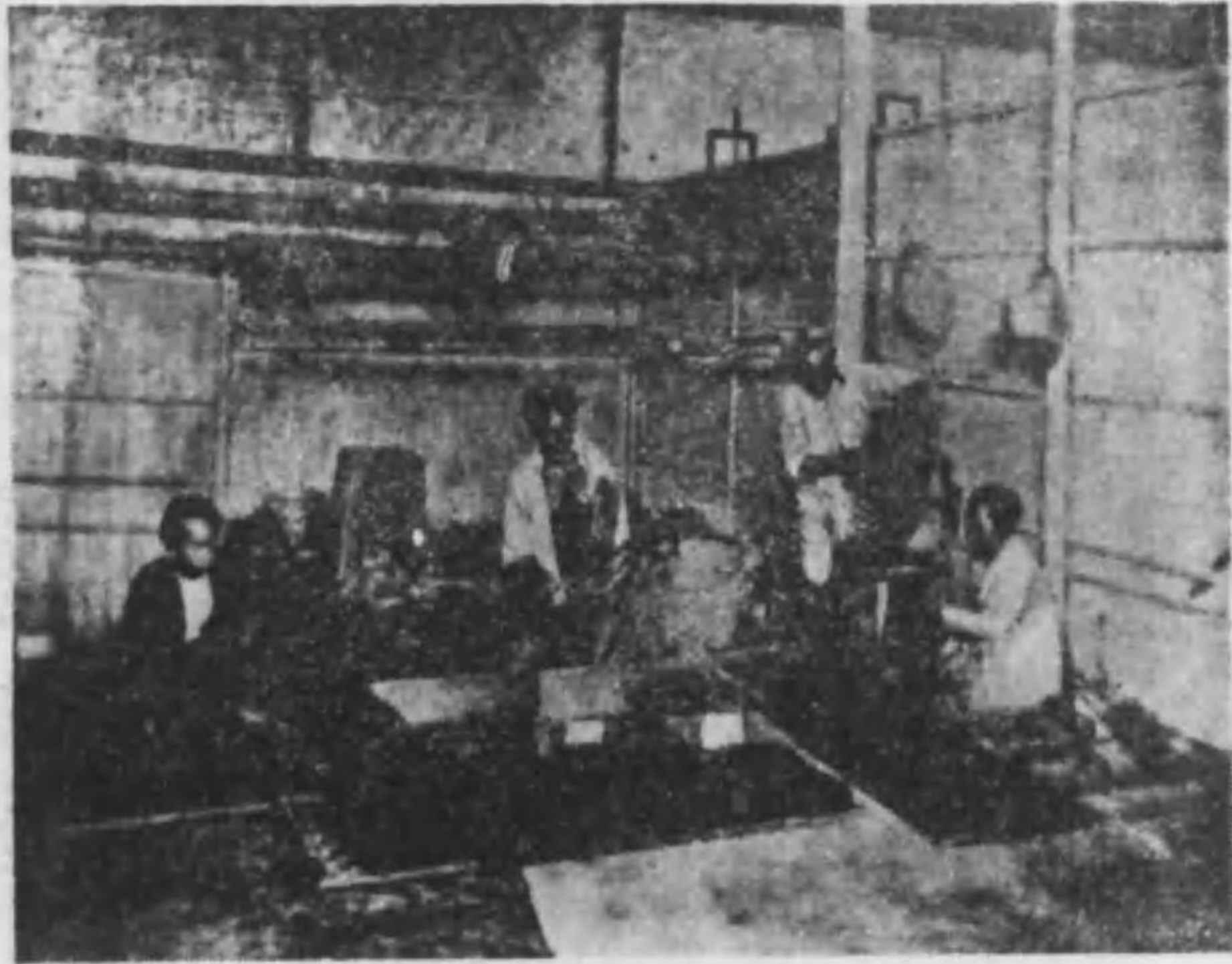
挿入寫眞 四四  
土人煙草刻み道具、土人はこれを "Tinjang" と呼ぶ  
(East Indianische Cultures より轉載)



更に彼等土人の中には外國人より煙草栽培を請負ひ、歐洲人に似たる栽培方法をも行ふものあり。而してスマトラ地方の土人煙草は殆んど土人用の刻み煙草にして、葉捲煙草に調製するものは極めて稀れなれども、爪哇土人の煙草はクロソツク (Krusok) と稱する葉卷填充用の内葉を多く産し、又土人用刻煙草俗に云ふ爪哇煙草を産出す。

爪哇煙草なる刻煙草は其の調製法スマトラ土人の刻煙草と同様にして、摘葉せるものは自家の屋内或は壁に沿うて吊し、稀には家の周りにある立木と立木とに繋ぎ、日光に曝すものあり、然し刻

煙草の多くは生葉のまま葉を合せて堆積醱酵せしめ、黄褐色を呈したる後ち刻むを常とす。堆積醱



五四 眞寫入挿

所るあゝつみ刻を草煙が人土てひ用をンヤチヤチ (一)  
(Oost indische Cultures より轉載)



りなのもるあゝつべ粒く薄に上の莖竹てみ刻を草煙が人土 (二)  
(Oost indische Cultures より轉載)

酵中は時々轉倒し、腐らざる様注意すること勿論にして、刻み方は寫真にあるが如き刻臺を用ひ、

大型の庖丁を以て刻むものにて、唯單に小片を以て押へ刻むものもあり。刻みたる煙草は竹製の莖  
或は籐製の莖に擴げ、日光にて乾燥す。

週日間日光の直射にて乾燥したるものは全く褐色に變じ、特殊の香と刺戟性を有するものなり。  
更にこれを或る容器に入れ醱酵せしむるもの或は爲さしめざるものありて、これを種々に包装し製  
品と爲す。

歐洲人農園にてタバコ除蟲液を作る場合、此の種のものを用ふ。本製品は支那人の手に購はれ地  
方的に或は支那方面へも輸出せらるゝものなり。土人はこれを嚼み或は Daoen Roko (檳榔樹の若き  
葉或は Nipha と稱する椰子科の新葉) に捲き込み喫煙するものなり。

### 第十二章 臺灣煙草

臺灣に於ける煙草は晩近著しく發達せるものならん。記者は大正一、二年頃より何より拔萃せるや記憶を失せしも、ノートの一隅にありたるものを參考として掲載すべし。

專賣局は臺灣の屏東に煙草耕作指導所を設け、屏東街公園の東方約二甲及び其の附近六甲計八甲の試験地を作り、葉捲煙草の試作を爲せるものゝ如く、且つ生蕃の精農家をして試作せしめ、大に指導に力めたる結果毎年二〇、〇〇〇斤の生産を見るに至りしとか。尙ほ海拔三、〇〇〇呎の高地にはマニラ種及ハバナ種等の試作を行ひ、優良品生産の見込み充分なるも耕作、乾燥、不完全なる爲め現在の處外國産に及ばずと聞けり。

これ大正十年頃の話なれば現時に於ては優秀なるものを産出しつゝあるにあらずやと思ふ。因に同年中、特等品三十六圓、普通品十五圓、下等八圓の割にて買收せられたりと云ふ。

聞く所に依れば當時の醱酵室は僅々二間四方位のものなりと云へば、醱酵作用の充分行はれざることは、デリ煙草システムに鑑み、充分知るを得べし。故に大正十五年頃までは尙試験時代を脱し

得ざるものなるべしと想像して誤りなかるべし。

尙ほ生産量に就ては左の記録を有す。

スマトラ種	一反當斤 二七六	一英反當封度 一、四七二
ハバナ種	二九六	一、五七九
マニラ種	二五七	一、三七七

熱帶地 煙草の栽培法 終  
に於ける



4136  
4  
47493

昭和四年七月二十五日印刷  
昭和四年七月二十八日發行

定價金壹圓參拾錢(送料共)

### 不許複製

著者	增淵佐平
發行者	伊藤憐之助
印刷人	穎川首
	臺北市東門町百五十八番地
	臺北市大正町二丁目三十七番地
	臺北市榮町四丁目三十二番地
	株式會社 臺灣日日新報社

發行所

臺灣總督府內

南洋協會臺灣支部

(構內電話八九番)

購入

衆議院  
17.1.28  
圖書館

2.50

終